
行田市・北本市・桶川市

船原・内郷通／内郷／窪

自転車歩行者道整備工事関係
埋蔵文化財発掘調査報告

2012

埼玉県

財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団



1 内郷第 12 次調査出土板碑



2 内郷第 12 次③区第 4 号溝跡出土内耳鍋



3 内郷第 12 次③区第 4 号溝跡出土宝篋印塔



4 内郷第 12 次③区
第 4 号溝跡出土板碑



5 内郷第 12 次③区
第 4 号溝跡出土板碑

ふなほら　うちごうどおり　うちごう　くぼ 船原・内郷通遺跡、内郷遺跡、窪遺跡の紹介

船原・内郷通遺跡、内郷遺跡は、埼玉古墳群が立地する台地の南端に位置します。縄文時代から中・近世に至るまでの遺構や遺物が発見されました。今回の調査で、奈良時代の堅穴住居跡たてあなじゆうきよあとが発見されたことから、この時期の集落が存在していたことがわかりました。また、中世にお墓の供養塔として立てられていた板碑いたひなどが、近世の井戸跡や溝跡に投棄された状態で発見されており、周辺に館跡が存在した可能性が考えられます。

窪遺跡は、大宮台地の西側を流れる荒川と支流の江川に挟まれた台地上に立地します。中・近世を主体とした遺跡で、土地を区画する溝跡などが発見されました。溝跡から古瀬戸が出土したことから、鎌倉時代まで遡る可能性もあります。

序

埼玉県では、県政運営の基本となる5か年計画「ゆとりとチャンスの埼玉プラン」を策定し、安心・安全なくらしを確保するため、交通安全の推進と安全な道路交通環境の整備を図っております。

一般県道騎西鴻巣線では、歩行者及び自転車の安全を確保のための自転車歩行者道整備工事、主要地方道さいたま鴻巣線では、交通量の増加に伴う渋滞の緩和及び歩行者・自転車の安全確保のための整備事業が行われることとなりました。

整備工事予定地には各々、窪遺跡、船原・内郷通遺跡、内郷遺跡があり、その取扱いについては、埼玉県教育局市町村支援部生涯学習文化財課が関係諸機関と慎重に協議を重ねてまいりましたが、やむを得ず発掘調査を実施し記録保存の措置を講ずることとなりました。発掘調査は埼玉県北本県土整備事務所、行田県土整備事務所の委託を受けて、当事業団が実施いたしました。

発掘調査の結果、縄文時代の土壌や奈良時代の住居跡、中・近世の土城・溝跡・井戸跡などが発見され、土器や陶磁器が出土しました。また、内郷遺跡では中世末から近世にかけての溝跡や井戸跡から板石塔婆が投棄された状態で発見され、遺跡の時代ごとの様相を知る上で貴重な成果を上げることができました。

本書は、これらの発掘調査の成果をまとめたものです。埋蔵文化財の保護、並びに普及・啓発の資料として、また学術研究の基礎資料として、広く活用いただければ幸いです。

本書の刊行にあたり、発掘調査の諸調整に御尽力いただきました埼玉県教育局市町村支援部生涯学習文化財課をはじめ、埼玉県県土整備部道路環境課・行田県土整備事務所・北本県土整備事務所、行田市教育委員会・北本市教育委員会・桶川市教育委員会並びに地元関係者の皆様に厚く感謝申し上げます。

平成24年3月

財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団
理事長 藤野龍宏

例言

1. 本書は船原・内郷通遺跡第20次、内郷遺跡第11次～13次、窪遺跡第1次の発掘調査報告書である。
2. 遺跡の略号と代表地番及び発掘調査届に対する指示通知は、以下のとおりである。

内郷遺跡（UTG11次）
行田市波柳451-1番地他
平成22年4月16日付け 教生文第2-3号

船原・内郷通遺跡（FNHR・UTGTORI20次）
行田市波柳452-1番地他
平成22年4月16日付け 教生文第2-4号

内郷遺跡（内郷12）
行田市波柳634-4番地他
平成22年10月4日付け 教生文第2-36号

内郷遺跡（UTG13次）
行田市波柳638-1番地他
平成23年5月13日付け 教生文第2-9号

窪遺跡（窪）
北本市石戸宿1丁目427外
平成21年8月4日付け 教生文第2-24号

桶川市川田谷6569
平成21年8月10日付け 教生文第2-27号
3. 発掘調査は、道路整備工事に伴う埋蔵文化財記録保存のための事前調査で、埼玉県教育局市町村支援部生涯学習文化財課が調整し、埼玉県の委託を受け、財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団が実施した。
4. 委託事業名は以下のとおりである。

窪遺跡発掘調査（平成21年度）
「主要地方道さいたま鴻巣線整備事業地内埋蔵文化財発掘調査」
内郷遺跡11・13次発掘調査（平成22・23年度）
「自転車歩行者道整備工事（埋蔵文化財発掘調査業務委託）」
内郷遺跡第12次発掘調査（平成22年度）
「地方特定道路（交通安全）整備工事（埋蔵文化財発掘調査業務委託）」
整理報告書刊行（平成23年度）
「自転車歩行者道整備工事（埋蔵文化財発掘調査（整理）業務委託）」
5. 発掘調査・整理報告書作成事業はI-3に示した組織により実施した。

発掘調査は、窪遺跡を平成21年8月3日から平成21年9月30日まで木戸春夫、大和田暁、船原・内郷通遺跡、内郷遺跡を平成22年4月1日から平成22年5月14日まで富田和夫・山本禎、平成22年10月1日から平成23年1月31日まで細田勝、木戸春夫、平成23年4月1日から4月15日まで瀧瀬芳之・田中広明が担当し、実施した。
整理報告書作成事業は山本が担当し、平成23年10月1日から平成24年1月31日まで実施した。平成24年3月23日に埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第388集として印刷・刊行した。
6. 発掘調査における基準点測量は、窪遺跡は株式会社末央測地設計、船原・内郷通遺跡、内郷遺跡は有限会社ジオプランニング、吉田測量設計株式会社に委託した。
7. 発掘調査における窪遺跡の空中写真撮影は株式会社G I S 関東所に委託した。
8. 発掘調査における写真撮影は、各担当者が行った。整理・報告書作成における出土遺物の撮影は山本が行った。
9. 出土品の整理・図版作成は山本が行い、木戸春夫の協力を受けた。

10. 本書の執筆は、I-1を埼玉県教育局市町村支援部生涯学習文化財課が行い、石器を西井幸雄が、縄文土器を渡辺清志が、その他を山本が行った。
11. 本書の編集は山本が行った。
12. 本書にかかる諸資料は、平成24年2月以降、

埼玉県教育委員会が管理・保管する。

13. 発掘調査や本書の作成にあたり、行田市教育委員会・北本市教育委員会・桶川市教育委員会をはじめ、関係機関の皆様からご教示・ご協力を賜った。記して感謝いたします。(敬称略)
栗岡真理子 諸岡勝 嵐山史跡の博物館

凡 例

1. 遺跡全体におけるX・Yの座標は、世界測地系、国家標準平面直角座標第IX系（原点北緯36°00′00″、東経139°50′00秒）に基づく座標値を示す。また、各挿図に記した方位は、全て座標北を指す。

船原・内郷通遺跡、内郷遺跡

H-16グリッドの北西杭の座標値は

X=12670.000m、Y=-31750.000m

窪遺跡

D-2グリッドの北西杭の座標値は

X=1020.000m、Y=-28370.000m

なお、各挿図に記した方位は、全て座標の座標北を指す。

2. 調査で使用したグリッドは、国土標準平面直角座標に基づく10m×10mの範囲を基本（1グリッド）とし、調査区全体をカバーする方眼を組んだ。
3. グリッド名称は、北西隅を基点とし、北から南方向にアルファベット（A・B・C…）、西から東方向に数字（1・2・3…）を付し、アルファベットと数字を組み合わせ、例えばB-3グリッド等と呼称した。
4. 本書の本文・挿図・表・写真図版に記した遺構の略号は、以下のとおりである。

S J…住居跡 S X…堅穴状遺構

S K…土壇 S E…井戸跡

S D…溝跡 P…ピット

5. 本書における挿図の縮尺は、以下のとおりである。一部例外があるが、各挿図の縮尺を参照されたい。

全体図 1：200

住居跡・土壇・井戸跡 1：60

溝跡（遺構図） 1：80

（土層断面図） 1：40

中・近世土器、陶磁器 1：3

石器 2：3 縄文土器拓影図 1：3

土師器・須恵器 1：4 板碑 1：8

6. 土器・陶磁器観察表の表記方法は、以下のとおりである。

胎土は含まれる鉱物等のうち、特徴的なものを示した。

A：赤色粒子 B：白色粒子 C：長石 D：

角閃石 E：石英 F：雲母 G：黒色粒子

H：白色針状物質 I：片岩 J：砂粒子

K：小礫

焼成は良：良好 普：普通 不：不良

色調は、全て農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版 標準土色帖』による。

7. 遺構断面図に記した水準数値は、すべて海拔標高（単位m）を示す。

8. 本書の地形図は、国土地理院発行1/50000、行田市都市計画図1/2500を使用した。

目次

巻頭図版

序

例言

凡例

目次

I 発掘調査の概要	1	(1) 竪穴状遺構	40
1. 発掘調査に至る経過	1	(2) 土壌	40
2. 発掘調査・報告書作成の経過	2	(3) 井戸跡	41
3. 発掘調査・報告書作成の組織	3	(4) 溝跡	41
II 遺跡の立地と環境	4	5. 第12次④区の遺構と遺物	48
1. 地理的環境	4	(1) 住居跡	48
2. 歴史的環境	5	(2) 掘立柱建物跡	48
III 遺跡の概要	7	(3) 土壌	51
IV 船原・内郷通遺跡	9	(4) 井戸跡	55
1. 遺構と遺物	9	(5) 溝跡	55
(1) 住居跡	9	6. 第12次⑤区の遺構と遺物	57
(2) 土壌	9	7. 第12次⑥区の遺構と遺物	58
(3) 溝跡	12	(1) 土壌	58
(4) ビット	13	(2) 溝跡	60
(5) その他の遺物	13	8. 第12次のその他の遺物	61
V 内郷遺跡	14	9. 第13次の遺構と遺物	62
1. 第11次の遺構と遺物	14	(1) 土壌	62
(1) 土壌	14	(2) 井戸跡	63
(2) 溝跡	14	VI 窪遺跡	64
(3) ビット	15	1. 遺跡の立地と環境	64
2. 第12次①区の遺構と遺物	17	(1) 地理的環境	64
(1) 土壌	17	(2) 歴史的環境	64
(2) 井戸跡	17	2. 遺跡の概要	65
(3) 溝跡	17	3. 遺構と遺物	66
3. 第12次②区の遺構と遺物	21	(1) A区	66
(1) 土壌	21	(2) B区	75
(2) 井戸跡	28	(3) C区	76
(3) 溝跡	31	VII 調査のまとめ	81
4. 第12次③区の遺構と遺物	40	写真図版	

挿 図 目 次

第1図	埼玉県の地形	4	第30図	②区第6号井戸跡出土板碑(2)	28
第2図	周辺の遺跡分布	6	第31図	②区溝跡(1)	30
第3図	遺跡位置図	7	第32図	②区溝跡(2)	31
第4図	調査区全体図	8	第33図	②区溝跡(3)	32
船原・内郷通遺跡			第34図	②区溝跡(4)	33
第5図	船原・内郷通遺跡全体図	9	第35図	②区溝跡(5)	34
第6図	第1号住居跡	10	第36図	②区溝跡(6)	35
第7図	第1号住居跡・第2号溝跡出土遺物	10	第37図	②区溝跡(7)	36
第8図	土壌	10	第38図	②区溝跡出土遺物	37
第9図	溝跡	11	第39図	②区溝跡・遺構外出土遺物	38
第10図	ビット	11	第40図	内郷遺跡12次③区全体図	40
第11図	その他の遺物	13	第41図	③区竪穴状遺構	41
内郷遺跡			第42図	③区土壌(1)	42
第12図	内郷遺跡11次全体図	14	第43図	③区土壌(2)	43
第13図	土壌	15	第44図	③区井戸跡	43
第14図	溝跡	16	第45図	③区溝跡(1)	44
第15図	ビット	17	第46図	③区溝跡(2)	45
第16図	内郷遺跡12次①区全体図	18	第47図	③区第4号溝跡遺物出土状況	46
第17図	①区井戸跡	18	第48図	③区第4号溝跡遺物出土遺物(1)	46
第18図	①区土壌	19	第49図	③区第4号溝跡遺物出土遺物(2)	47
第19図	①区溝跡・グリッド出土遺物	19	第50図	内郷遺跡12次④区全体図	49
第20図	①区溝跡(1)	20	第51図	④区第1号住居跡	50
第21図	①区溝跡(2)	21	第52図	④区第1号住居跡出土遺物	51
第22図	内郷遺跡12次②区全体図	22	第53図	④区第2号住居跡	51
第23図	②区土壌(1)	23	第54図	④区第1号掘立柱建物跡	52
第24図	②区土壌(2)	24	第55図	④区土壌(1)	53
第25図	②区土壌・井戸跡出土遺物	24	第56図	④区土壌(2)	54
第26図	②区井戸跡(1)	25	第57図	④区土壌(3)	55
第27図	②区井戸跡(2)	26	第58図	④区第1号井戸跡	55
第28図	②区第4・6井戸跡出土遺物	26	第59図	④区土壌・井戸跡出土遺物	55
第29図	②区第6号井戸跡出土板碑(1)	27	第60図	④区溝跡	56
			第61図	内郷遺跡12次⑤区全体図	57

第62図	内郷遺跡12次⑥区全体図	58	第73図	A区全体図(1)	67
第63図	⑥区土壌	59	第74図	A区全体図(2)	68
第64図	⑥区第1・2号溝跡	60	第75図	土壌	70
第65図	⑥区第3号溝跡	60	第76図	溝跡	72
第66図	出土遺物	61	第77図	竪穴状遺構	73
第67図	その他の出土遺物	62	第78図	B区全体図・ピット	75
第68図	内郷遺跡13次上面	62	第79図	C区全体図	76
第69図	内郷遺跡13次中面	63	第80図	土壌	76
第70図	内郷遺跡13次下面	63	第81図	溝跡(1)	78
窪遺跡			第82図	溝跡(2)	79
第71図	周辺の地形と遺跡	64	第83図	出土遺物	80
第72図	窪遺跡調査区全体図	65			

表 目 次

船原・内郷遺跡

第1表	第1号住居跡・第2号溝跡 出土遺物観察表	10
第2表	ピット計測表	13
第3表	船原・内郷遺跡遺構新旧対照表	14

内郷遺跡

第4表	①区第1号溝跡・グリッド 出土遺物観察表	21
第5表	②区井戸跡出土遺物観察表	24
第6表	②区溝跡出土遺物観察表	39
第7表	②区溝跡・遺構外出土遺物観察表	39
第8表	③区第4号溝跡出土遺物観察表	47

第9表	③区第4号溝跡出土遺物観察表	48
第10表	④区第1号住居跡出土遺物 観察表	51
第11表	④区土壌・井戸跡出土遺物 観察表	57
第12表	④区土壌計測表	57
第13表	④区溝跡計測表	57
窪遺跡		
第14表	A区ピット計測表	74
第15表	B区ピット計測表	75

写真図版目次

- 巻頭図版 1 内郷第12次調査出土板碑
2 内郷第12次③区第4号溝跡出土内耳鍋
3 内郷第12次③区第4号溝跡出土宝篋印塔
4 内郷第12次③区第4号溝跡出土板碑
5 内郷第12次③区第4号溝跡出土板碑
- 船原・内郷通遺跡
- 図版1 1 調査区全景（東から）
2 調査区全景（西から）
3 第1号住居跡
4 第1号住居跡遺物出土状況（1）
5 第1号住居跡遺物出土状況（2）
6 第1号土壌
7 第3号土壌
8 第4号土壌
- 図版2 1 第3号溝跡
2 A-30グリッドビット1・2
3 A-30グリッドビット3
4 B-30グリッドビット4・7
5 B-30グリッドビット6
6 C-28グリッドビット2
7 C-28グリッドビット3
8 C-26グリッドビット1
- 内郷遺跡
- 図版3 1 調査区全景（東から）
2 調査区全景（西から）
3 第1号土壌
4 第1号溝跡
5 第2号溝跡
6 第3号溝跡・第1号土壌
7 第4号溝跡
- 図版4 1 ①区調査区全景（東から）
2 ①区調査区全景（西から）
3 ①区第1号井戸跡
4 ①区第1・3号溝跡
5 ②区調査区全景（西から）
6 ②区調査区全景（東から）
7 ②区東側調査区全景（西から）
8 ②区第1号土壌
- 図版5 1 ②区第4号土壌
2 ②区第9号土壌
3 ②区第1号井戸跡
4 ②区第2号井戸跡
5 ②区第3号井戸跡
6 ②区第4号井戸跡
7 ②区第5号井戸跡
8 ②区第6号井戸跡
- 図版6 1 ②区第7号井戸跡
2 ②区第1号溝跡
3 ②区第5号溝跡
4 ②区第6号溝跡
5 ②区第7号溝跡
6 ②区第11号溝跡
7 ②区第12・13号溝跡
8 ②区第15号溝跡
- 図版7 1 ③区調査区全景（東から）
2 ③区第2・3号土壌
3 ③区第4・5号土壌
4 ③区第6号土壌
5 ③区第4号溝跡遺物出土状況（1）
6 ③区第4号溝跡遺物出土状況（2）
7 ③区第4号溝跡遺物出土状況（3）
8 ④区調査区中央全景（東から）
- 図版8 1 内郷12次④区東端調査区全景（西

	から)				
	2	内郷12次④区西端調査区全景 (西から)			②区第4号井戸跡出土遺物 (第28図1)
	3	内郷12次④区第1号住居跡			②区第6号井戸跡出土遺物 (第29図3)
	4	内郷12次④区第1号掘立柱建物跡			②区第6号井戸跡出土遺物 (第29図4)
	5	内郷12次④区第14号土壇			
	6	内郷12次④区第1号溝跡			
	7	内郷12次⑥区調査区全景 (西から)	図版11	1	②区第6号井戸跡出土遺物 (第30図5)
	8	内郷遺跡13次調査区全景 (東から)		2	②区第6号井戸跡出土遺物 (第30図6)
図版9	1	船原・内郷通20次第1号住居跡出土遺物 (第7図1)		3	②区第6号井戸跡出土遺物 (第30図7)
	2	内郷12次②区第12号土壇出土遺物 (第25図6)		4	②区第6号井戸跡出土遺物 (第29図1)
	3	内郷12次②区第3号井戸跡出土遺物 (第25図1)		5	②区第6号井戸跡出土遺物 (第29図2)
	4	内郷12次②区第3号井戸跡出土遺物 (第25図2)	窪遺跡		
	5	内郷12次②区第4号井戸跡出土遺物 (第25図3)	図版12	1	A区全景 (北から)
	6	内郷12次②区第6号井戸跡出土遺物 (第25図4)		2	A区第1号土壇
	7	内郷12次②区第5号溝跡出土遺物 (第38図1)		3	A区第2号土壇
	8	内郷12次②区第11号溝跡出土遺物 (第38図17)		4	A区第4号土壇
	9	内郷12次②区第12号溝跡出土遺物 (第38図18)		5	A区第5号土壇
				6	A区第6号土壇
				7	A区第7号土壇
				8	A区第8号土壇
			図版13	1	A区第9号土壇
				2	A区第12号土壇
				3	A区第13号土壇
図版10	1	②区遺構外出土遺物 (第39図4)		4	A区第14号土壇
	2	③区第4号溝跡出土遺物 (第48図6)		5	A区第15号土壇
	3	④区第1号住居跡出土遺物 (第52図4)		6	A区第20号土壇
	4	④区第19号土壇出土遺物 (第59図2)		7	A区第2号溝跡
	5	②区第6号井戸跡出土遺物 (第28	図版14	1	B区全景 (北から)
				2	B区V-3グリッドピット2~9

- | | | | |
|------|-----------------------|---|----------------|
| 3 | B区W-3グリッド
ビット1~4・6 | 2 | 出土遺物(2) (第83図) |
| 4 | B区W-3グリッド ビット5 | 3 | 出土遺物(3) (第83図) |
| 5 | C区全景(北から) | 4 | 出土遺物(4) (第83図) |
| 6 | C区全景(南から) | 5 | 出土遺物(5) (第83図) |
| 7 | C区第23号土壌 | 6 | 出土遺物(6) (第83図) |
| 8 | C区第8~10号溝跡 | 7 | 出土遺物(7) (第83図) |
| 図版15 | 1 出土遺物(1) (第83図) | 8 | 出土遺物(8) (第83図) |

I 発掘調査の概要

1. 発掘調査に至る経過

埼玉県では、円滑な道路交通を実現させるため、体系的な道路網の整備と総合的な交通渋滞対策を推進している。

埼玉県教育局市町村支援部生涯学習文化財課では、県が実施するこうした公共開発事業に係る埋蔵文化財の保護について、従前より関係部局と事前協議を重ね、調整を図ってきたところである。

【一般県道新堀尾島線地方特定道路（交通安全整備事業）内郷遺跡、船原・内郷通遺跡

事業に先立ち、行田県土整備事務所長から平成21年8月25日付け行整第574号で、埋蔵文化財の所在の有無及び取り扱いについて、生涯学習文化財課長あて照会があった。

それに対して生涯学習文化財課は、工事計画の進捗に応じて、平成21年11月12～13日に遺跡所在及び範囲等確認のための試掘調査を実施した。その結果、埋蔵文化財の所在が確認されたことから、平成21年11月19日付け教文第1526-1号で、工事計画上やむを得ず現状を変更する場合には、記録保存のための発掘調査を実施し、狭小な範囲については工事実施時に立会調査に応じるよう回答を行った。

その後、行田県土整備事務所と生涯学習文化財課・行田市教育委員会は、その取り扱いについて協議を重ねたが、現状保存が困難であることから、記録保存の措置を講ずることになった。

埼玉県知事からの文化財保護法第94条第1項の規定に基づく発掘通知及び財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団理事長からの第92条第1項の規定に基づく発掘調査届に対する県教育委員会教育長からの勧告及び指示通知は次のとおりである。

発掘通知に対する勧告：

平成21年6月12日付け教文第4-200号
発掘調査届に対する指示通知：

○内郷遺跡

平成22年4月16日付け教文第2-3号

平成22年10月4日付け教文第2-36号

平成23年5月13日付け教文第2-9号

○船原・内郷通遺跡

平成22年4月7日付け教文第2-4号

【主要地方道さいたま鴻巣線整備事業】窪遺跡

北本県土整備事務所長から、平成20年3月7日付け北整第1112号、平成21年6月1日付け北整第1145号で、埋蔵文化財の所在及びその取扱いについて、生涯学習文化財課長あて照会があった。

生涯学習文化財課では、平成20年3月28日、平成21年5月7日に試掘調査を行い、埋蔵文化財の所在が確認されたことから、平成20年4月10日付け教文第123-1号、平成21年6月1日付け教文第416号で、工事計画上やむを得ず現状を変更する場合には、記録保存のための発掘調査を実施するよう回答を行った。

その後、北本県土整備事務所と生涯学習文化財課で、その取扱いについて協議を行ったが、現状保存が困難であることから、記録保存の措置を講ずることになった。

埼玉県知事からの文化財保護法第94条第1項の規定に基づく発掘通知及び財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団理事長からの第92条第1項の規定に基づく発掘調査届に対する県教育委員会教育長からの勧告及び指示通知は次のとおりである。

発掘通知に対する勧告：

平成21年7月15日付け教文第4-338号

発掘調査届に対する指示通知：

平成21年8月4日付け教文第2-24号

平成21年8月10日付け教文第2-27号

(生涯学習文化財課)

2. 発掘調査・報告書作成の経過

(1) 発掘調査

窪遺跡の調査は、主要地方道さいたま鴻巣線整備工事に先立ち、平成21年8月3日から平成21年9月30日まで行った。調査面積は588㎡である。4月初旬に安全対策の囲柵をした後、重機による表土除去作業を開始した。表土除去後、人力による遺構確認を行い、各遺構の精査を開始した。順次土層断面図・平面図・遺物出土状況図を作成し、遺構の写真撮影を行った。遺構精査の終了に伴い、調査区の全景等の写真撮影を行った。9月下旬に遺物・器材の搬出・事務手続きを行い、全ての調査を終了した。

船原・内郷通遺跡、内郷遺跡の調査は自転車歩行者道路整備工事に先立ち、平成22年度から平成23年度にかけて断続して行われた。船原・内郷通遺跡（第20次）、内郷遺跡（第11次）は、平成22年3月29日から平成22年5月14日まで、内郷遺跡（第12次）は平成22年10月1日から平成23年1月31日まで、内郷遺跡（第13次）は平成23年4月1日から4月19日まで実施した。調査面積は総計で2,167㎡である。

船原・内郷通遺跡（第20次）、内郷遺跡（第11次）は、4月初旬に安全対策の囲柵をした後、重機による表土除去作業を開始した。表土除去後、人力による遺構確認を行い、各遺構の精査を開始した。順次土層断面図・平面図・遺物出土状況図を作成し、また、遺構ごとの写真撮影を行った。遺構精査の終了に伴い、調査区の全景等の写真撮影を行った。5月中旬に調査区の埋め戻しを行い、遺物・器材の搬出・事務手続きを行い、全ての調査を終了した。

内郷遺跡（第12次）の調査は、10月初旬に安全対策の囲柵をした後、地区ごとに表土除去後、人力による遺構確認を行い、各遺構の精査を開始した。遺構は順次土層断面・平面図・遺物出土状況図を作成し、遺構ごとの写真撮影を行った。遺

構精査の終了に伴い、調査区ごとの全景等の写真撮影を行った。平成23年1月下旬に埋め戻しを完了し、遺物・器材の搬出・事務手続きを行い、全ての調査を終了した。

内郷遺跡（第13次）調査は、平成23年4月初旬に安全対策の囲柵をした後、重機による表土除去作業を開始した。表土除去後、人力による遺構確認を行い、各遺構の精査を開始した。遺構は順次土層断面図・平面図・遺物出土状況図を作成し、また、遺構ごとに土層断面・遺物出土状況・遺構の写真撮影を行った。4月中旬には、遺構精査の終了に伴い、調査区の全景等の写真撮影を行った。調査区の埋め戻しを行い、遺物・器材の搬出・事務手続きを行い、全ての調査を終了した。

(2) 整理報告書作成

上記の調査に係る整理報告書の作成事業は、平成23年10月1日から平成24年1月31日まで実施した。

作業は出土遺物の水洗・注記の後、直ちに接合復元を開始した。復元を終えた遺物は、順次実測をし、破片は断面実測を行い採扱した。

実測図・断面図をトレースし、遺物実測図、断面と拓本を組み合わせた遺物を1点ずつスキャナーでコンピューターに取り込み、画像編集ソフトで遺構ごとに遺物図・遺物番号・スケールなどを貼り込み、印刷用の遺物図版を作成した。

12月中旬には、図版用の遺物をデジタルカメラで撮影し、報告書掲載写真の選択を行った。同時に、発掘調査で撮影したデジタル写真から、報告書掲載用の写真を選択し、画像編集ソフトで写真図版を作成し、編集を行った。

発掘調査で記録した遺構断面図や平面図などは、照合・修正を加えて第二原図を作成した。第二原図で遺構図の版組を行い、スキャナーでコンピューターに取り込んだ。その後、画像編集ソフトを用いて版ごとにトレースし、土層説明などのデー

タを組み込み、印刷用の図版を作成した。

平成24年1月下旬までに原稿執筆を終え、報告書の編集を行った。その後、印刷業者を選定して入稿した。

3回の校正を経て、平成24年3月下旬に報告書

を刊行した。

なお、図面や写真などの記録類や遺物は、1月末に整理・分類の上、埼玉県文化財収蔵施設の収蔵庫へ収納した。

3. 発掘調査・報告書作成の組織

平成21年度（発掘調査）

理事長	刈部博	調査部	
常務理事兼総務部長	萩本信隆	調査部長	小野美代子
総務部		調査部副部長	磯崎一
総務部副部長	昼間孝志	調査第二課長	細田勝
総務課長	田中雅人	主査	木戸春夫
		主査	大和田暁

平成22年度（発掘調査）

理事長	藤野龍宏	調査部	
常務理事兼総務部長	萩本信隆	調査部長	小野美代子
総務部		調査部副部長	昼間孝志
総務部副部長	金子直行	主幹兼調査第一課長	富田和夫
総務課長	田中雅人	調査第二課長	細田勝
		主査	山本禎
		主査	木戸春夫

平成23年度（発掘調査）

理事長	藤野龍宏	調査部	
常務理事兼総務部長	根本勝	調査部長	小野美代子
総務部		調査部副部長	剣持和夫
総務部副部長	金子直行	主幹兼調査第二課長	瀧瀬芳之
総務課長	矢島将和	主査	田中広明

平成23年度（報告書作成）

理事長	藤野龍宏	調査部	
常務理事兼総務部長	根本勝	調査部長	小野美代子
総務部		調査部副部長	剣持和夫
総務部副部長	金子直行	主幹兼整理第一課長	細田勝
総務課長	矢島将和	主査	山本禎

II 遺跡の立地と環境

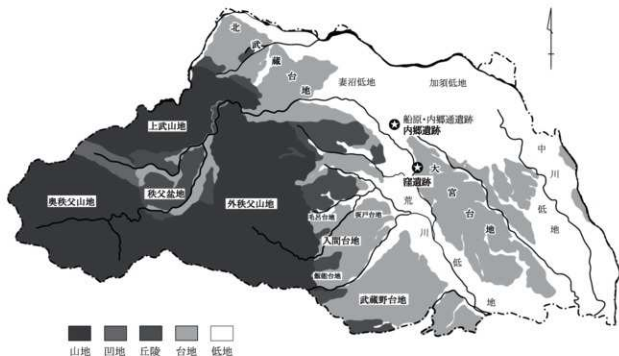
1. 地理的環境

船原・内郷通遺跡、内郷遺跡は、秩父鉄道行田市駅の南東約4kmの行田市渡柳に所在する。遺跡の北側約1kmには埼玉古墳群が位置する。埼玉古墳群は、武蔵国造累代の墓域と言われ、稲荷山古墳から出土した国宝「金錯銘鉄剣」は全国的にも著名である。

地形的には広大な関東平野の一角にあり、西部地域は秩父山地を中心とした山地と山地東縁から派生する丘陵や台地からなる。東部地域は利根川によって形成された妻沼低地・加須低地、荒川によって形成された荒川低地が広がっている。両低地に囲まれた地域には大宮台地が南北方向に伸び

ている。行田市域は大宮台地北西縁部にあたり、また、利根川と荒川が最も接近する地域である。関東造盆地運動の影響による地盤沈下と、河川の堆積作用の進行などにより、ローム台地が埋没し、沖積低地との比高差が非常に少ない点が特色である。

遺跡は、標高18mの大宮台地上に立地する。遺跡の北側1kmに位置する埼玉古墳群の立地するローム低台地から、分岐して南へ延びる小支台の南端に形成されている。台地周囲の低地との比高差は1m前後と僅かで、一見自然堤防と見誤るような微高地上の景観を示している。



第1図 埼玉県の地形

2. 歴史的環境

行田市域では旧石器時代の遺跡の調査例はほとんどなく、後に馬場裏遺跡(12)に包括される長野中学校内遺跡から削器・細石核が採集されているにすぎない。大宮台地北端に目を向けても鴻巣市新屋敷遺跡や中三谷遺跡などでナイフ形石器を主体とする石器群が発見されているのみである。

縄文時代では、小針遺跡(20)で早期の集石群が発見された。馬場裏遺跡では特に関山式期の竪穴住居が多く発見されているほか、前期末から後期の遺構も検出されている。埼玉古墳群周辺の瓦塚古墳西側隣接地、原遺跡(3)、船原・内郷通遺跡(2)、築道下遺跡(10)などでも、中期から後期の遺物が発見されているが、遺構は発見されていない。船原・内郷通遺跡では後期の竪穴状遺構が検出されている。

弥生時代の遺跡は、池上遺跡(19)、小敷田遺跡(18)が著名である。さらに西方の熊谷市北島遺跡では中期後半の集落ととも、水田跡・水路跡・堰跡などが発見された。

古墳時代に入ると遺跡数は増え、澗池遺跡(5)、武良内遺跡(6)から和泉期の住居跡と前期の方形周溝墓が検出されている。高畑遺跡(7)では、和泉期から鬼高期の住居跡と和泉期の方形周溝墓が検出されている。渡柳陣馬遺跡(4)、長野神明遺跡(11)、柳坪遺跡(13)、白鳥田遺跡(15)、北大竹遺跡(16)、小敷田遺跡などで、前期から中期の集落や方形周溝墓などが調査されている。古墳時代後期になると、大規模集落の成立とともに遺跡数は増え、小針遺跡、築道下遺跡、袋・台遺跡(9)、池守遺跡(14)などが知られている。

古墳群の様相については、埼玉古墳群(27)では辛亥銘鉄剣を出土した稲荷山古墳や、將軍山古墳・中の山古墳などの前方後円墳が築造されている。周辺には白山(26)、若王子(28)、小見

(24)、新郷(33)、大稲荷(32)、斎条(29)、酒巻(31)、中条(30)などの古墳群が6世紀前半から7世紀前半を中心に築造されている。

奈良・平安時代の遺跡は、池上遺跡、小敷田遺跡、柳坪遺跡、北大竹遺跡、原遺跡、愛宕通遺跡、下埼玉通遺跡、馬場裏遺跡、白鳥田遺跡、野合遺跡(8)、築道下遺跡などが調査されている。小敷田遺跡からは、藤原宮期の出挙を記した木簡が出土しており、群衙またはそれに付属する施設との関連性が指摘されている。また、築道下遺跡では、7世紀後半大規模な掘立柱建物群が営まれており、水上交通の要衝に位置する埼玉郡内の中核的な集落の一つと言える。

この他に寺院として旧盛徳寺廃寺(17)があり、8世紀末の重慶文軒平瓦や9世紀後半の単弁四葉丸瓦などが出土し、境内には円形の柱座の造り出しを有する礎石が現存している。また、旧盛徳寺廃寺の北方の水田の中から「矢作私印」と記された大和古印が出土している。

平安時代末から中世になると、武蔵七党や在地武士団に関係すると考えられる館跡が多数知られているが、実態が判明しているものはほとんどない。行田市付近には、久下、忍、河原、長野、行田、麻績、波柳、広田、野、津の戸、笠原、真名板、多賀谷など数多くの氏が割拠していたことが知られ、現在もその本質地と考えられる地名や館の伝承が残されている。中世の遺跡では、築道下遺跡で13・14世紀代の区画溝を有する墓跡が検出され、板碑・蔵骨器・埋納焼骨が出土している。長野神明遺跡では、二重の構堀を巡らした館跡が発見され、外堀から500枚を超える多量の柿葺が出土している。また、内郷遺跡第1次調査で渡柳館跡の一部と推定される堀が検出されている。



- 1 内郷遺跡 2 船原・内郷通遺跡 3 原遺跡 4 波柳陣馬遺跡 5 湧池遺跡 6 武良内遺跡 7 高畑遺跡 8 野合遺跡 9 袋・台遺跡 10 築道下遺跡 11 長野神明遺跡 12 馬場裏遺跡 13 柳坪遺跡 14 池守遺跡 15 白鳥田遺跡 16 北大竹遺跡 17 旧城徳寺廃寺 18 小敷田遺跡 19 池上遺跡 20 小針遺跡 21 小見真観寺古墳 22 地蔵塚古墳 23 八幡山古墳 24 小見古墳群 25 若小玉古墳群 26 白山古墳群 27 埼玉古墳群 28 若王子古墳群 29 斎条古墳群 30 中条古墳群 31 酒巻古墳群 32 大穂荷古墳群 33 新郷古墳群 34 忍城跡

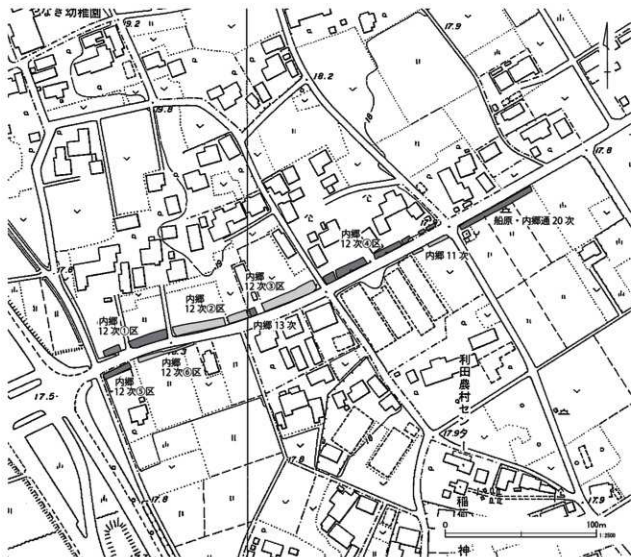
第2図 周辺の遺跡分布

Ⅲ 遺跡の概要

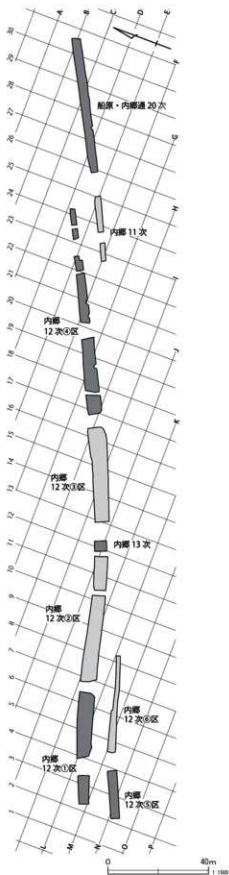
船原・内郷通遺跡はこれまで19次にわたる調査が行われ、縄文時代中期後半から後期の竪穴状遺構・土壌、古墳時代前期の土壌、古墳時代後期と奈良時代の住居跡、中世から近世の遺構・遺物が検出されている。今回の調査では、縄文時代のピット14基・土壌4基、奈良時代の住居跡1軒、平安時代の溝跡2条、中・近世の溝跡4条・土壌1基・ピット2基が検出された。調査区中央部の平安時代の第2号溝跡は規模が大きく、どのような性格をもつのかが目玉される。

内郷遺跡はこれまで10次の調査が実施され奈良時代の住居跡、中世から近世の井戸跡・溝跡などが検出されている。第1次調査で検出された南北方向に伸びる中世の大溝は渡柳氏館跡の一部と考えられており、南北100m以上、東西140mの規模が推定されている。

第11次調査では中・近世の土壌1基、溝跡4条、ピット4基が検出された。第4号溝跡は逆台形状の断面で、南北方向から僅かに西に片寄るが区画溝とみられる。



第3図 遺跡位置図



第4図 調査区全体図

第12次調査では、奈良時代の住居跡2軒、中・近世の掘立柱建物跡1棟、土壇6基、井戸跡13基、溝跡31条、竪穴状遺構1基、ピット多数が検出された。④区では奈良時代の住居跡を2軒検出した。第1号住居跡は、長方形で規模は4.3m×4.0mである。東壁にカマドをもっている。東に20m離れた第2号住居跡は形状・規模ともに第1号住居跡と似ている。カマドは、調査区域外に存在すると考えられる。また、中・近世の掘立柱建物跡1棟を第2号住居跡と重複して検出した。直径70cm程の柱穴が3.5m程の間隔で並んでいる。東西方向に3間、南北方向は1間確認したが、調査区域外へ広がると考えられる。奈良時代の住居跡や中近世の掘立柱建物跡があることから、このあたりが最も標高が高く奈良時代から中・近世に至るまで、居住に適した場所であったことが想定される。①区の第1号溝跡は②区の第7号溝跡に続く溝跡であるが②区で調査区域外へと伸びており、45m以上の長さとなる。②区の第6号井戸跡からは7基以上の板碑が重なるように出土したことから、一時に投棄されたことが窺える。板碑の年号は文永七年（1270）～文和元年（1335）にわたる。また、③区第4号溝跡は幅2mで長さ12mを検出したが南側は調査区域外へ延び、断面形は箱築研状で中世の特徴を示している。溝跡が半ば埋まった段階で、板碑や宝篋印塔、内耳鍋などが一度に捨てられた状態で出土した。板碑紀年銘は元徳三年（1331）、宝篋印塔が應永九年（1402）である。

溝跡などから、13・14世紀代の東海や在地産の土器や16世紀代の在地産の土器が出土している。また、江戸時代の磁器は、17世紀代と19世紀代のものがみられるが、時期が明確なものはあまり多くない。

IV 船原・内郷通遺跡

1. 遺跡と遺物

(1) 住居跡

第1号住居跡 (第6・7図)

C・D-26グリッドに位置し、北東部は調査区域外になり、住居跡南西壁と上部は攪乱を受けていた。南東辺3.17 m、確認できた北東辺は0.70 m、深さ0.08 mを測る。カマド・ピットなどの施設は確認されなかった。壁溝は、幅10～17 cm、深さ7 cmで南壁と東壁で確認された。遺物は、須恵器環・土師器環が出土した。

(2) 土壌

第1号土壌 (第8図)

B-29・30グリッドに位置し、東側で第3号溝跡と重複するが、新旧関係は不明である。平面形は、瓢形を呈し、確認できた長軸は125 cm、最大幅74 cm、深さ25～36 cmを測る。主軸方位は、N-67°-Eを指す。遺物は出土しなかった。

第2号土壌 (第8図)

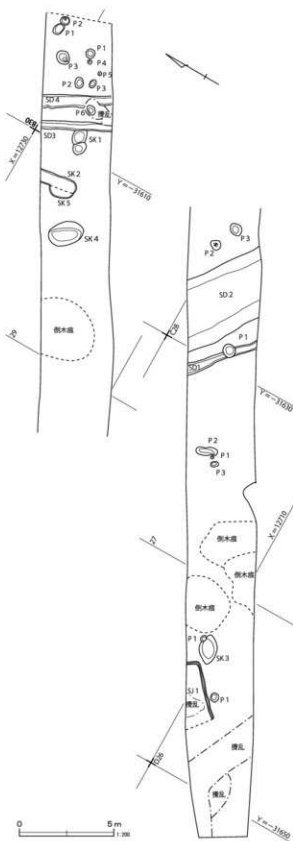
B-29グリッドに位置する。北側は調査区域外となり、南側で第5号土壌と重複しており、当土壌のほうが新しい。平面形は長楕円形を呈すると推定され、確認できた長軸は207 cm、幅67 cm、深さ9 cmを測る。主軸方位は、N-10°-Wを指す。遺物は出土しなかった。

第3号土壌 (第8図)

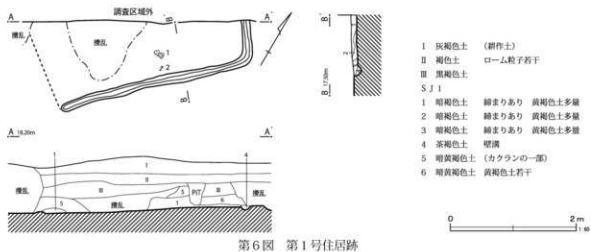
C・D-26グリッドに位置し、ピットと重複するが新旧関係は不明である。平面形は楕円形を呈し、長軸157 cm、短軸97 cm、深さ38 cmを測る。遺物は出土しなかった。

第4号土壌 (第8図)

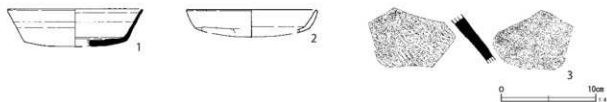
B-29グリッドに位置する。平面形は楕円形を呈し、長軸177 cm、短軸128 cm、深さ22 cmを測る。東側がテラス状を呈している。主軸方位は、N-35°-Wを指す。焙烙または鍋の破片が出土した。



第5図 船原・内郷通遺跡全体図



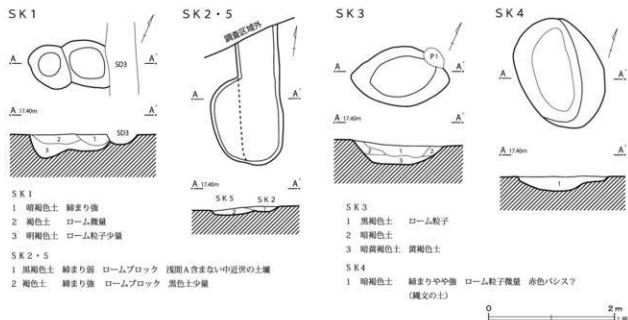
第6図 第1号住居跡



第7図 第1号住居跡・第2号溝跡出土遺物

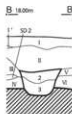
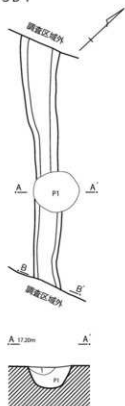
第1表 第1号住居跡・第2号溝跡出土遺物観察表 (第7図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考	図版
1	須恵器平	(14.3)	4.0	(11.1)	BHK	普通	灰	45	No.2 底部回転ヘラ削り	9-1
2	土師器平	(13.8)			ABDE	普通	にぶい黄橙	10	No.5・6 内部ロクロナデ 底部外面ヘラ削り	
3	須恵器片				BGH		灰	破片	S D 2 4層	

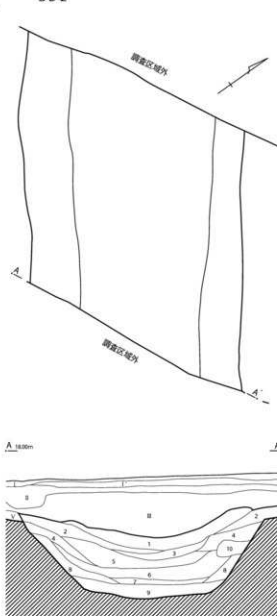


第8図 土壌

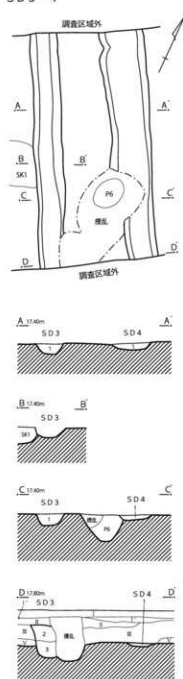
SD 1



SD 2



SD 3・4



- I 灰褐色土 (耕作土)
 I' 灰黄褐色土 浅埋A
 II 褐色土 ローム粒子若干
 II' II層に黄褐色土多量
 III 黒褐色土
 IV 黄褐色土 (ローム粒子)
 V 暗褐色土 黒褐色土若干
 VI 暗黄褐色土 締まり強

SD 1

- 1 黒褐色土 黄褐色土粒子若干
 2 黒褐色土 締まり弱
 3 黒褐色土 ローム粒子 ロームブロック多量

SD 2

- 1 黒褐色土 灰褐色ブロック少量 中間層にB存在 (赤色)
 2 暗灰褐色土 灰褐色ブロック多量
 3 黒褐色土 砂粒少量
 4 暗褐色土 灰色ブロックローム粒子少量
 5 黒褐色土 ローム粒子少量
 6 黒褐色土 粘性強 ロームブロック ローム粒子
 7 暗褐色土
 8 暗褐色土 ローム粒子多量
 9 灰褐色土 ロームブロック多量
 10 灰黄褐色土 灰色ブロック多量

SD 3

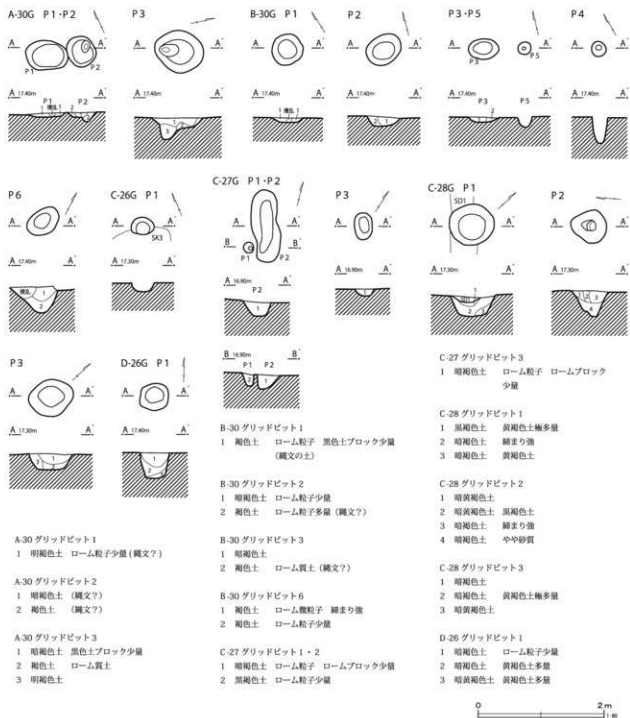
- 1 黒色土 ロームブロック少量
 2 灰褐色土
 3 黒褐色土 黄褐色土若干

SD 4

- 1 黒色土 ロームブロック少量



第9図 溝跡



第10図 ピット

が図示できるものはなかった。

第5号土壌 (第8図)

B-29 グリッドに位置する。東側で第2号土壌と重複し、当土壌のほうが古い。平面形は、不明である。確認できた長さは137cm、幅43cm、深さ9cmを測る。遺物は出土しなかった。

(3) 溝跡

第1号溝跡 (第9図)

調査区ほぼ中央のC-27・28グリッドに位置する。ピットと重複するが、当遺構が新しい。隣接する第2号溝跡と並行し、調査区を横断して両端は調査区域外へと伸びている。確認できた長さ

3.74 m、幅 0.38～0.62 m、深さ 0.38 m、溝底はほぼ平坦で、幅 1.9～2.3 mを測る。走行方位は N-49°-Wを指す。

第2号溝跡 (第7・9図)

調査区ほぼ中央の B・C-28 グリッドに位置する。隣接する第1号溝跡と並行し、同様に調査区を横断して調査区域外へと延びている。確認できた長さは 4.2 m、幅 3.5 m、深さ 1.25 mを測る。断面形は逆台形である。走行方位は、N-50°-Wを指す。溝覆土の中位より、須恵器製の破片が出土した。

第3号溝跡 (第9図)

調査区の東方の B-30 グリッドに位置する。中央西側で第1号土壌と重複するが、新旧関係は不明である。南側は東壁が攪乱を受けている。隣接する第4号溝跡と並行し、調査区を横断して両端は調査区域外へと延びている。確認できた長さは 3.7 m、幅 0.45 m、深さ 0.15 mを測る。走行方位は、N-26°-Wを指す。

第4号溝跡 (第9図)

調査区東方の A・B-30グリッドに位置する。南側は西壁が攪乱を受けている。隣接する第3号溝跡と並行し、調査区を横断して両端は調査区域

外へと延びている。確認できた長さは 3.6 m、幅 0.5～0.7 m、深さ 0.08 mを測る。走行方位は、N-29°-Wを指す。

(4) ビット (第10図)

ビットは17基確認された。図示できないが縄文前期の遺物が出土したビットと同様の覆土をしていることから、14基のビットを縄文時代のビットとして捉えた。ビットについては表にまとめた。

(5) その他の遺物

縄文土器 (第11図)

1・2は前期後葉の諸磯B式である。半截竹管状工具による平行沈線および結節沈線により文様が描かれる。2は鋸歯状モチーフの交点に円形の貼付文が付されている。胎土に砂粒と小礫を混入し、焼成はきわめて良好である。

3は前期末葉の十三菩提式で、大波状をなす口縁部である。口唇断面は角頭棒状で、口端の内面がわずかに張り出す。半截竹管状工具による集合沈線により弧状のモチーフが描かれ、間隙に三角形の陰刻文が配される。胎土に雲母や結晶片岩を主体とする砂粒と小礫を混入し、焼成はきわめ

第2表 ビット計測表

グリッド	番号	形態	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)
A-30	1	楕円形	67	44	7
A-30	2	円形	48	42	16
A-30	3	円形	75	65	32
B-30	1	円形	50	48	7
B-30	2	楕円形	55	46	17
B-30	3	楕円形	50	32	7
B-30	4	円形	24	22	44
B-30	5	円形	24	20	15
B-30	6	(楕円形)	98	(76)	44

グリッド	番号	形態	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)
C-26	1	(楕円形)	(37)	(26)	13
C-27	1	円形	16	16	26
C-27	2	楕円形	112	40	24
C-27	3	楕円形	42	28	12
C-28	1	円形	70	64	35
C-28	2	楕円形	58	48	40
C-28	3	楕円形	70	58	25
D-26	1	円形	46	44	39



第11図 その他の遺物

て良好である。

4・5は中期後葉の加曾利E式とみられる。4はL R単節縦位回転の縄文が施文され、内面に横位の研磨が徹底される。胎土は砂質で、焼成は

良好だが表面が風化しており、二次焼成を受けている可能性がある。5は櫛歯状工具による縦位の集合沈線文がみられる。胎土に若干の砂粒を混入し、焼成は良好である。

第3表 船原・内郷遺跡遺構新旧対照表

新	旧
船原・内郷遺跡	内郷遺跡2区
SK 1	SK 3
SK 2	SK 4
SK 3	SK 5
SK 4	SK 6
SK 5	SK 7
SD 1	SD 5
SD 2	SD 6
SD 3	SD 7
SD 4	SD 8

新	旧
船原・内郷遺跡	内郷遺跡2区
A-30G. P1	P5
A-30G. P2	P6
A-30G. P3	P7
B-30G. P1	P8
B-30G. P2	P9
B-30G. P3	P10
B-30G. P4	P11
B-30G. P5	P12
B-30G. P6	P13

新	旧
船原・内郷遺跡	内郷遺跡2区
A-30G. P1	P14
C-28G. P1	P15
C-28G. P2	P16
C-28G. P3	P17
C-27G. P3	P18
C-27G. P1	P19
C-27G. P2	P20

V 内郷遺跡

1. 第11次の遺構と遺物

(1) 土壌

第1号土壌 (第13図)

E-23・24グリッドに位置する。南側は調査区域外となり、北側で第3号溝跡と重複し、当土壌のほうが古い。平面形は、長方形と推定され検出できた長さ165cm、幅100cm、深さ16cmを測る。主軸方位は、N-21°-Eを指す。遺物は出土しなかった。

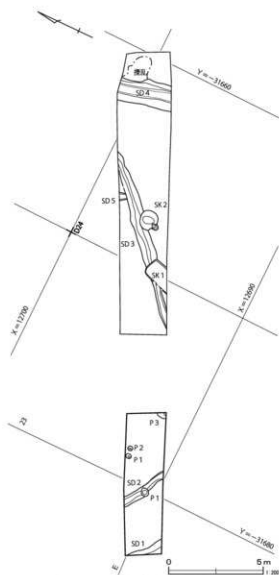
第2号土壌 (第13図)

E-24グリッドに位置する。北側で第3号溝跡と重複し、当土壌のほうが新しい。平面形は、円形で、径115cm×97cm、深さ37cmを測る。主軸方位は、N-63°-Eを指す。遺物は出土しなかった。

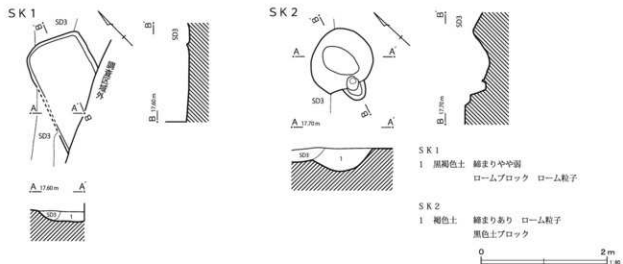
(2) 溝跡

第1号溝跡 (第14図)

西側調査区のF-22グリッドに位置する。北壁の一部が確認されたのみで、調査区域のコーナーに確認され、ほとんど調査区域外となっている。確認できたのは長さ2.0mだけで、深さ0.03~0.10mを測る。走行方位は、N-55°-Wを指す。遺物は胎土に白色新針状物質を含む須恵器坏が出土したが、図示できるものはなかった。



第12図 内郷遺跡 11次全体図



第13図 土壌

第2号溝跡 (第14図)

西側調査区中央のE-22・23グリッドに位置する。調査区をやや斜めに横断し、両端は調査区域外へ延びている。中央でピットと重複しているが、当溝跡のほうが新しい。確認できた長さは2.45m、幅0.36~0.46m、深さ0.08~0.23mを測る。走行方位は、N-48°-Wを指す。遺物は出土しなかった。

第3号溝跡 (第14図)

東側調査区のE-23・24グリッドに位置する。調査区を斜めに縦断し、両端は調査区域外へ延びている。第5号溝、第1・2号土壌と重複し、当溝跡は第5号溝跡との新旧関係は不明であるが、両土壌より新しい。確認できた長さは8.8m、幅0.4~0.8m、深さ0.14~0.21cmを測る。走行方位はN-40°-Eを指す。遺物は出土しなかった。

第4号溝跡 (第14図)

東側調査区のD・E-24グリッドに位置する。調査区を横断し、両端は調査区域外へ延びている。確認できた長さは2.7m、幅1.2~1.4m、深さ1.1mを測り、断面形は箱葉研状を呈している。走行方位はN-16°-Wを指す。遺物は出土しなかった。

第5号溝跡 (第14図)

東側調査区のE-24グリッドに位置する。第

3号溝跡と重複するが新旧関係は不明である。確認できた長さは0.38m、幅0.28~0.40m、深さ0.5cmを測る。走行方位はN-25°-Wを指す。遺物は出土しなかった。

(3) ピット

E-22グリッド第1号ピット (第15図)

西側調査区のE-22・23グリッドに位置する。第2号溝跡と重複し、当ピットのほうが古い。平面形は楕円形を呈し、長軸45cm、短軸35cm、深さ26cmを測る。遺物は出土しなかった。

E-23グリッド第1号ピット (第15図)

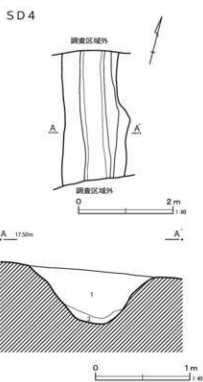
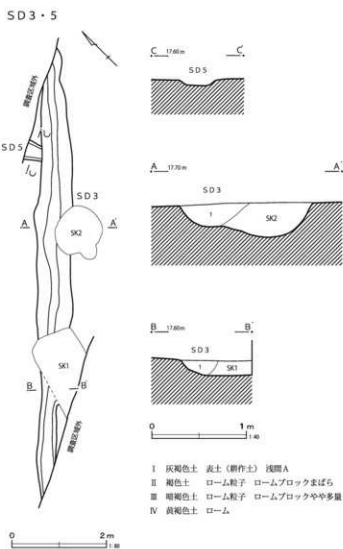
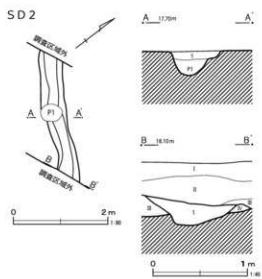
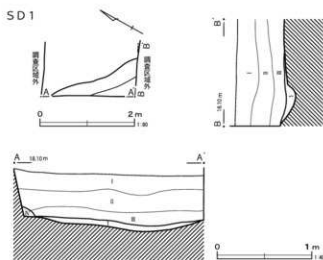
西側調査区のE-23グリッドに位置する。第2号ピットと近接している。平面形は楕円形を呈し、長軸30cm、短軸25cm、深さ12cmを測る。遺物は出土しなかった。

E-23グリッド第2号ピット (第15図)

西側調査区のE-23グリッドに位置する。平面形は円形を呈し、径25cm×23cm、深さ11cmを測る。遺物は出土しなかった。

E-23グリッド第3号ピット (第15図)

西側調査区のE-23グリッドに位置する。調査区コーナーにあり、平面形は不明であるが、確認できた規模は40cm、30cm、深さ17cmを測る。遺物は出土しなかった。



SD1

1 黒褐色土 黄褐色土多量

SD2

1 黒褐色土 ローム粒子多量

SD3

1 暗褐色土 ローム粒子 ブロック多量

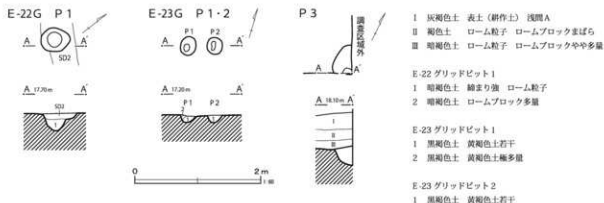
SD4

1 暗褐色土 黏り弱 ローム粒子多量 ロームブロック少量

黒色土ブロック

2 明褐色土 ローム粒子 褐色土

第14図 溝跡



第15図 ビット

2. 第12次①区の遺構と遺物

(1) 土壌

第1号土壌 (第18図)

西側調査区の東端のL-3グリッドに位置し、東端は調査区域外に延びている。長さ188cm、幅30cm、深さ10cmを測る。主軸方位は、N-72°-Eを指す。遺物は出土しなかった。

第2号土壌 (第18図)

西側調査区の東寄りのL-2グリッドに位置する。東端で2基のビットと重複しているが、新旧関係は不明である。確認できた長さは256cm、幅35cm、深さ11cmを測る。主軸方位は、N-66°-Eを指す。遺物は出土しなかった。

第3号土壌 (第18図)

西側調査区西端のL-2グリッドに位置する。西端は調査区域外に延びている。確認できた長さ353cm、幅45~63cm、深さ20cmを測る。主軸方位はN-75°-Eを指す。遺物は出土しなかった。

第4号土壌 (第18図)

東側調査区の東寄りのK-5グリッドに位置する。北側は調査区域外へ延び、第3号溝跡と重複し、当土壌のほうが新しい。平面形は円形と推定され、確認できた径は114cm、深さ60cmを測る。主軸方位はN-60°-Eを指す。遺物は出土しなかった。

第5号土壌 (第18図)

東側調査区の東寄りのK-5・6グリッドに位

置する。北側は調査区域外へ延び、第3号溝跡と重複し、当土壌のほうが新しい。平面形は円形と推定され、確認できた径は127cm、深さ60cmを測る。遺物は出土しなかった。

(2) 井戸跡

第1号井戸跡 (第17図)

東側調査区の西寄りのK-4グリッドに位置する。北側の一部が調査区域外へ延びている。径は123cm、深さは1m以上を測るが、底は確認できなかった。陶器片・角閃石安山岩礫を出土したが図示できるものはなかった。

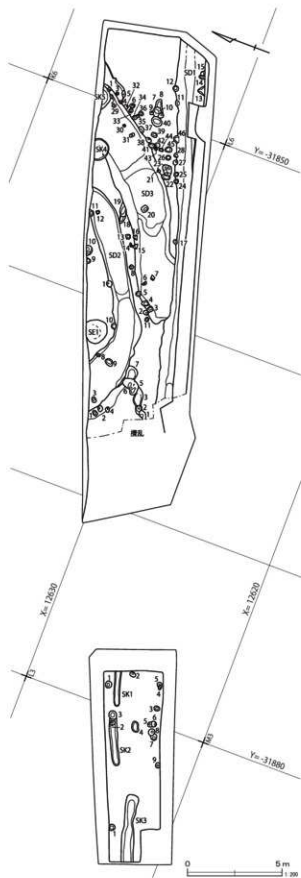
(3) 溝跡

第1号溝跡 (第19・20図)

東側調査区のK-5・6、L-4グリッドに位置し、調査区境界南側に沿って検出された。第3号溝跡と重複し、当溝跡のほうが新しい。東端でのみ溝幅が確認できたが、他では北壁のみ確認でき、南壁は調査区域外になっている。溝東部の上端沿いに5m程の長さでビット列が確認された。溝東部で検出された長さ19m、幅1.5m、溝底幅0.35~0.55m、深さ1.15mを測り、断面形は逆台形を呈している。走行方位は、N-70°-Eを指す。覆土から中世の鉢や鐏鉢の他、須恵器甕の破片が出土した。

第2号溝跡 (第20図)

東側調査区のK-4・5グリッドに位置する。

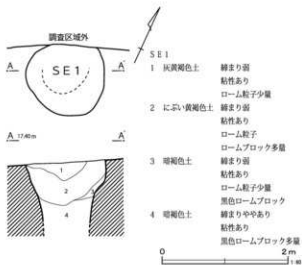


第16図 内郷遺跡12次①区全体図

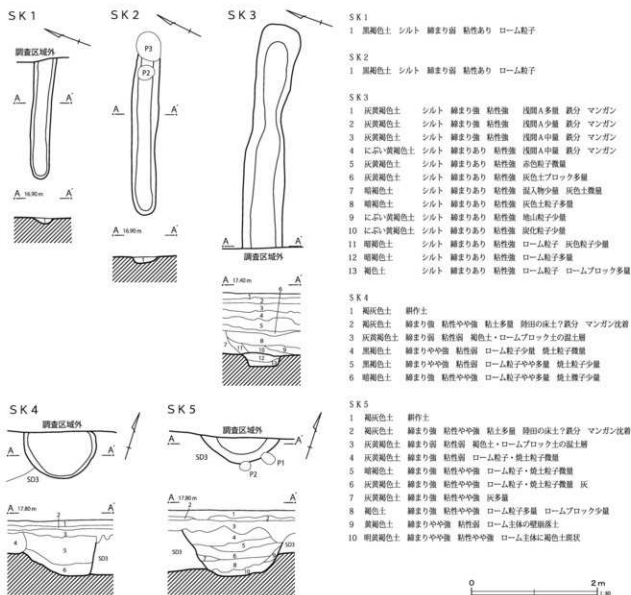
第3号溝跡の北側に位置し、第3号溝跡より湾曲が大きいが大きい。北側の調査区域外へ両端が延びている。第3号溝跡と重複し、当溝跡のほうが新しい。検出できた長さ11m、幅1.1~2.0m、溝底幅1.5m、深さ0.9mを測る。断面形は逆台形を呈する。遺物は、土器片、須恵器片が出土したが、図示できるものはなかった。

第3号溝跡 (第20図)

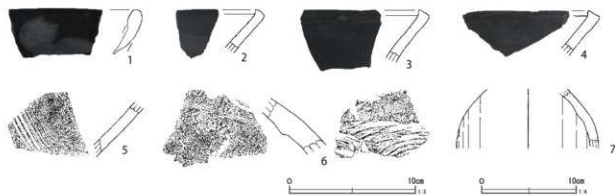
東側調査区のK-5・6グリッドに位置する。第1・2号溝跡の間にあり、両溝跡より浅い。第4・5号土城、第1・2号溝跡と重複し、いずれの遺構よりも古い。僅かに湾曲しながら調査区を斜めに北東から南西に縦断し、両端は調査区域外へと延びている。検出された長さは11m、幅1.8~2.5m、深さ0.8~1.2mを測る。走行方位は、N-51°-Eを指す。遺物は、須恵器片や角閃石安山岩礫が出土したが、図示できるものはなかった。



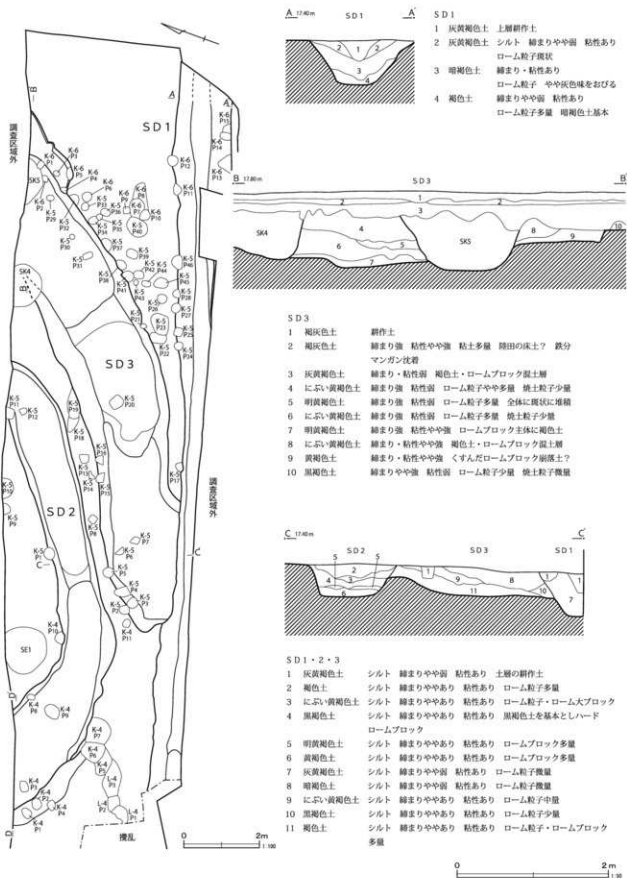
第17図 ①区井戸跡



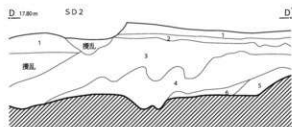
第18図 ①区土壌



第19図 ①区溝跡・グリッド出土遺物



第20図 ①区溝跡(1)



S D 2

- 1 褐灰色土 耕作土
 2 褐灰色土 締まり強 粘性やや強 粘土多量 陸田の床土? 鉄分
 マンガン沈着
 3 灰黄褐色土 締まり・粘性弱 褐色土 ロームブロック混入層
 4 黒褐色土 締まりやや強 粘性弱 ローム粒子少量 焼土粒子微量
 5 黄褐色土 締まり・粘性弱 ソフトローム土に対応
 6 黄褐色土 締まり・粘性やや強 ロームブロック 黒褐色土混入層

0 2m
 1m

第21図 ①区溝跡(2)

第4表 ①区第1号溝跡・グリッド出土遺物観察表(第19図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考	図版
1	瓦器鉢				B D F	普通	灰	破片	S D 1 No.22	
2	瓦器鉢				B G	普通	灰	破片	S D 1 No. 2	
3	瓦器鉢				B D F	普通	灰	破片	S D 1 No. 6	
4	瓦器鉢				B D F	普通	灰	破片	S D 1 No. 7	
5	瓦器播鉢				B J	良好	灰	破片	S D 1 No. 3	
6	須恵器費				B	良好	灰	破片	S D 1 No.13	
7	須恵器長頸瓶				B G	良好	灰	破片	K-4 G No. 1 外面一部自然有	

3. 第12次②区の遺構と遺物

(1) 土壌

第1号土壌(第23図)

東側調査区の北側中央部 J-11グリッドに位置する。北側は調査区域外に延び、東側で第2号溝跡と南辺・西辺でピット重複しているが新旧関係は不明である。平面形は、隅丸長方形で検出できた長さ104cm、幅98cm、深さ29cmを測る。主軸方位は、N-28°-Wを指す。遺物は、土師器片が出土したが、図示できるものはなかった。

第2号土壌(第23図)

東側調査区の北側中央部 J-10・11グリッドに位置する。北側は調査区域外に延びている。平面形は、楕円形と推定され、検出できた長軸は56cm、短軸68cm、深さ11cmを測る。主軸方位は、N-10°-Wを指す。遺物は出土しなかった。

第3号土壌(第23図)

東側調査区の東寄りの J-11グリッドに位置する。平面形は楕円形で長軸76cm、短軸68cm深さ32cmを測る。主軸方位は、N-66°-Eを指す。遺物は出土しなかった。

第4号土壌(第23図)

東側調査区中央の J-10・11グリッドに位置

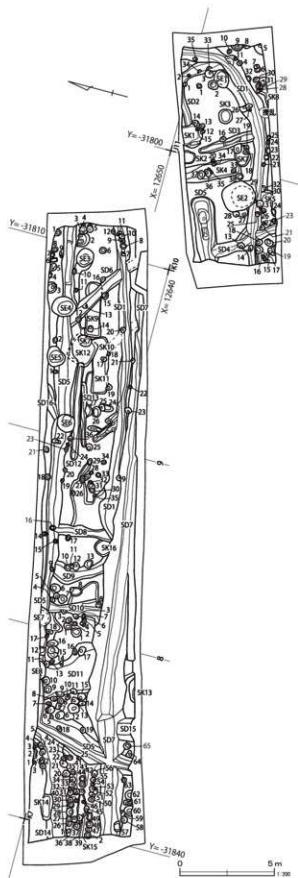
する。北側は調査区域外へ延びている。第7号土壌・ピットと重複し、ピットとは新旧関係は不明であるが土壌より当遺構が新しい。平面形は長方形で、検出できた長さ280cm、幅94cm、深さ29cmを測る。主軸方位は、N-23°-Wを指す。遺物は、五領期の土師器片が出土したが、図示できるものはなかった。

第5号土壌(第23図)

東側調査区の西東寄りの J-10グリッドに位置する。第1号溝跡と重複し、当土壌のほうが新しい。平面形は不詳であるが長方形と推定され、検出できた長さ400cm、幅70cm、深さ27cmを測る。主軸方位は、N-78°-Eを指す。遺物は土師器片が出土したが、図示できるものはなかった。

第7号土壌(第23図)

東側調査区の中央部 J-11グリッドに位置する。第4号土壌と重複し、当土壌のほうが古い。ピットと重複しているが新旧関係は不明である。平面形は楕円形で、長軸112cm、短軸76cm、深さ15cmを測る。主軸方位は、N-80°-Eを指す。遺物は出土しなかった。



第22図 内郷遺跡12次②区全体図

第8号土壌 (第23図)

東側調査区の東寄りのJ-11グリッドに位置する。南側は調査区域外へ延び、北辺がピットと重複しているが新旧関係は不明である。平面形は瓢形と推定され、検出できた長軸は142cm、深さ20cmを測る。主軸方位は、N-60°-Eを指す。遺物は土器が出土したが、図示できるものはなかった。

第9号土壌 (第23図)

西側調査区の東寄りのJ-9グリッドに位置する。第6号溝跡と重複し、当土壌のほうが新しい。平面形は長方形で、長さ288cm、幅80cm、深さ26cmを測る。主軸方位は、N-78°-Eを指す。遺物は土器が出土したが、図示できるものはなかった。

第10号土壌 (第23図)

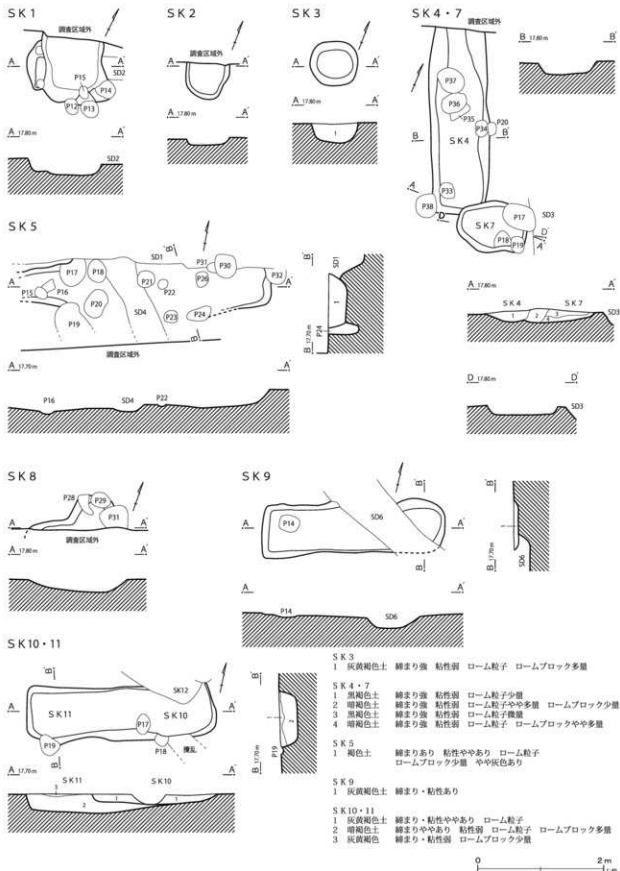
西側調査区の東寄りのJ-9グリッドに位置する。第11・12号土壌と重複し、第11号土壌より新しいが、他との新旧関係は不明である。平面形は長方形と推定され、確認できた長さ200cm、幅85cm、深さ14cmを測る。主軸方位は、N-77°-Eを指す。遺物は出土しなかった。

第11号土壌 (第23図)

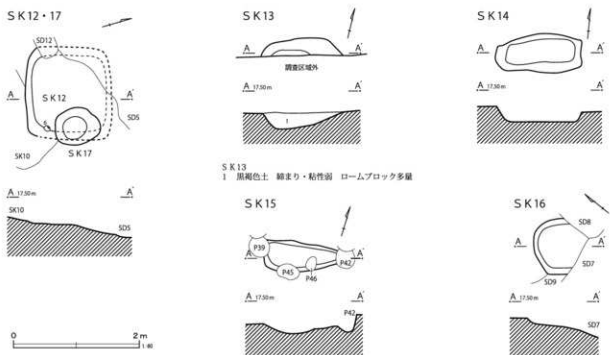
西側調査区の東寄りのJ-9グリッドに位置する。東側は第10号土壌と重複し、当土壌のほうが古い。東側は不明瞭であるが、平面形は長方形と推定され、確認できた長さ225cm、幅93cm、深さ30cmを測る。主軸方位は、N-77°-Eを指す。遺物は土師質の土器が出土したが、図示できるものはなかった。

第12号土壌 (第24・25図)

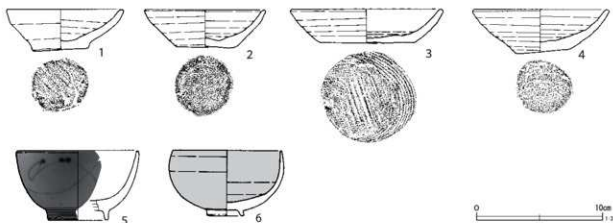
西側調査区の東寄りのJ-9グリッドに位置する。第10・17号土壌、第5・12号溝跡と重複し、検出できたのは南壁だけで、当土壌が古いと考えられる。平面形は方形と推定され、確認できた西辺は134cm、深さは第5号溝跡の方向になだらかに傾斜し不明である。主軸方位は、南壁を基準と



第23図 ②区土壌(1)



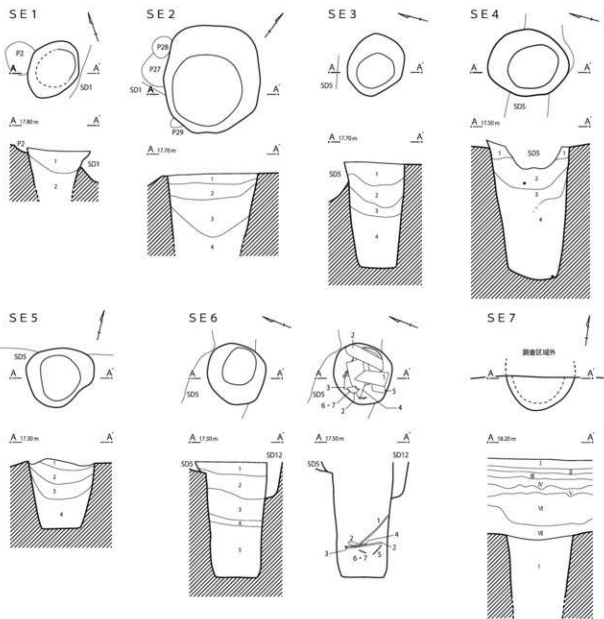
第24図 ②区土城(2)



第25図 ②区土城・井戸跡出土遺物

第5表 ②区井戸跡出土遺物観察表(第25図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考	図版
1	土器かわらけ	9.1	3.2	4.4	A B D G	普通	浅黄橙	65	S E 3	9-3
2	土器かわらけ	9.0	2.9	4.6	A B D G	普通	浅黄橙	70	S E 3	9-4
3	土器かわらけ	11.2	2.5	7.0	A B F	普通	にぶい、橙	90	S E 4	9-5
4	土器かわらけ	(10.5)	3.3	4.3	A D G	普通	にぶい、橙	70	S E 6 No. 7	9-6
5	磁器碗	(9.4)	5.5	(4.8)	G	良好	白	25	S E 5 透明有・染付 19世紀	
6	陶器碗	8.6	5.2	3.0	B	良好	浅黄	70	S K 12 No. 7 灰色釉	9-2



基本土層

- | | | | |
|------------|---------|-----------|----------------|
| I 褐色土 | 締まり・粘性強 | 表土 | 水田耕作土 |
| II 褐色土 | 締まり・粘性強 | 水田耕作土 | 浅間A多量 |
| III 灰黄褐色土 | 締まり・粘性強 | 水田耕作土 | 下面に混分 マンガン多量 |
| | | | 浅間A多量 |
| IV 灰黄褐色土 | 締まり・粘性強 | 粘土粒子 | 炭化粒子微量 |
| | | | 浅間A多量 |
| V 褐色土 | 締まり・粘性弱 | ローム粒子 | ロームブロック 炭化粒子少量 |
| VI 褐色土 | 締まり・粘性弱 | ローム粒子少量 | |
| VII 濃い黄褐色土 | 締まり・粘性弱 | ロームブロック微量 | |

- SE 1
 1 濃い黄褐色土 締まりなし 粘性ややあり ローム粒子 ロームブロック多量
 2 褐色土 締まりなし 粘性ややあり ローム粒子 ロームブロック多量

- SE 2
 1 灰黄褐色土 締まり・粘性ややあり ローム粒子少量
 2 褐色土 締まり中程度 粘性弱 ローム粒子多量
 3 黄褐色土 締まり・粘性弱 ローム粒子 ロームブロック少量
 4 褐色土 締まり弱 粘性なし ローム粒子少量

- SE 3
 1 濃い黄褐色土 締まり・粘性弱 ローム粒子 ロームブロック少量
 2 濃い黄褐色土 締まり・粘性弱 ローム粒子 ロームブロック多量
 3 灰黄褐色土 締まり・粘性弱 ローム粒子少量
 4 褐色土 締まり・粘性弱 ローム粒子少量

SE 4

- | | | | |
|-------|---------|-----------|-----------|
| 1 褐色土 | 締まり・粘性弱 | ローム粒子 | ロームブロック少量 |
| 2 褐色土 | 締まり・粘性弱 | ローム粒子微量 | |
| | | 部分的に灰黄褐色土 | |
| 3 褐色土 | 締まり・粘性弱 | ローム粒子少量 | 粘土粒微量 |
| 4 褐色土 | 締まり・粘性弱 | ロームブロック | |

SE 5

- | | | |
|----------|-------------|-----------------|
| 1 灰黄褐色土 | 締まり弱 粘性ややあり | ローム粒子少量 |
| 2 濃い黄褐色土 | 締まり・粘性弱 | ローム粒子多量 |
| 3 褐色土 | 締まり・粘性弱 | ローム粒子 ロームブロック多量 |
| 4 褐色土 | 締まり・粘性弱 | ロームブロック少量 |

SE 6

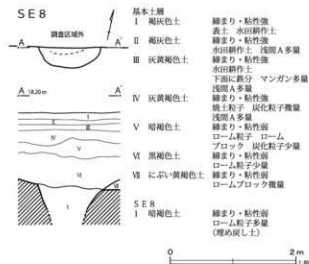
- | | | |
|---------|-------------|-----------|
| 1 灰黄褐色土 | 締まり・粘性弱 | ロームブロック多量 |
| 2 褐色土 | 締まり・粘性弱 | ローム粒子多量 |
| 3 黄褐色土 | 締まり弱 粘性ややあり | ローム粒子少量 |
| 4 黄褐色土 | 締まり弱 粘性なし | ローム粒子多量 |
| 5 黄褐色土 | 締まり弱 粘性ややあり | ローム粒子少量 |

SE 7

- | | | | |
|-------|---------|-------|-----------|
| 1 褐色土 | 締まり・粘性弱 | ローム粒子 | ロームブロック多量 |
|-------|---------|-------|-----------|



第26図 ②区井戸跡(1)



第27図 ②区井戸跡(2)

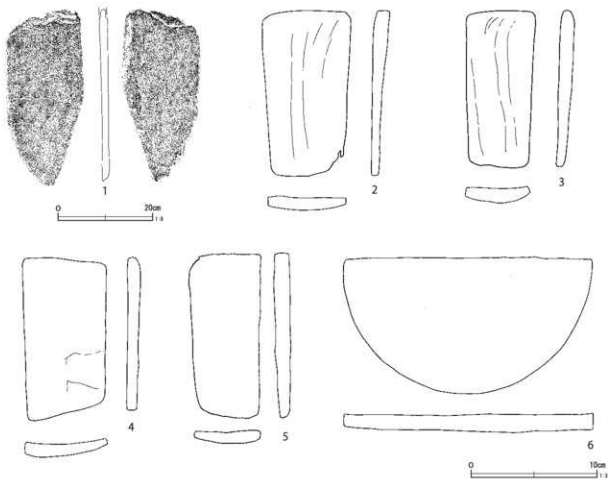
するとN-76°-Wを指す。遺物は陶器碗が出土した。

第13号土壌(第24図)

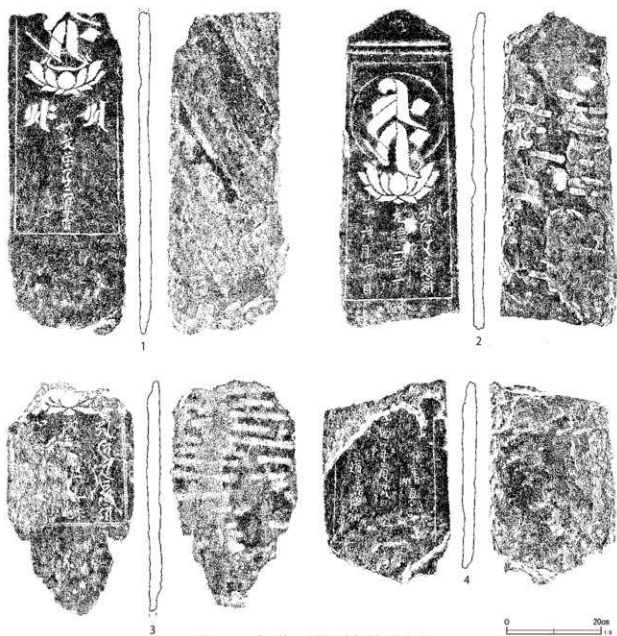
西側調査区の西寄りのK-7グリッドに位置する。南側は調査区域外へ延びている。平面形は楕円形と推定され、確認できた長軸126cm、深さ28cmを測る。主軸方位は、N-75°-Eを指す。遺物は土師質土器と瓦が出土したが、図示できるものはなかった。

第14号土壌(第24図)

西側調査区の西端のK-7グリッドに位置する。第14号溝跡と重複しているが新旧関係は不明である。平面形は不整形長方形で、確認できた長さ136cm、幅60cm、深さ32cmを測る。主軸方位は、



第28図 ②区第4・6井戸跡出土遺物



第29図 ②区第6号井戸跡出土石板(1)

N-80° -Eを指す。遺物は出土しなかった。

第15号土壌 (第24図)

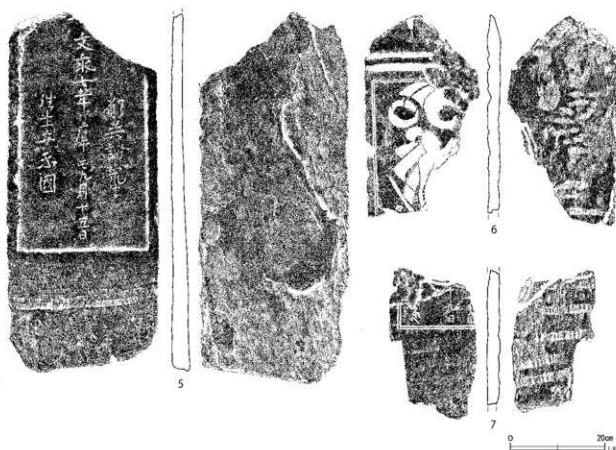
西側調査区の西端のK-7グリッドに位置し、第7号溝跡と第14号溝跡の間にある。ピットと重複しているか新旧関係は不明である。平面形は不整楕円形で、検出できた長軸110cm、短軸45cm、深さ12cmを測る。主軸方位は、N-72° -Eを指す。遺物は出土しなかった。

第16号土壌 (第24図)

調査区の中央部南寄りのK-8グリッドに位置する。南東側で第7・8・9号溝跡と重複しているが、新旧関係は不明である。平面形は楕円形と推定され、検出できた長さ85cm、幅93cm、深さ12cmを測るが、緩やかに溝跡へ傾斜している。主軸方位は、N-40° -Wを指す。遺物は出土しなかった。

第17号土壌 (第24図)

西側調査区の東寄りのJ-9グリッドに位置する。



第30図 ②区第6号井戸跡出土石板(2)

第12号土壇と重複し、当土壇が新しいと考えられる。平面形は楕円形で、長軸73cm、短軸60cm、深さは不明である。主軸方位は、 $N-14^{\circ}-E$ を指す。遺物は出土しなかった。

(2) 井戸跡

第1号井戸跡 (第26図)

東側調査区の東寄りのK-9グリッドに位置する。第1号溝跡・ピットと重複し、当井戸跡が新しい。平面形は楕円形で、長軸100cm、短軸77cm、深さ0.55m以上を測る。主軸方位は、 $N-45^{\circ}-E$ を指す。遺物は出土しなかった。

第2号井戸跡 (第26図)

東側調査区の西寄りのJ-9グリッドに位置する。南側で第1号溝跡と重複し、当井戸跡が新しいと考えられる。平面形は楕円形で、長軸167cm、短軸152cm、深さ1.1m以上を測る。主軸方位

は、 $N-33^{\circ}-W$ を指す。遺物は、五領期の土師器片と焙烙片が出土したが、図示できるものはなかった。

第3号井戸跡 (第25・26図)

西側調査区の東寄りのJ-9グリッドに位置する。平面形は楕円形で、長軸96cm、短軸84cm、深さ1.67mを測る。主軸方位は、 $N-49^{\circ}-E$ を指す。遺物は、かわらけが出土した。

第4号井戸跡 (第25・26・28図)

西側調査区の東寄りのJ-9グリッドに位置する。第5号溝跡と重複し、当井戸跡が古い。平面形は楕円形で、長軸126cm、短軸104cm、深さ2.08mを測る。主軸方位は、 $N-17^{\circ}-W$ を指す。遺物は、覆土上層からかわらけ、底から石板が出土した。

出土遺物

板碑 (第28図1)

板碑は上部が欠損している。上幅15.4cm、下幅15.6cm、厚さ1.6cm、遺存長36.0cmである。左側の縦の枠線は下部まで延びている。枠線の中は、三行あり、右側は「□□主□」、左側は「月」、中央は判読できない。

第5号井戸跡 (第25・26図)

西側調査区の東寄りのJ-9グリッドに位置する。第5号溝跡と重複し、当井戸跡が新しいと考えられる。平面形は不整形で、長軸106cm、短軸84cm、深さ1.20mを測る。主軸方位は、N-57°-Eを指す。遺物は、五領期の土師器片と土師質土器片を出土したが図示できるものはなかった。

第6号井戸跡 (第26・28-30図)

西側調査区の中央部寄りのJ-9グリッドに位置する。第5・12号溝跡と重複し、当井戸跡が新しい。平面形は円形で、径92cm×90cm、深さ1.87mを測る。遺物は、かわらけ、桶の底板と側板、板碑7基が出土した。

出土遺物

桶 (第28図2～6)

2～5は、桶の側板である。2は上幅6.9cm、下幅6.0cm、長さ13.2cm、厚さ0.7～1.1cmを測る。3は上幅5.5cm、下幅4.9cm、長さ12.5cm、厚さ0.7～1.1cmを測る。4は上幅6.6cm、下幅6.2cm、長さ12.9cm、厚さ0.7～1.1cmを測る。5は上幅5.7cm、下幅5.1cm、長さ13.1cm、厚さ0.7～1.0cmを測る。

6は桶の底板で径19.8cmを測り、厚さは1.1～1.4cmを測る。

材質は杉とみられる。

板碑 (第29・30図1～7)

1は種子の頭部から上を欠失している。上幅24.0cm、下幅24.4cm、厚さ2.4cm、遺存長67.5cmである。阿弥陀三尊種子の板碑である。主尊の阿弥陀如来(キリーク)は蓮座の上に乗る。脇待種子

は右に観音菩薩(サ)、左側に勢至菩薩(サク)が刻まれる。刻字は中央に「文保二年(1318)二月廿七日」と紀年銘が刻まれている。

2は基部が欠失しており、上幅22.8cm、下幅25.2cm、厚さ2.4cm、遺存長66.0cmである。二条線はくっきりと彫り出され、枠線が廻る。月輪の中の種子は阿弥陀如来(キリーク)で蓮座の上に乗る。その下の右の行には大日親身真言、中央と左の行には「元徳二年(1330)庚午六月四日」と紀年銘が刻まれている。裏面には疎らながら工具痕がみられる。工具痕の幅はおおよそ1.5cmである。

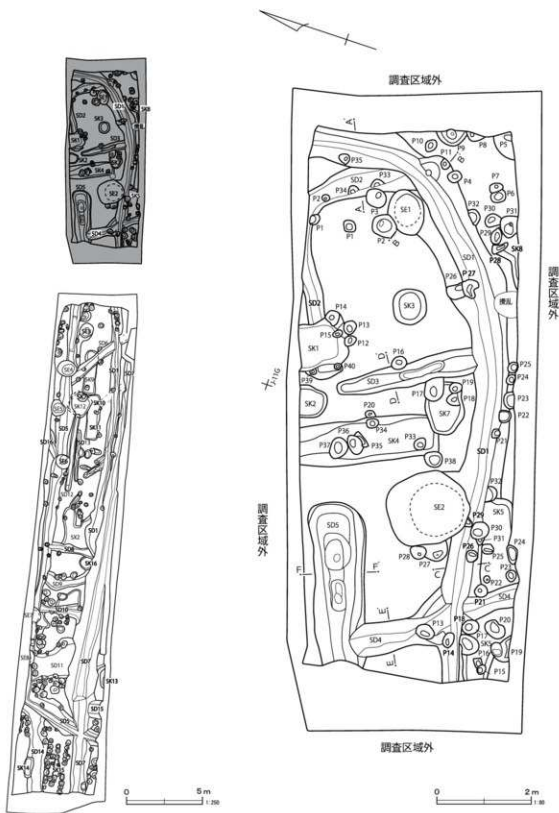
3は蓮座より上欠失しており、下幅27.1cm、厚さ2.6cm、遺存長47.0cmである。基部は区が設けられ舌状となっている。枠線は二重に廻る。蓮座の下の右の行には大日親身真言、中央の行には「文和[]未(1355)」と紀年銘が刻まれ、左側は欠失している。裏面には疎らながら工具痕がみられる。工具痕の幅はおおよそ1.5cmである。

4は上部を欠失しており、下幅26.7cm、厚さ2.6cm、遺存長40.6cmである。枠線が廻り、右側に「光明真言」、中央に「□徳四年二月廿九日」と紀年銘が刻まれ、左の行には「道是禪明」とある。

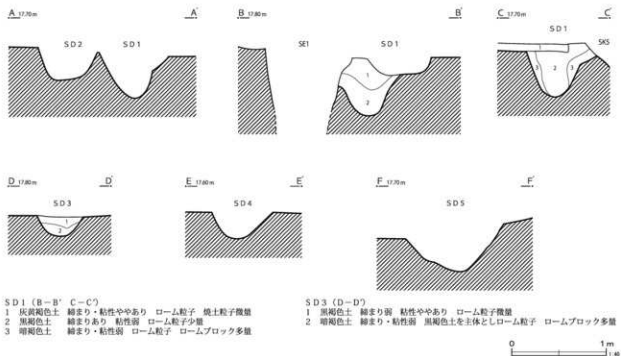
5は上部が欠失しており下幅31.5cm、厚さ2.6cm、遺存長77.5cmである。枠線は無く、碑面を一段掘り下げて刻字されている。右の行に「願共諸衆生」、中央に「文永七年(1270)庚午閏九月十五日」と紀年銘が、左側に「往生安樂国」と刻まれている。碑面下部には工具痕がみられる。工具痕の幅はおおよそ1.5cmである。

6は下部が欠失しており上幅24.0cm、厚さ2.2cm、遺存長42.4cmである。二条線はくっきりと彫り出され、二重の枠線が廻る。伊字の三点の下に阿弥陀如来(キリーク)がある。裏面には疎らながら工具痕がみられる。工具痕の幅はおおよそ1.5cmである。

7は基部と下部寄り上を欠失している。遺存



第31图 ②区溝跡(1)



第32図 ②区溝跡(2)

下幅18.1cm、厚さ2.2cm、遺存長29.4cmである。二重の枠線が廻り、刻字は右に「酉」か、中央に「十九日」の紀年銘、左に光明真言の最後の梵字が刻まれている。基部は区画が畚けられ舌状となっている。裏面には疎らながら工具痕がみられる。工具痕の幅はおよそ1.5cmである。

6・7は刻字の上部が欠失した同一個体とみられる。

第7号井戸跡(第26図)

西側調査区の西寄りのJ-8グリッドに位置する。北側は調査区域外に延びている。第5号溝跡と重複し、当井戸跡が新しいと考えられる。平面形は円形と推定され、検出できた径は105cm、深さ1m以上を測る。遺物は、土師質土器片を出土したが、図示できるものはなかった。

第8号井戸跡(第27図)

西側調査区の西寄りのJ-7グリッドに位置する。第5号溝跡と重複し、当井戸跡が新しいと考えられる。平面形は円形と推定され、確認できた径は100cm、深さ0.4m以上を測る。遺物は出土しなかった。

(3) 溝跡

第1号溝跡(第31~34図)

東側調査区から西側調査区まで延びる溝で、J-8~11、K-8・9グリッドに位置する。東端は東側調査区で北方向へ湾曲して調査区域外へと延びている。西端は西側調査区の中で第7号溝跡の上面を覆っている。検出できた長さ54m、幅0.6~1.0m、深さ0.4~0.6mを測る。

第2号溝跡(第31・32図)

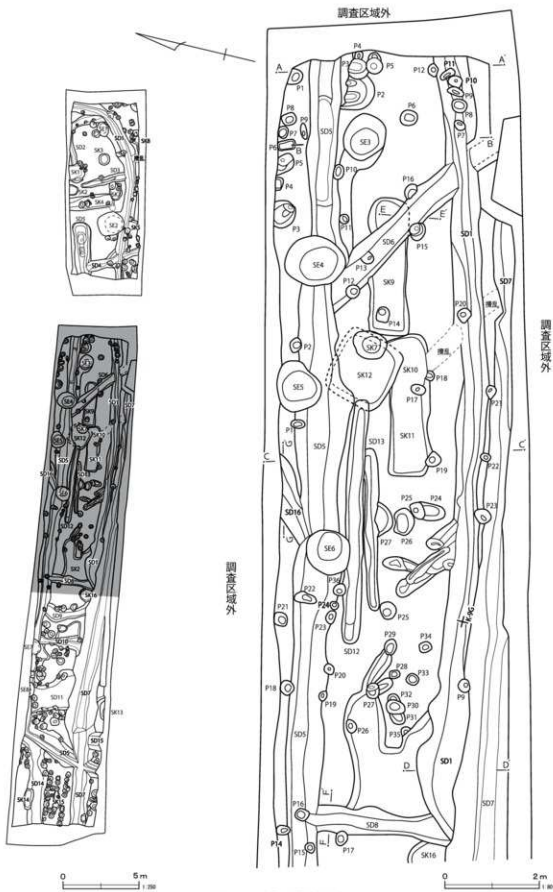
東側調査区の北よりのJ-11グリッドに位置する。東西方向から南北方向に屈曲する。南端は第1号溝跡、西端は第1号土壌と重複するが新旧関係は不明である。検出できた長さは5m、幅0.4~0.5m、深さ0.3mを測る。

第3号溝跡(第31・32図)

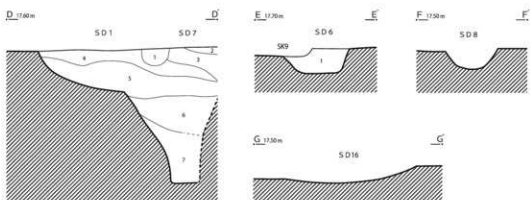
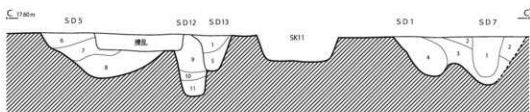
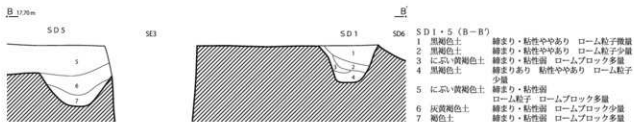
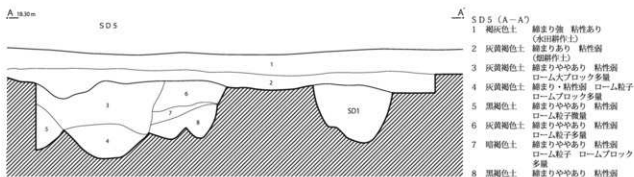
東側調査区中央部のJ-11グリッドに位置する。南側で第1号溝跡と重複するが、新旧関係は不明である。長さ2.95m、幅0.5m、深さ0.34mを測る。走行方位はN-30°-Wを指す。

第4号溝跡(第31・32図)

東側調査区の西寄りのJ-10グリッドに位置



第33图 ②区溝跡(3)

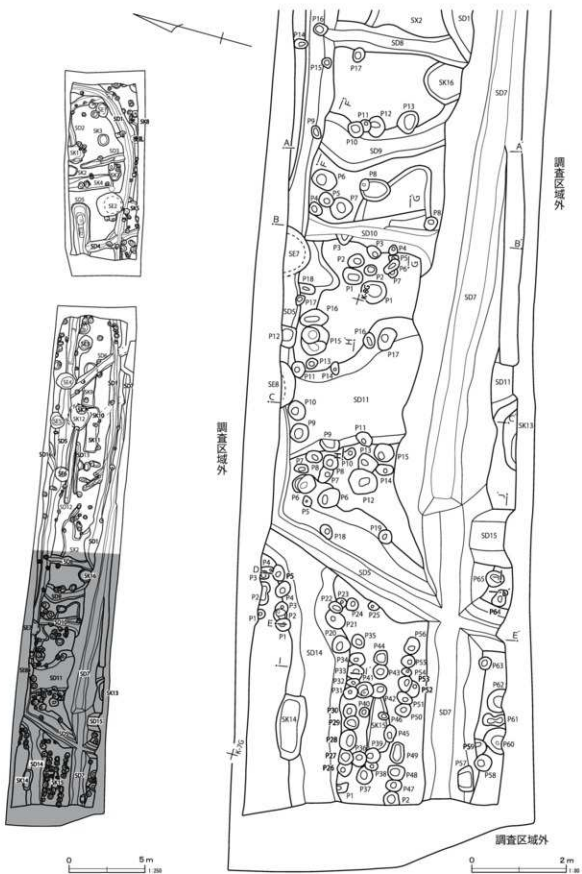


- SD1・5・7・12・13 (C-C)
- | | | |
|----|---------|-------------|
| 1 | 褐灰色土 | 締まり・粘性あり |
| 2 | 褐灰色土 | 締まり・粘性あり |
| 3 | 褐灰色土 | 締まり・粘性ややあり |
| 4 | 黒褐色土 | 締まりややあり 粘性弱 |
| 5 | 灰黄褐色土 | 締まり・粘性弱 |
| 6 | にぶい黄褐色土 | 少量 |
| 7 | 暗褐色土 | 少量 |
| 8 | 暗褐色土 | 少量 |
| 9 | 黒褐色土 | 少量 |
| 10 | 褐色土 | 少量 |
| 11 | 黒褐色土 | 少量 |

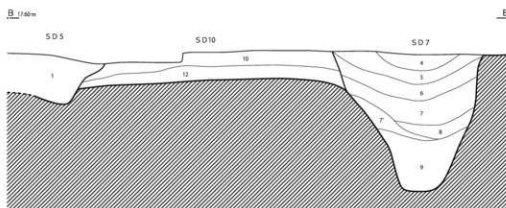
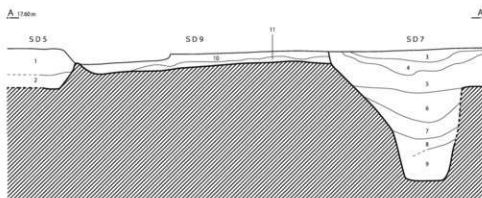
- SD1・7 (D-D')
- | | | |
|---|---------|--------------|
| 1 | 灰黄褐色土 | 締まりあり 粘性ややあり |
| 2 | 黒褐色土 | 締まりややあり 粘性弱 |
| 3 | にぶい黄褐色土 | 少量 |
| 4 | 褐灰色土 | 少量 |
| 5 | 黒褐色土 | 少量 |
| 6 | 黒褐色土 | 少量 |
| 7 | 黒褐色土 | 少量 |
- SD6 (E-E')
- | | | |
|---|------|--------------|
| 1 | 黒褐色土 | 締まりあり 粘性ややあり |
|---|------|--------------|



第34図 ②区清跡(4)



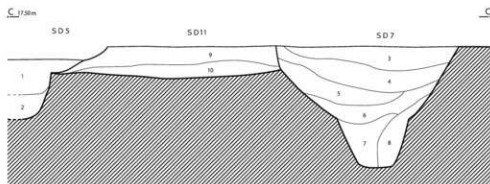
第35图 ②区溝跡(5)



SD5・7・9・10 (A-A' B-B')

- 1 灰黄褐色土 締まりややあり 粘性弱 ロームブロック ローム粒子少量
 2 に近い黄褐色土 締まりややあり 粘性弱 ロームブロック多量
 3 褐灰色土 締まりややあり 粘性弱 灰色土粒子多量
 4 灰黄褐色土 締まり・粘性あり 灰色土ブロック多量
 5 黒褐色土 締まりあり 粘性ややあり ローム粒子微量 灰色土粒子少量
 6 褐灰色土 締まりあり 粘性ややあり 灰色土ブロック粒子多量 ローム粒子微量

- 7 黒褐色土 締まり・粘性あり 灰色土粒子少量 ローム粒子多量
 7' 黒褐色土 締まり・粘性あり 灰色土 ロームブロック
 8 黒褐色土 締まり・粘性あり ローム粒子微量
 9 暗褐色土 締まり・粘性あり ロームブロック
 10 灰黄褐色土 締まり・粘性ややあり ローム粒子多量
 11 褐色土 締まりややあり 粘性やや弱 ローム大ブロック多量
 12 に近い黄褐色土 締まりややあり 粘性やや弱 ローム大ブロック多量



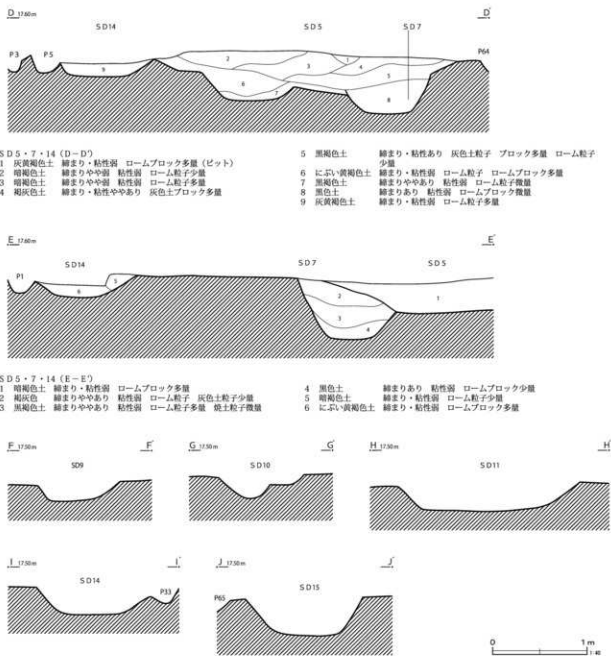
SD5・7・11 (C-C')

- 1 灰黄褐色土 締まり・粘性ややあり 灰色土粒子少量 ローム粒子少量
 2 に近い黄褐色土 締まり・粘性弱 ローム粒子 ロームブロック多量
 3 灰黄褐色土 締まりややあり 粘性弱 灰色土粒子 焼土粒子
 4 褐色土 炭化粒子少量 粘性弱 ローム粒子 灰色土粒子少量 焼土粒子 炭化粒子微量

- 5 黒褐色土 締まり・粘性ややあり ローム粒子 灰色土粒子 焼土粒子少量
 6 黒褐色土 締まりあり 粘性ややあり ローム多量 灰色土ブロック少量
 7 黒褐色土 締まりあり 粘性ややあり ローム粒子多量
 8 暗褐色土 締まりあり 粘性ややあり ローム粒子多量
 9 黒褐色土 締まり・粘性弱 ローム粒子微量
 10 に近い黄褐色土 締まり・粘性弱 ロームブロック多量

0 1m

第36図 ②区清跡(6)



第37図 ②区溝跡(7)

する。南側は調査区域外へ延びている。北側で第5号溝跡と南側で第1号溝跡と重複するが、新旧関係は不明である。検出できた長さ3.6m、幅0.4~0.6m、深さ0.26mを測る。走行方位はN-28°-Wを指す。

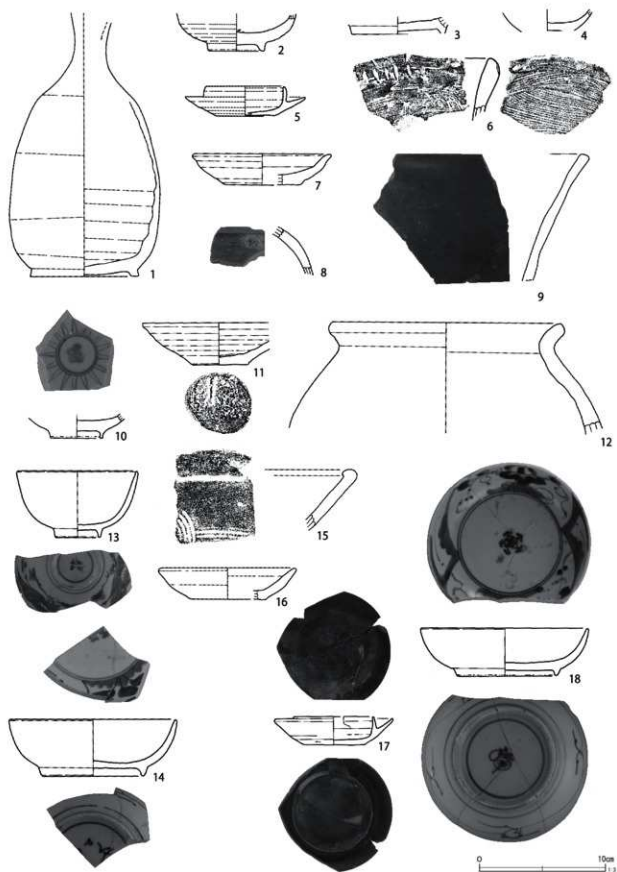
第5号溝跡(第31~36・38図)

東側調査区の西部から西側調査区へと延びており、K-7、J-7~10グリッドに位置する。

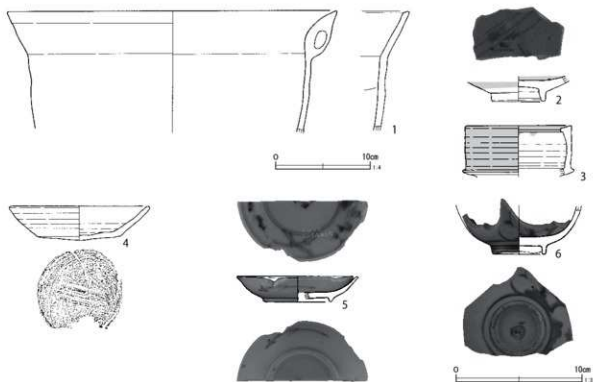
第4~8号井戸跡、第7号土壇と重複し、第4号井戸跡・第7号溝跡より新しく、他遺構より古い。K-7グリッドで南へ屈曲するが、検出できた長さ39m、幅0.9~1.25m、深さ0.2~0.45mを測る。走行方位はN-80°-Wを指す。遺物は陶磁器が出土した。

第6号溝跡(第33・34・38図)

西側調査区の東寄りのJ-9グリッドに位置す



第 38 图 ②区清跡出土遺物



第39図 ②区溝跡・遺構外出土遺物

る。第1・5号溝跡、第9号土壇と重複し、土壇より古い。溝跡との新旧関係は不明である。検出できた長さは4.3m、幅0.6m、深さ0.26mを測る。走行方位はN-58°-Wを指す。土師器が出土した。

第7号溝跡 (第33~39図)

西側調査区の西半部のJ-9、K-7~9グリッドに位置する。第1・5号溝跡より古く、第9・10・11号溝跡より新しい。東部および西部ともに調査区域外へ延びている。検出できた長さ36m、幅1.5~1.8m、深さ1.2~1.45mを測る。走行方位はN-84°-Wを指す。遺物は陶磁器・内耳銅が出土した。

第8号溝跡 (第33・34・38図)

西側調査区の中央部J・K-8グリッドに位置する。調査区を横断するが北側で第5号溝跡、南側で第1号溝跡と重複するが、新旧関係は不明で

ある。検出できた長さ2.7m、幅0.35~0.65m、深さ0.2mを測る。走行方位はN-5°-Wを指す。遺物は、かわらけ・播鉢が出土した

第9号溝跡 (第35・36図)

西側調査区の中央部J・K-8グリッドに位置する。調査区を横断するが北側で第5号溝跡、南側で第7号溝跡と重複するが、第5号溝跡より古い。他は不明である。検出できた長さ2.6m、幅0.6~0.9m、深さ0.2mを測る。走行方位は、N-20°-Wを指す。

第10号溝跡 (第33・34図)

西側調査区の中央部J・K-8グリッドに位置する。調査区を横断するが北側で第5号溝跡、南側で第7号溝跡と重複するが、第5号溝跡より古い。他は不明である。検出できた長さ2.8m、幅0.34~0.9m、深さ0.2mを測る。走行方位はN-10°-Wを指す。

第11号溝跡 (第35・36・38区)

西側調査区の西寄りのJ・K-7グリッドに位置する。調査区を横断し、北側で第5号溝跡、南側で第7号溝跡と重複するが、新旧関係は不明である。検出できた長さ2.8m、幅1.85~2.80m、深さ0.27mを測る。走行方位はN-25°-Wを指す。遺物は灯明皿が出土した。

第12号溝跡 (第33・34・38・39区)

西側調査区の東寄りのJ-8・9グリッドに位置する。第12号土壌、第6号井戸跡、第13号溝跡と重複し、第13号溝跡より古い。他は不

明である。検出できた長さ5.2m、幅0.3~0.35m、深さ0.6mを測る。走行方位はN-77°-Eを指す。遺物は陶磁器が出土した。

第13号溝跡 (第33・34区)

西側調査区の東寄りのJ-8・9グリッドに位置する。第12号溝跡と重複し、当溝跡のほうが新しい。検出できた長さ3.45m、幅0.22~0.34m、深さ0.35mを測る。走行方位はN-73°-Eを指す。遺物は陶磁器片の他、焙烙片も出土しているが、図示できなかった。

第6表 ②区溝跡出土遺物観察表 (第38区)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考	図版
1	陶器瓶			8.5	-	良好	灰白	90	S D 5 褐色・灰色釉 19世紀	9-7
2	陶器碗			4.5	B	普通	にぶい黄橙	60	S D 5 美濃瀬戸 外面褐色釉 17世紀	
3	陶器皿			7.4	G	良好	にぶい黄橙	90	S D 5 美濃瀬戸 外面褐色釉 17世紀	
4	磁器碗			3.6	G	良好	灰白	70	S D 5 透明釉・染付 19世紀	
5	陶器灯明皿	(6.2)	2.4	(4.6)	B	良好	にぶい黄橙	35	S D 5	
6	土師器瓶				A B	良好	浅黄橙	破片	S D 6 常陸系	
7	陶器皿	(10.6)	2.5	(6.0)	G	良好	灰	破片	S D 7 美濃瀬戸 志野皿 17世紀	
8	陶器壺				G	良好	灰黄褐	破片	S D 7 中世 淡緑色釉	
9	土器鍋				A B F K	普通	灰	破片	S D 7 中世	
10	磁器皿			4.2	-	良好	白	80	S D 7 透明釉・染付 見込み五弁 コンニャク印判 高台砂目	
11	土器かわらけ	(12.0)		4.6	A B D	普通	浅黄橙	35	S D 7 ロクロ痕	
12	土器裏	(18.0)			A B E G	普通	淡橙	20	S D 7 在地産 中世	
13	磁器碗	(9.4)	5.3	(3.5)	-	良好	灰白	40	S D 7 透明釉・染付 高台内『大明□□』 19世紀	
14	磁器碗	(12.4)	4.3	(7.6)	-	良好	灰白	20	S D 7・13 透明釉・染付 見込み五弁 コンニャク印判 高台内文字 トチン跡	
15	土器插鉢				A	普通	橙	破片	S D 8 15世紀	
16	土器かわらけ	(10.7)	2.5	(6.0)	A B	普通	浅黄橙	10	S D 8	
17	陶器灯明皿	(9.3)	2.2	4.8	B G	普通	にぶい黄橙	80	S D 11	
18	磁器皿	13.1	3.8	7.7	-	良好	白色	90	S D 12 見込み五弁コンニャク印判 高台内満福 肥前系 17世紀	

第7表 ②区溝跡・遺構外出土遺物観察表 (第39区)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考	図版
1	内耳鍋	(34.5)			B J K	普通	黒褐	25	S D 7	10-1
2	陶器碗			4.2	A G	良好	黄白	50	S D 12 見込み模様 トチン跡2	
3	陶器香炉	(8.2)			B	良好	灰白	40	S D 12 褐色釉	
4	土器かわらけ	10.8	2.8	6.6	A B G	普通	橙	70		
5	磁器小皿	(9.6)		(5.2)	-	良好	灰白	40	透明釉・染付 見込み五弁コンニャク 印判 肥前系	
6	磁器碗			4.2	-	良好	灰白	40	透明釉・染付外面 高台内満福 肥前系 19世紀	

4. 第12次③区の遺構と遺物

(1) 竪穴状遺構

第1号竪穴状遺構 (第41図)

H-15グリッドに位置し、北側は調査区域外に延びている。東側で第1号土壌・第1号井戸跡と重複しているが、第1号井戸跡のほうが古い。平面形は不明であるが検出できた規模は、3.45m×2.53m、深さ0.22mを測る。

(2) 土壌

第1号土壌 (第42図)

H-15・16グリッドに位置し、北側で第2号井戸跡と重複し、当土壌のほうが新しい。平面形はL字形を呈し、検出できた東西262cm、南北210cm、深さ23cmを測る。

第2号土壌 (第42図)

I-13グリッドに位置し、西側で第3号土壌と重複し、当土壌のほうが新しい。平面形は楕円形で、検出できた長軸230cm、短軸134cm、深さ10cmを測る。主軸方位は、N-53°-Eを指す。遺物は出土しなかった。

第3号土壌 (第42図)

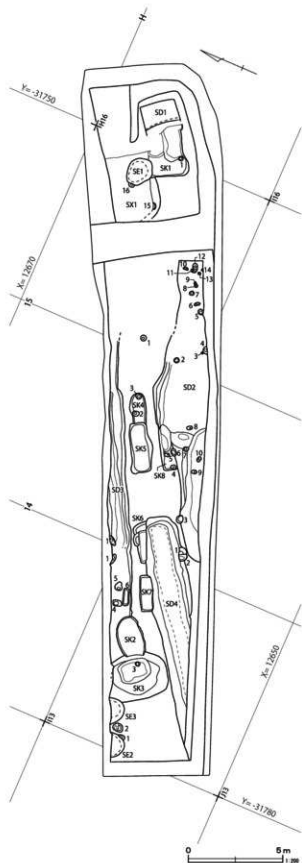
I-13グリッドに位置し、北側は調査区域外へ延びる。東側で第2号土壌と重複するが、当土壌のほうが古い。平面形は不整楕円形と推定され、検出できた長軸300cm、短軸235cm、深さ53cmを測る。主軸方位は、N-31°-Wを指す。遺物は土師質土器片が出土した。

第4号土壌 (第42図)

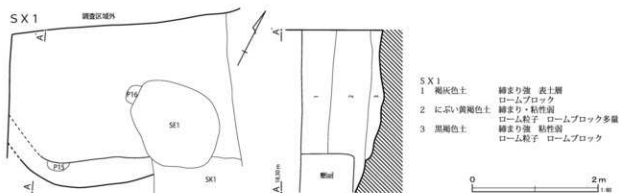
H-14グリッドに位置し、西側で第5号土壌と重複するが、新旧関係は不明である。平面形は楕円形と推定され、検出できた長軸154cm、短軸86cm、深さ10cmを測る。主軸方位は、N-63°-Eを指す。遺物は出土しなかった。

第5号土壌 (第42図)

H-14グリッドに位置し、東側で第4号土壌と重複し、新旧関係は不明である。平面形は長方形で検出できた長さ262cm、幅114cm、深さ63cm



第40図 内郷遺跡 12次③区全体図



第41図 ③区竪穴状遺構

63cmを測る。主軸方位は、 $N-63^{\circ}-E$ を指す。遺物は土師質土器片が出土した。

第6号土壌 (第43図)

I-13・14グリッドに位置する。南側で第4号溝跡と重複し、当土壌のほうが新しい。平面形は長方形と推定され、検出できた長さ218cm、深さ25を測る。主軸方位は、 $N-61^{\circ}-E$ を指す。遺物は出土しなかった。

第7号土壌 (第43図)

I-13グリッドに位置する。南側で第4号溝跡と重複し、当土壌のほうが新しい。平面形は長方形と推定され、検出できた長さ196cm、幅68cm、深さ19cmを測る。主軸方位は、 $N-64^{\circ}-E$ を指す。遺物は出土しなかった。

第8号土壌 (第43図)

I・J-14グリッドに位置する。東側と南側で第2号溝跡と重複し、新旧関係は不明である。平面形は長方形と推定され、検出できた長さ245cm、深さ30cmを測る。主軸方位は、 $N-64^{\circ}-E$ を指す。遺物は出土しなかった。

(3) 井戸跡

第1号井戸跡 (第44図)

H-15グリッドに位置する。第1号竪穴状遺構と第1号土壌と重複し、当土壌が最も古い。平面形は不整楕円形で、長軸154cm、短軸130cm、深さ0.7m以上を測る。主軸方位は、 $N-70^{\circ}-W$ を指す。遺物は五領期の土師器片が出土した。

第2号井戸跡 (第44図)

I-12・13グリッドに位置し、第3号井戸跡が東側に隣接している。北側は調査区域外へ延びている。平面形は円形と推定され、検出できた径1.30m、深さ0.8m以上を測る。遺物は五領期の土師器片が出土した。

第3号井戸跡 (第44図)

H-13グリッドに位置し、第2号井戸跡が西側に隣接している。平面形は円形と推定され、検出できた径1.42m、深さ0.9m以上を測る。遺物は出土しなかった。

(4) 溝跡

第1号溝跡 (第45図)

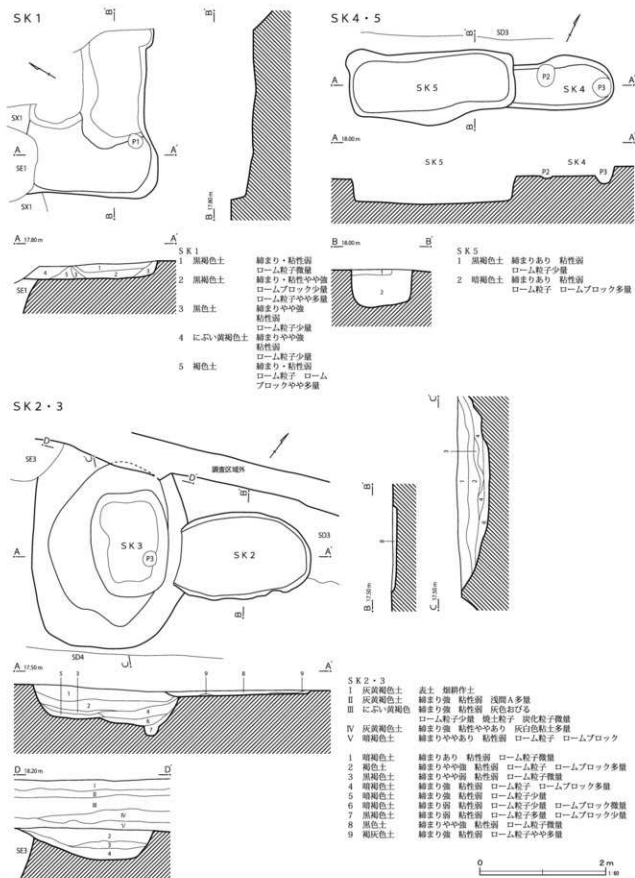
東側調査区のH-16グリッドに位置する。溝底は確認できなかった。検出できた長さ1.8m、幅、深さともに不明である。走行方位は $N-36^{\circ}-W$ を指す。遺物は焙烙片や土師質土器片が出土した。

第2号溝跡 (第45図)

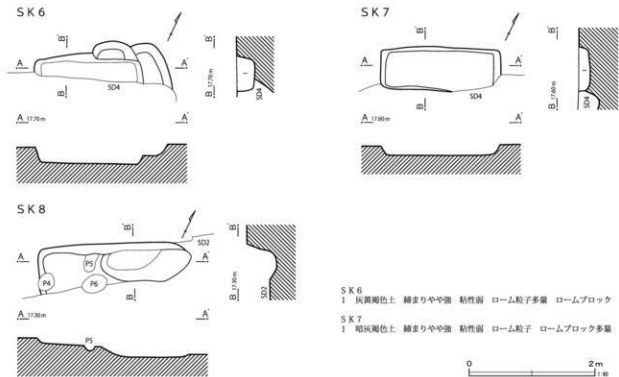
調査区の中央部のH・I-14・15グリッドに位置する。南側は調査区域外に延びている。検出できた長さ16m、深さ0.5~0.6mを測る。遺物は五領期の土師器片、土師質土器片が出土した。

第3号溝跡 (第46図)

調査区の北壁に沿ってH・I-13・14グリッドに位置する。北側は調査区域外へ延びている。検出できた長さ14.6m、深さ0.3mを測る。走行方位は $N-62^{\circ}-E$ を指す。遺物は古墳時代前



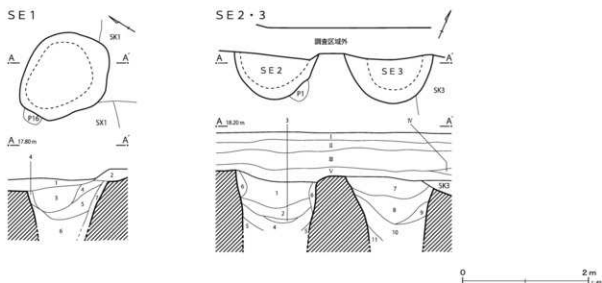
第 42 図 ③区土坑 (1)



SK 6
1 灰黄褐色土 締まりやや強 粘性弱 ローム粒子多量 ロームブロック

SK 7
1 灰褐色土 締まりやや強 粘性弱 ローム粒子 ロームブロック多量

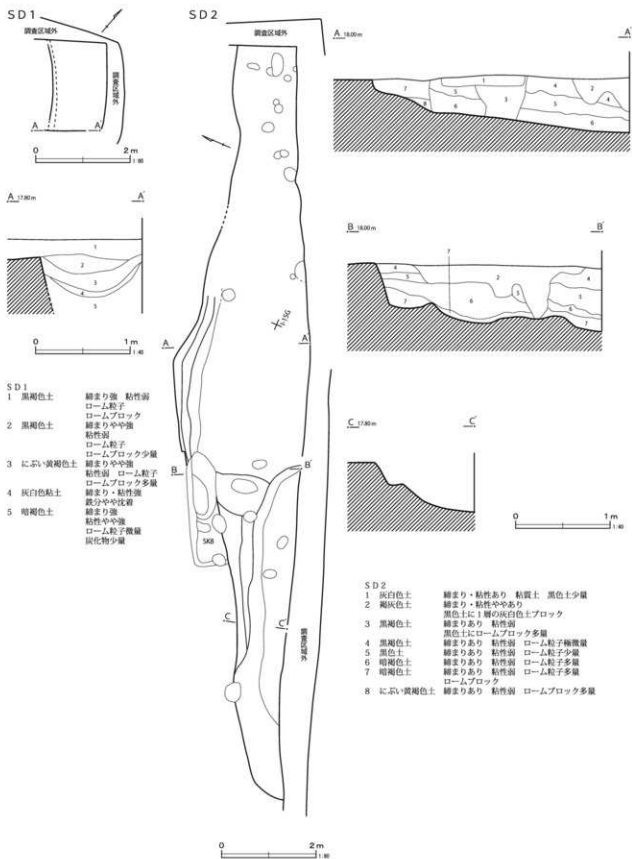
第43図 ③区土壌(2)



- SE 1
- 1 にふい黄褐色土 締まりやや強 粘性弱
ローム粒子少量
 - 2 にふい黄褐色土 締まり・粘性弱
ローム粒子 多量
 - 3 暗褐色土 締まり強 粘性やや強
ローム粒子少量 均質な堆積土
 - 4 暗褐色土 締まりやや強 粘性弱
ローム粒子少量
 - 5 暗褐色土 締まりに欠ける 粘性強
砂粒子
 - 6 黒褐色土 粘性強 漆黒色土 砂粒子
 - 7 にふい黄褐色土 締まり・粘性やや強
ローム粒子多量
崩落土

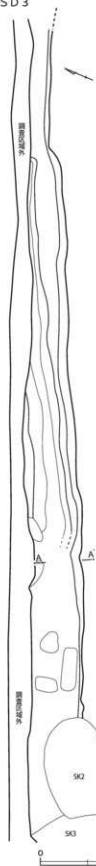
- SE 2・3
- I 灰黄褐色土 表土 燧石作土
 - II 灰黄褐色土 締まり強 粘性弱 茂樹A多量
 - III にふい黄褐色土 締まり強 粘性弱 灰色おびる
ローム粒子少量
塊土粒子 灰化粒子微量
 - IV 灰黄褐色土 締まり強 粘性ややあり
灰白色粘土多量
 - V 暗褐色土 締まりややあり 粘性弱
ローム粒子 ロームブロック
締まりあり 粘性弱
ローム粒子微量
 - 1 灰黄褐色土 締まりあり 粘性弱
ローム粒子 塊土粒子微量
 - 2 暗褐色土 締まりあり 粘性弱
塊土ブロック多量
 - 3 暗褐色土
 - 4 暗褐色土 締まりややあり 粘性弱
ローム粒子
 - 5 にふい黄褐色土 締まりあり 粘性弱
ローム粒子多量
 - 6 暗褐色土 締まりあり 粘性弱
ローム粒子多量
 - 7 にふい黄褐色土 締まりあり 粘性弱
ローム粒子多量
 - 8 暗褐色土 締まりあり 粘性弱
ロームブロック ローム粒子多量
 - 9 暗褐色土 締まり強 粘性弱
ロームブロック多量
 - 10 黒褐色土 締まり強 粘性ややあり
ロームブロック少量
 - 11 黒褐色土 締まりあり 粘性ややあり
ローム粒子少量

第44図 ③区井戸跡

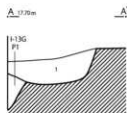


第45図 ③区溝跡(1)

SD3



SD3

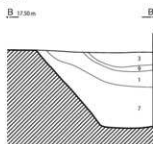


SD3

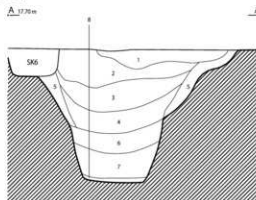
1 灰黄褐色土 粘まり・粘性弱 ローム粒子少量
ロームブロック



SD4



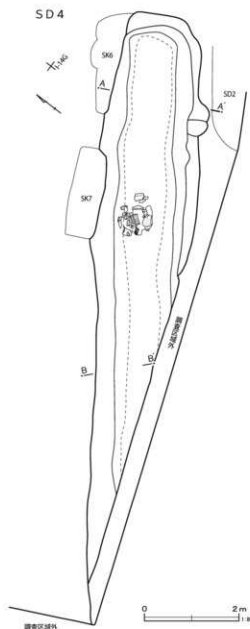
SD4



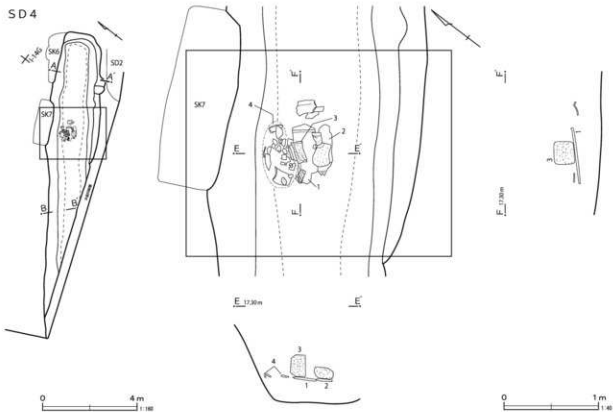
SD4

1 褐灰色土 粘まり・粘性弱
ロームブロック少量 粘土
2 灰黄褐色土 粘まりやや強 粘性弱
ローム粒子やや多量
ロームブロック
3 灰黄褐色土 粘まり強 粘性やや強
ローム粒子少量 北側灰
4 黒褐色土 粘まり強 粘性やや強
ローム粒子少量
北側炭化物 ローム粒子
ロームブロック集中
5 褐色土 粘まり弱 粘性やや強
ローム粒子多量
南側炭化物
6 黄褐色土 粘まり・粘性強
粘りに近似
下部に炭 炭化物堆積
粘まりやや強 粘性あり
ローム粒子・炭化物少量
湧水あり
7 暗褐色土 粘まり弱 粘性ややあり
ローム粒子やや多量
黒色腐植質土堆積
8 黒褐色土 粘まり強 粘性あり
9 灰白土 粘まり強 粘性あり

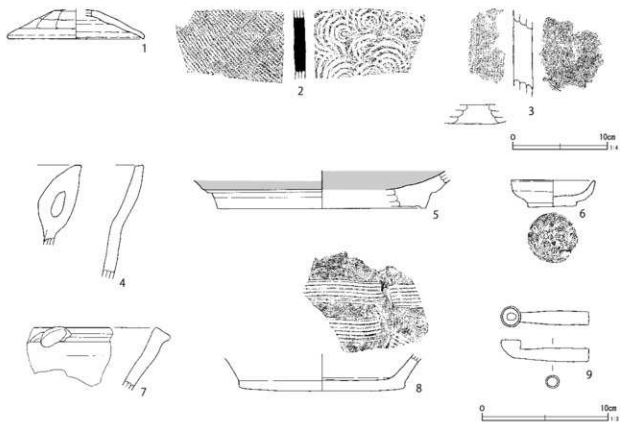
SD4



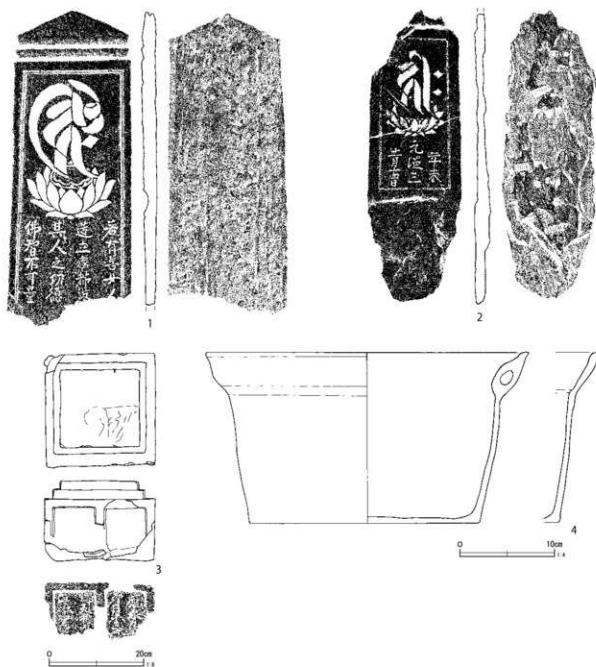
第46図 ③区清跡(2)



第47图 ③区第4号清跡遺物出土狀況



第48图 ③区第4号清跡出土遺物(1)



第49図 ③区第4号溝跡出土遺物(2)

第8表 ③区第4号溝跡出土遺物観察表(第48図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考	図版
1	土器蓋	(14.0)		(4.8)	A F	普通	にぶい、橙	20	No.27 体部外面へラ削り	10-2
2	須恵器裏				B	良好	灰	破片	No.21	
3	瓦				B G	普通	灰	破片	No.11 外面布目	
4	土器内耳鍋				F G	普通	浅黄橙	破片	No.1 16世紀	
5	陶器鉢			(16.6)	A B G	良好	浅黄橙	10	内外面透明釉	
6	土器かわらけ	6.5	2.1	3.8	A F G	普通	橙	95	口唇部油煙	
7	陶器片口鉢				J	良好	にぶい、赤褐	破片	No.9 常滑	
8	土器桶鉢			(13.2)	D	普通	褐灰	30	No.6 在地産 16世紀	
9	煙管								長さ6.3cm 径0.9cm	

第9表 ③区第4号溝跡出土遺物観察表(第49図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考	図版
4	土器内耳鍋	34.2	18.0	24.3	A B F G	普通	黒	98	No.28 16世紀前半	巻頭2

期の土師器片が出土した。

第4号溝跡(第46~49図)

I-13・14グリッドに位置する。第6・7号土城と重複し、当溝跡のほうが古い。検出できた長さ12m、幅2.1m、深さ1.4mを測る。走行方位はN-55°-Eを指す。溝跡がある程度埋まっただから板碑・内耳鍋・宝篋印塔の基部がまともに投棄された状態で出土した。

出土遺物

板碑(第49図1・2)

1は下部が欠失しており、上幅24.5cm、下幅26.0cm、厚さ3.0cm、遺存長66.0cmである。二条線はくっきりと彫り出され、二重の枠線が廻る。種子は阿彌陀如来(キリーク)で連座の上に乗る。その下には四行に「若有善女人 造立□□漢 其

人之功德 佛智不可量」と刻まれている。

2は上部が欠失しており、上幅18.7cm、下幅26.2cm、厚さ2.0cm、遺存長60.7cmである。二条線は一条のみ確認でき、幅3~4mmの浅い枠線が廻る。種子は阿彌陀如来(キリーク)で連座の上に乗る。その下には三行に「年羊□元温三(元徳1331か)十一月十四日」と刻まれている。裏面には数か所ながら工具痕がみられる。工具痕の幅はおよそ1.5cmである。

宝篋印塔(第49図3)

宝篋印塔の基礎の部分である。23.5cm四方で高さ16.9cmを測る。側面右側に「應永九年(1402)卯月十三日」、左側に「還□権□」と総数八字が刻まれているが卑読できない。

5. 第12次④区の遺構と遺物

(1) 住居跡

第1号住居跡(第51・52図)

F・G-18グリッドに位置する。平面形は東西方向に長軸をもつ長方形である。長軸4.46m、短軸3.83mを測り、長軸方位はN-67°-Eを指す。

カマドは、東辺のやや南寄りに敷設され、1.3m×1.1mの楕円形状に掘り窪められている。貯蔵穴は北東コーナーの壁際に敷設されている。長軸84cm、短軸70cmの楕円形で床面からの深さは20cmを測る。壁溝は全周し、幅28~50cm、深さ5~10cmを測る。遺物は奈良時代の土師器片が出土した。

第2号住居跡(第53図)

E-20グリッドに位置する。北西辺と南東辺の一部は調査区域外に延びる。平面形は不詳であ

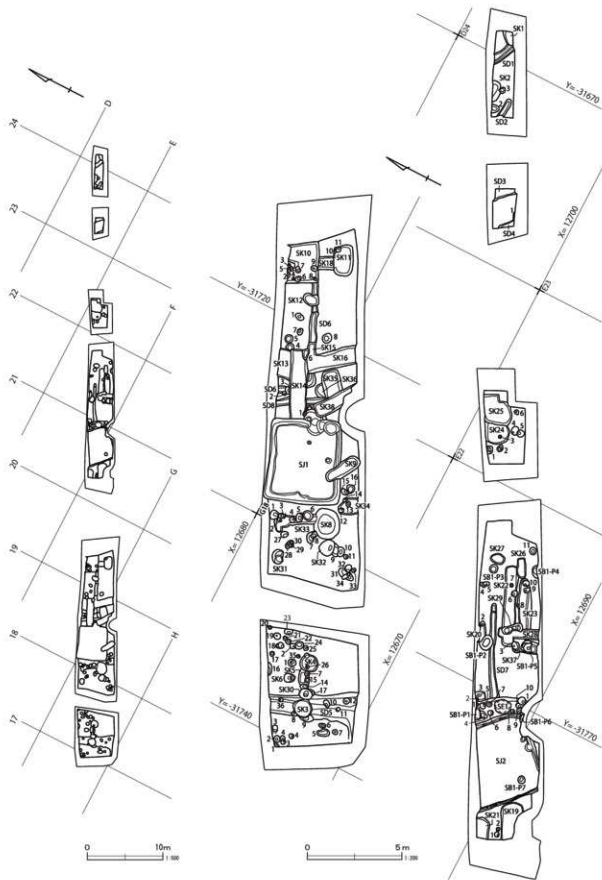
るが、検出できた長さは南東辺3.4m、南西から北東の長さ4.45mを測る。

カマドは、確認されなかった。壁溝は全周すると推定され、幅20~30cm、深さ10cmを測る。遺物は出土しなかった。

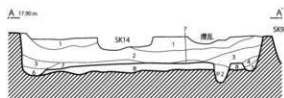
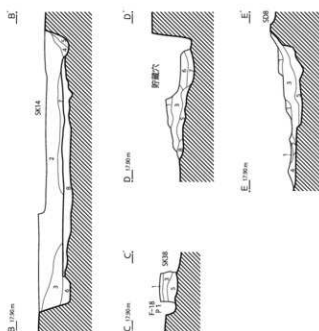
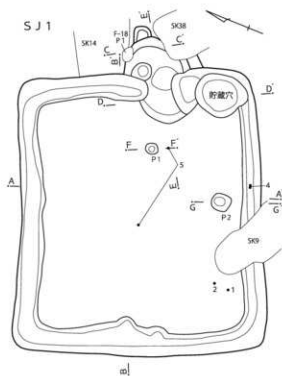
(2) 掘立柱建物跡

第1号掘立柱建物跡(第54図)

E-20・21、F-20グリッドに位置する。東西南方向3間11.0m、南北方向1間2.2~2.45mが確認され、調査区域外へと広がることが予想される。柱穴は円形及び楕円形で、深さ0.6~0.8mを測る。



第50图 内城遗址12次④区全体图



SJ1

- | | | | |
|-----------|---------|-------|-----------------|
| 1 暗褐色土 | 締まり・粘性弱 | ローム粒子 | 焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色土 | 締まりややあり | 粘性弱 | ローム粒子少量 |
| 3 黒褐色土 | 締まりややあり | 粘性弱 | ローム粒子 |
| | | | 焼土粒子少量 |
| | | | 炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色土 | 締まりややあり | 粘性弱 | ローム粒子微量 |
| 5 にぶい黄褐色土 | 締まりややあり | 粘性弱 | ローム多量 |
| 6 にぶい黄褐色土 | 締まりややあり | 粘性弱 | ローム粒子少量 |
| | | | ロームブロック多量 |
| 7 褐色土 | 締まり強 | 粘性弱 | ローム粒子 |
| | | | ロームブロック多量(粘床か?) |
| 8 にぶい黄褐色土 | 締まり強 | 粘性弱 | 黒色土 |
| | | | 焼土粒子混入 |
| | | | 粘床 |

SJ1 カマド

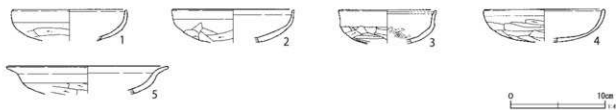
- 1 黒褐色土 締まりややあり 粘性弱 焼土粒子 灰色粘土粒子多量
- 2 灰白色土 締まり強 粘性あり 灰白色粘質シルト主体 焼土ブロック
- 3 暗褐色土 締まりあり 粘性ややあり 灰白色粘質土ブロック 焼土ブロック多量 炭化粒子少量
- 4 灰黄褐色土 締まりややあり 粘性あり 灰白色粘質土 焼土粒子多量
- 5 黒褐色土 締まりやや弱 粘性弱 焼土粒子多量 炭化粒子少量
- 6 灰黄褐色土 締まり・粘性弱 ローム粒子少量
- 7 灰黄褐色土 締まりややあり 粘性弱 ロームブロック少量 焼土粒子微量
- 8 暗褐色土 締まり・粘性弱 ロームブロック多量

SJ1 ビット2

- 1 褐色土 締まりあり 粘性弱 ロームブロック多量
- 2 暗褐色土 締まりややあり 粘性弱 ローム粒子多量



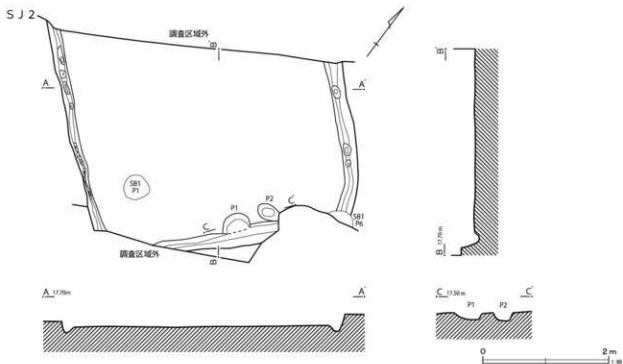
第51図 ④区第1号住居跡



第52図 ④区第1号住居跡出土遺物

第10表 ④区第1号住居跡出土遺物観察表(第52図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考	図版
1	土師器環	(12.0)			ABDEFG	普通	橙	20	No. 8	
2	土師器環	(12.8)			A B F G	良好	にぶい橙	25	No. 7	
3	土師器環	(10.2)			A B	良好	にぶい橙	20		
4	土師器環	12.5			B D F G	良好	橙	45	No.10・21	10-3
5	土師器環	(16.8)			A B D G	普通	橙	25	No.5・20	



第53図 ④区第2号住居跡

(3) 土壌

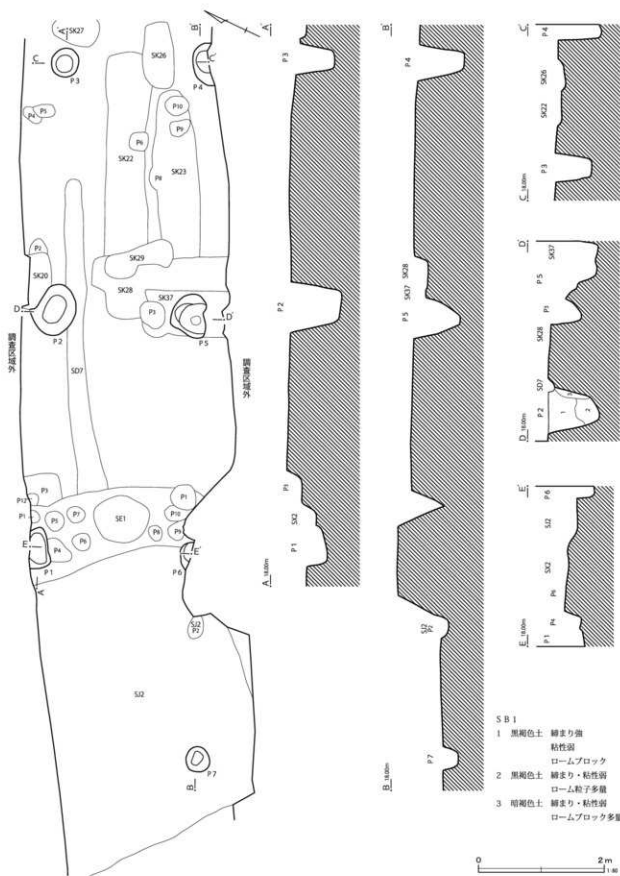
土壌は38基検出された。実測可能な遺物を出土した2基以外は第12表にまとめた。

第11号土壌 (第55・59図)

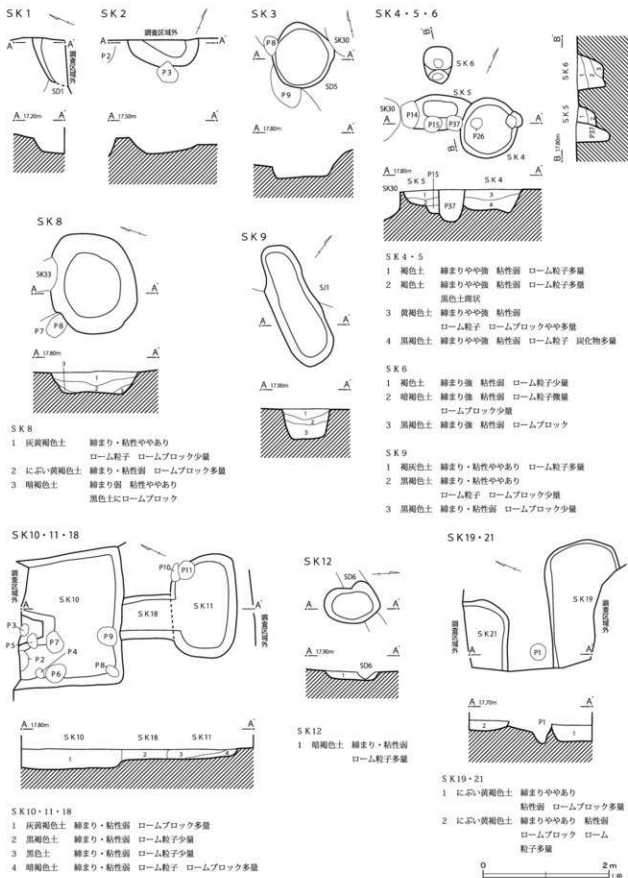
F-19グリッドに位置する。第18号土壌と重複し、当土壌が漸しい。平面形は隅丸方形で、長さ110cm、幅70cm、深さ10cmを測る。主軸方位はN-65°-Eを指す。遺物は灯明皿が出土した。

第19号土壌 (第55・59図)

F-20グリッドに位置する。南側と西側は調査区域外となっている。楕円形と推定され、検出できた長さ1.95m、幅1.18m、深さ26cmを測る。主軸方位はN-61°-Eを指す。陶器皿が出土した。

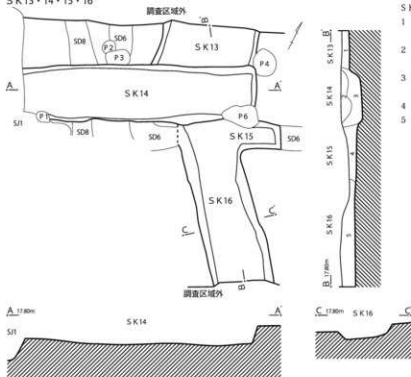


第54図 ④区第1号掘立柱建物跡



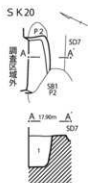
第55図 ④区土壌(1)

SK13・14・15・16



SK13・14・15・16

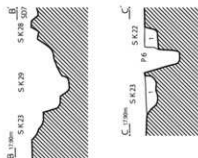
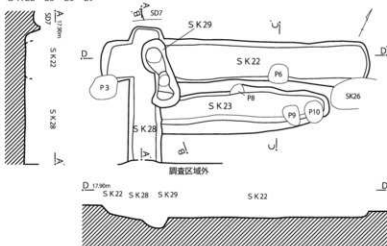
- 1 濃い黄褐色土 締まり・粘性弱
ロームブロック少量
- 2 灰黄褐色土 締まり・粘性弱
ローム粒子多量
- 3 暗褐色土 締まり・粘性弱 ローム粒子
ロームブロック少量
- 4 褐灰色土 締まり・粘性弱 ロームブロック少量
- 5 黒褐色土 締まり・粘性弱 ローム粒子
ロームブロック少量



SK20

- 1 灰黄褐色土 締まり・粘性弱
ロームブロック多量

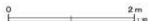
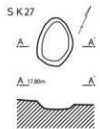
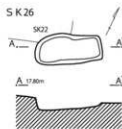
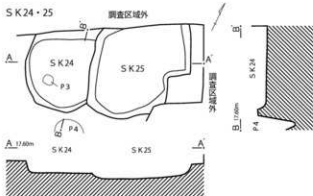
SK22・23・28・29



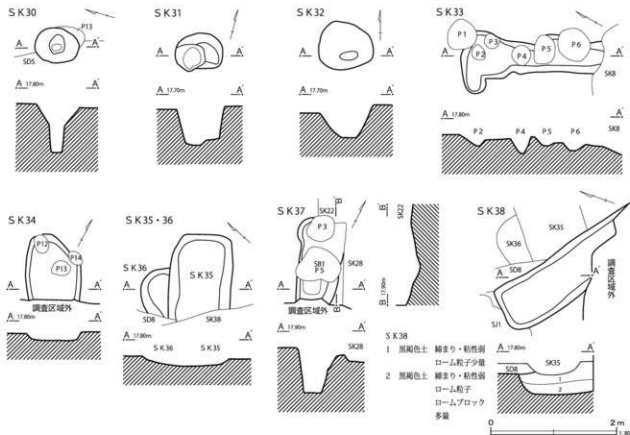
SK22・23

- 1 黒褐色土 締まりあり 粘性弱
ローム粒子少量 ロームブロック多量

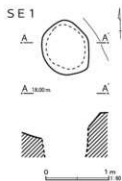
SK24・25



第56図 ④区土城(2)



第57図 ④区土壌(3)



第58図 ④区第1号井戸跡

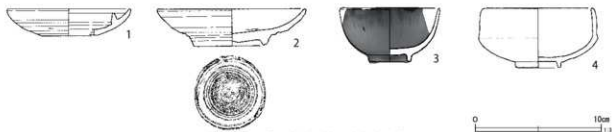
(4) 井戸跡

第1号井戸跡 (第58・59図)

E-20グリッドに位置する。平面形は楕円形で長軸88cm、短軸76cm、深さは不明である。主軸方位はN-28°-Wを指す。遺物は陶磁器が出土した。

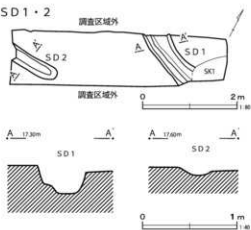
(5) 溝跡 (第60図)

溝跡は8条確認された。第1・5号溝跡から陶器片が出土したが、図示できなかった。他の溝跡からはいずれも遺物は出土しなかった。溝跡については第13表にまとめた。

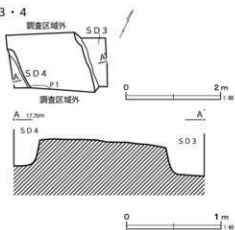


第59図 ④区土壌・井戸跡出土遺物

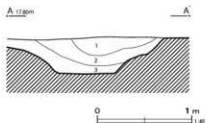
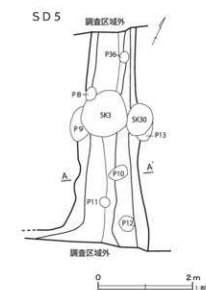
SD1・2



SD3・4



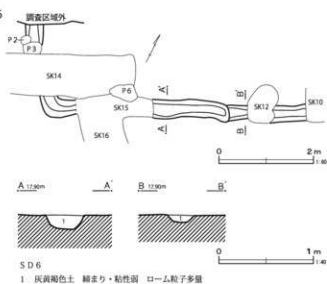
SD5



SD5

- 1 にぶい黄褐色土 粘まり強 粘性弱
ローム粒子や多量
ロームブロック少量
- 2 にぶい黄褐色土 粘まりやや強 粘性弱
ローム粒子微量
ロームブロック少量
- 3 褐色土 粘まりやや強 粘性弱
ローム粒子多量

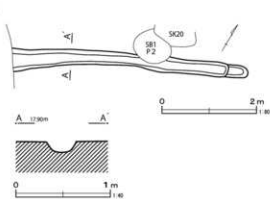
SD6



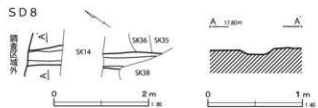
SD6

- 1 灰黄褐色土 粘まり・粘性弱 ローム粒子多量

SD7



SD8



第60図 ④区溝跡

第11表 ④区土壌・井戸跡出土遺物観察表 (第59図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考	図版
1	陶器灯明皿	(9.6)	2.1	(4.4)	B G	良好	灰	20	S K 11	10-4
2	陶器皿	11.7	2.9	5.8	B G	良好	にふい黄橙	100	S K 19	
3	磁器碗	(7.8)	4.2	3.2	G	良好	灰白	60	S E 1	
4	陶器碗	(8.6)	4.7	3.6	B G	普通	灰白	30	S E 1	

第12表 土壌計測表

番号	グリッド	形態	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	主軸方位	番号	グリッド	形態	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	主軸方位
1	D-24	不整形	(72)	(42)	26	N-58°-E	20	E-21	(長方形)	(90)	(34)	50	N-67°-E
2	D-23	不整形	106	(40)	23	N-61°-E	21	F-20	(長方形)	(108)	(60)	17	N-66°-E
3	G-17	円形	(104)	(98)	23	N-0°-E	22	E-21	(長方形)	(314)	60	23	N-65°-E
4	G-17	円形	94	(86)	31	N-15°-W	23	E-21	(長方形)	(246)	66	19	N-62°-W
5	G-17	(不整形)	(75)	54	31	N-70°-E	24	E-22	(方形)	(102)	124	23	N-66°-E
6	G-17	円形	58	44	42	N-37°-W	25	E-22	(方形)	162	100	25	N-55°-E
7	欠番						26	E-21	長方形	106	46	18	N-62°-E
8	G-18	円形	156	132	41	N-56°-E	27	E-21	楕円形	72	56	12	N-14°-E
9	G-18	楕円形	200	(72)	57	N-60°-W	28	E-21	(長方形)	(210)	50	23	N-22°-W
10	F-19	(方形)	(156)	206	34	N-25°-W	29	E-21	不整形	108	28	40	N-35°-W
11	F-19	長方形	110	70	10	N-54°-E	30	G-17	円形	(68)	(52)	76	N-7°-E
12	F-19	不整形	84	56	14	N-8°-W	31	G-17	円形	74	56	62	N-60°-E
13	F-18	(方形)	150	(65)	22	N-65°-E	32	G-17-18	円形	84	(70)	48	N-90°
14	F-18	方形	(364)	88	16	N-64°-E	33	G-18	(不整形)	(222)	47	18	N-31°-W
15	F-18	(不整形)	(152)	(98)	19	N-63°-E	34	G-18	(不整形)	(104)	88	14	N-30°-W
16	F-18	(方形)	(160)	90	23	N-38°-W	35	G-18	(方形)	(128)	98	20	N-47°-E
17	欠番						36	G-18	楕円形	(52)	(50)	19	N-9°-E
18	F-19	(方形)	(78)	68	18	N-27°-W	37	E-21	不整形	(132)	(68)	70	N-18°-W
19	F-20	(楕円形)	(195)	(118)	26	N-61°-E	38	G-18	(方形)	(220)	(74)	40	N-53°-W

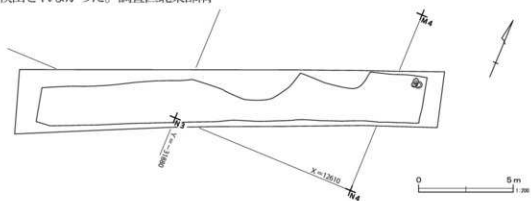
第13表 溝跡計測表

番号	グリッド	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	主軸方位	番号	グリッド	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	主軸方位
1	D-23・24	(1.20)	0.42	0.33	N-64°-E	6	F-18・19	(7.14)	0.40	0.14	N-39°-W
2	D-23	(0.98)	0.30	0.07	N-86°-E						N-64°-E
3	D-23	(1.02)	(0.56)	0.27	N-32°-W	7	E-20・21	(4.96)	0.38	0.14	N-62°-E
4	D-23	(0.86)	(0.24)	0.18	N-42°-W	8	F・G-18	(2.40)	0.40	0.12	N-30°-W
5	G-17	(4.50)	1.02	0.43	N-23°-W						

6. 第12次⑤区の遺構と遺物

調査区は南の低地に向かって傾斜しており、ほとんど遺構が検出されなかった。調査区北東部隅

で重複したビット3基が確認されただけである。



第61図 内郷遺跡12次⑤区全体図

7. 第12次⑥区の遺構と遺物

調査区の西半部で遺構が確認されたが、調査区東半は埋没谷となっており、遺構が検出されなかった。

(1) 土壌

第1号土壌 (第63図)

M-4グリッドに位置し、北側は調査区域外となっている。長方形と推定され、検出できた長さ100cm、幅82cm、深さ19cmを測る。主軸方位はN-17°-Wを指す。遺物は出土しなかった。

第2号土壌 (第63図)

M-4・5グリッドに位置し、南側は調査区域外へ伸び、北西部で第3号土壌と重複し、当土壌が新しい。長方形と推定され、検出できた長さ185cm、幅73cm、深さ15cmを測る。主軸方位はN-4°-Wを指す。遺物は出土しなかった。

第3号土壌 (第63図)

L-4・5グリッドに位置し、北側は調査区域外へ伸び、南東部で第2号土壌と重複し、当土壌のほうが古い。長方形と推定され、検出できた長さ65cm、幅80cm、深さ10cmを測る。主軸方位はN-10°-Wを指す。遺物は出土しなかった。

第4号土壌 (第63図)

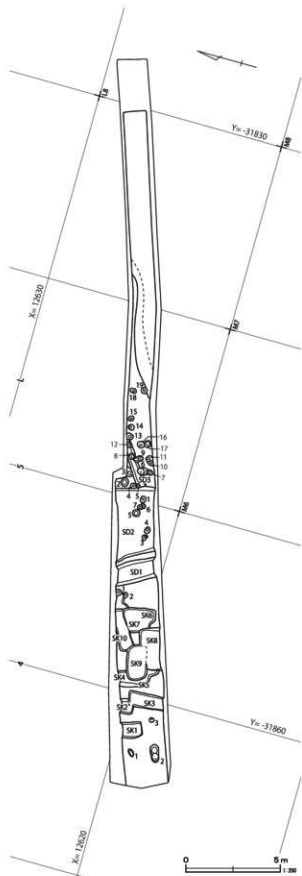
L・M-5グリッドに位置し、北側は調査区域外へ伸び、第5・9号土壌と重複し、第5号土壌とは新旧関係は不明であるが、第9号土壌より新しい。平面形は、長方形と推定され、検出できた長さ160cm、幅87cm、深さ18cmを測る。主軸方位はN-10°-Wを指す。遺物は出土しなかった。

第5号土壌 (第63図)

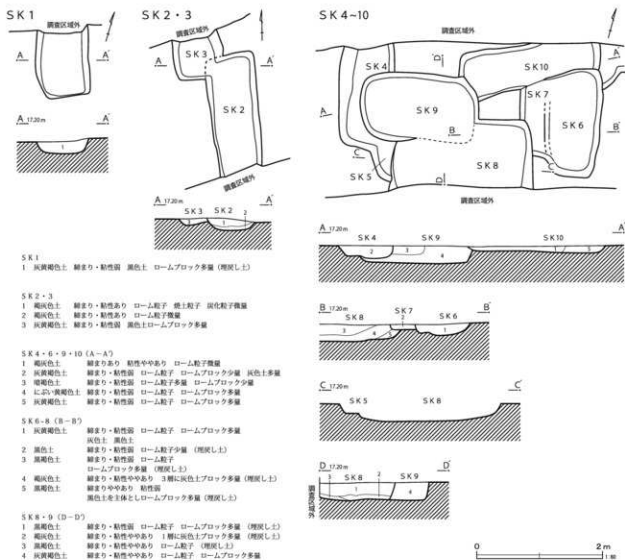
M-5グリッドに位置する。第4・8・9号土壌と重複するがいずれとも新旧関係は不明である。平面形は不明で、検出できた長さ65cm、幅47cm、深さ17cmを測る。遺物は出土しなかった。

第6号土壌 (第63図)

L・M-5グリッドに位置し、第7・8・10号溝と重複し、第7号土壌より新しいが、他は不



第62図 内郷遺跡 12次⑥区全体図



第63図 ◎区土壌

明である。長方形と推定され、検出できた長さ171cm、幅84cm、深さ17cmを測る。主軸方位はN-14°-Wを指す。遺物は出土しなかった。

第7号土壌 (第63図)

L・M-5グリッドに位置する。第6・8・10号土壌と重複し第8号土壌より新しく第6号土壌より古い。他は不明である。長方形と推定され検出できた長さ120cm、幅45cm、深さ8cmを測る。主軸方位はN-15°-Wを指す。遺物は出土しなかった。

第8号土壌 (第63図)

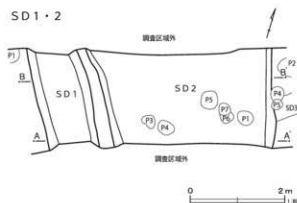
L・M-5グリッドに位置する。南側は調査区

域外へ延びている。第5・7・9号土壌と重複し、第9号土壌より新しく、第7号土壌より古い。他は不明である。長方形と推定され、検出できた長さ224cm、幅107cm、深さ29cmを測る。主軸方位はN-75°-Eを指す。遺物は出土しなかった。

第9号土壌 (第63図)

L・M-5グリッドに位置する。第4・8・10号土壌と重複し、第4・8号土壌より古い。他は不明である。長方形と推定され、検出できた長さ188cm、幅104cm、深さ28cmを測る。主軸方位はN-79°-Eを指す。遺物は出土しなかった。

SD1・2

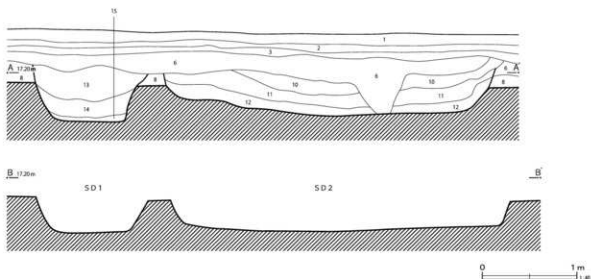


SD1

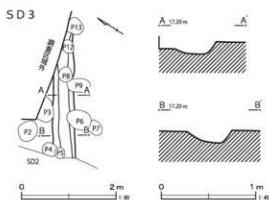
- 13 暗褐色土 締まりあり 粘性ややあり ローム粒子微量
 14 黒褐色土 締まりややあり 粘性弱 黒色土にローム粒子少量
 15 黒褐色土 締まりややあり 粘性弱 黒色土にローム粒子少量

SD2

- 1 灰黄褐色土 締まり強 粘性弱 浅間A火山灰少量 耕作土
 2 にぶい黄褐色土 締まり強 粘性弱 浅間A火山灰多量
 炭化物 焼土粒子微量
 3 にぶい黄褐色土 締まり強 粘性弱 浅間A火山灰微量 焼土粒子少量
 灰白色粘土ブロック少量
 4 にぶい黄褐色土 締まり強 粘性弱 焼土粒子 灰白色粘土ブロック微量
 5 にぶい黄褐色土 締まり強 粘性弱 灰白色粘土粒子多量 焼土粒子微量
 6 にぶい黄褐色土 締まり中強 粘性弱 塊状な土塊 焼土粒子微量
 7 黒褐色土 締まり・粘性やや強 黒色土層状
 8 黒色土 締まり・粘性やや強
 9 黒色土 有機物由来の黒色土と思われる 7層を少量
 締まり中強 粘性ややあり 8層にローム粒子
 ロームブロック多量
 10 黒褐色土 締まり・粘性弱 黒色土にロームブロック多量
 11 黒色土 締まり弱 粘性ややあり 黒色土にローム粒子少量
 12 黄褐色土 締まり弱 粘性なし 黒色土にロームブロック多量



第64図 ⑥区第1・2号溝跡



第65図 ⑥区第3号溝跡

形と推定され、検出できた長さ226cm、幅68cm、深さ7cmを測る。主軸方位はN-62°-Eを指す。遺物は出土しなかった。

(2) 溝跡

第1号溝跡 (第64図)

L-5グリッドに位置する。調査区を横断し、東側に近接して第2号溝跡が並行する。検出できた長さ1.92m、幅1.16m、深さ0.55mを測る。走行方位はN-28°-Wを指す。遺物は出土しなかった。

第2号溝跡 (第64図)

L-5・6グリッドに位置する。調査区を横断し、西側に近接して第1号溝跡が並行する。検出できた長さ1.92m、幅3.40~3.84m、深さ0.48mを測る。走行方位はN-31°-Wを指す。遺物

第10号土壌 (第63図)

L-5グリッドに位置する。北東側は調査区域外へ延びている。第6・7・9号土壌と重複し、第9号土壌より新しいが、他は不明である。長

物は出土しなかった。

第3号溝跡（第65図）

L-6グリッドに位置する。第2号溝跡・ピットと重複するが、新旧関係は不明である。検出で

きた長さ2.08m、幅0.33～0.40m、深さ0.12mを測る。走行方位はN-54° - Eを指す。遺物は出土しなかった。

8. 第12次その他の遺物

石器（第66図）

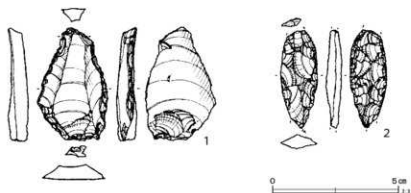
ナイフ形石器

1は外形が左右対称で基部下半分に最大幅がくる尖頭状を呈している。先端部は調整加工によって鈍角に切られている。素材剥片は縦長剥片を用い、基端面に打面を残置している。調整加工は右側縁の基端部から先端まで施されている。右側縁の剥離は使用によるものと思われる。大きさは長さ5.5cm、幅2.7cm、厚さ0.8cm、重さ8.8gである。

石器石材は黒曜石である。

槍先形尖頭器

2は下両端を衝撃剥離によって欠損している。外形は左右対称で基部やや上半部に最大幅がくる。調整加工は両面に施され、横断面は菱形を呈している。大きさは現状で長さ3.9cm、幅1.5cm、厚さ0.7cm、重さ3.7gである。石器石材はチャートである。



第66図 出土遺物

縄文土器（第67図）

1・2は中期中葉の勝坂式である。降帯や沈線、キャタピラ文により、胴部にパネル状の区画を構成する。1は刻みを持つ扁平な降帯が横位二段に巡り、文様帯上下の区画部分とみられる。2は平行沈線とキャタピラ文が縦走しており、縦位の区画文とみられる。

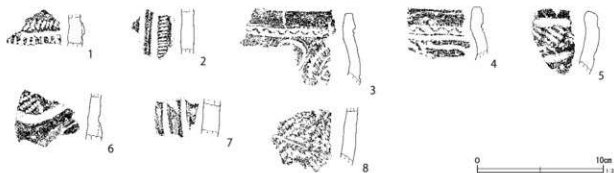
3・4は中期中葉の中峠式で、口縁部の破片である。いずれも第3号溝跡から出土しており、同一個体の可能性がある。キャリパー形の深鉢で、口縁内湾して口端が直立する。口縁直下に横位の

区画文を持ち、逆U字状の降帯を中心にして左右に沈線文が描かれる。口端部は無文で、文様帯との境に交互刺突を伴う平行沈線文が巡る。胎土に少量の砂粒を含み、焼成は良好である。

5～8は中期末葉の加曾利EⅢ式である。5はキャリパー形深鉢の口縁部で、横位の区画文が描かれるが、区画を構成する降帯は省略されており、幅広の沈線により文様が描かれる。地文はR L単節の縄文で、横位回転で充填施文される。内面には横方向の筐塗りが施される。6は口縁部区画文の一部である。扁平な降帯により文様が描かれ、

両側に幅広の沈線によるなぞりを伴っている。地文はR L単節の縄文で、縦位回転で充填施文される。7は胴部の磨り消し懸垂文である。3本沈線による懸垂文で、地文は不明。内面は研磨が徹底

される。8は縄文が施文される胴部で、磨り消し懸垂文を構成する縦位の沈線の一部が観察される。地文はR L単節の縄文で、縦位回転で施文される。いずれも胎土は砂質で、焼成は比較的良好である。



第67図 その他の遺物

9. 第13次の遺構と遺物

第12次調査の②区と③区の間に位置し、数層にわたり遺構が検出された。

(1) 土壌

第1号土壌 (第68図)

I・J-12グリッドに位置し、上層から検出された。平面形は方形で、93cm×95cm、深さ7cmを測る。遺物は出土しなかった。

第3号土壌 (第69図)

I-12グリッドに位置し、中層から検出された。東側は調査区域外へ延びている。平面形は円形と推定され、検出できた径95cm×90cm、深さ

17cmを測る。遺物は出土しなかった。

第4号土壌 (第69図)

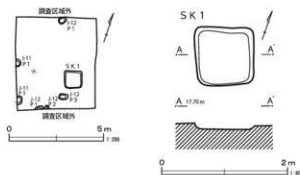
I-11・12グリッドに位置し、中層から検出された。平面形は不整形で主軸163cm、短軸107cm、深さ16cmを測る。主軸方位はN-65°-Eを指す。遺物は出土しなかった。

第6号土壌 (第70図)

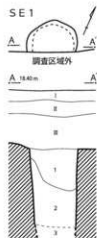
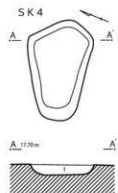
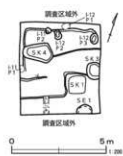
I-12グリッドに位置し、最下層から検出された。ピットと重複しているが新旧関係は不明である。平面形は不整形円形で長軸213cm、短軸130cm、深さ5~20cmを測る。主軸方位はN-4°-Wを指す。遺物は出土しなかった。

第7号土壌 (第70図)

I-11グリッドに位置し、最下層から検出された。北側と西側は調査区域外へ延びている。ピットと重複しているが新旧関係は不明である。平面形は不明であり、検出できた長さ90cm、幅60cm、深さ50cmを測る。遺物は出土しなかった。



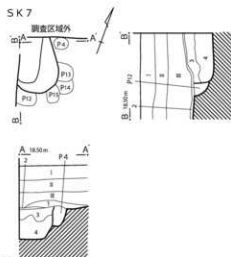
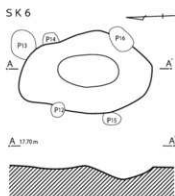
第68図 内郷遺跡第13次上面



- S K 3
 1 淡褐色土 粘性・締まり強 硬化された層(単一) 炭化物粒子
 S K 4
 1 淡褐色土 ローム粒子多量 炭化物
 S E 1
 I 盛り土 住宅造成時の盛り土
 II 灰色土 水田の土壌(表土) 粘性強 ローム粒子多量
 III 暗褐色土 粘性弱 粒子細かい ローム粒子 ロームブロック微量
 1 淡灰褐色土 粘性弱 粒子粗い 炭化物
 2 黒褐色土 粘性やや強 粒子粗い ロームブロック少量 帯水
 3 灰色粘土主体



第69図 内郷遺跡第13次中面



- S K 6
 I 盛り土 住宅造成時の盛り土
 II 灰色土 水田の土壌(表土) 粘性強 ローム粒子多量
 III 暗褐色土 粘性弱 粒子細かい ローム粒子 ロームブロック微量
 1 黒色土 ロームブロック少量 炭化物
 2 黄褐色土 粘性強 ロームブロック水平に堆積
 3 黒色土 粘性強 粒子細かい ロームブロック
 4 黄褐色土 ロームブロック多量 粒子粗い 炭化物 焼土微量



第70図 内郷遺跡第13次下面

(2) 井戸跡

第1号井戸跡(第69図)

J-12グリッドに位置し、南側は調査区域外へ延びている。平面形は円形と推定され、検出できた径0.80m、深さ1.25m以上を測る。遺物は出土しなかった。

VI 窪遺跡

1. 遺跡の立地と環境

(1) 地理的環境

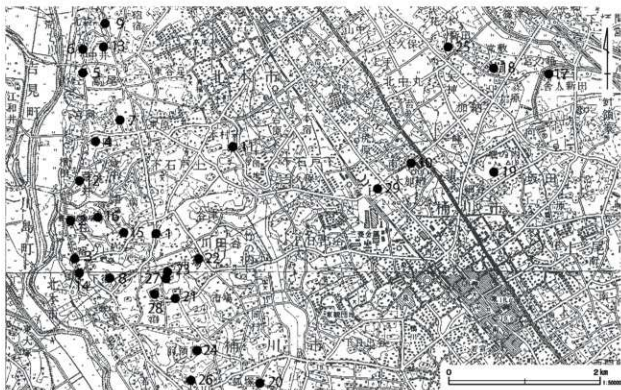
窪遺跡は、J R 高崎線桶川駅から西へ約 4 km に位置し、行政区分上は、北本市石戸宿および桶川市川田谷にかけて所在する。北本市と桶川市は隣接し、市域は大宮台地の北西部を占める。遺跡は大宮台地の西縁を流れる荒川と、その支流の江

(2) 歴史的環境

大宮台地の西側を占めるこの地域には、多くの遺跡が存在し、北本市及び桶川市域に所在する遺跡は270箇所以上を数える。遺跡の時代は、旧石器時代から中近世まで、時代によって多少の粗密はあるもののすべての時代の遺跡が存在する。今回の調査では、中近世の遺構を検出したが同時期の遺跡は、本遺跡の南に隣接する桶川市諏訪北Ⅱ遺跡で大規模な堀跡が調査されている。同市諏訪北Ⅰ遺跡や北本市中井遺跡では地下式坑が検出され、桶川市二ツ家下遺跡では、旧中山道に面した

川によってはさまれた台地上に立地している。調査区の標高は約22m～24.5mで、北から南に向かって緩やかに傾斜している。遺跡の周辺は、畑地の中に住宅が散在する長閑な風景であったが、現在は、徐々に住宅が増えてきている。

集落や畑など当時の農業生産関連の遺構が調査されている。城館跡では、戦国期のものと推定される桶川市三ツ木城跡、加納城跡、北本市石戸城跡などがある。石戸城跡の南には街村型集落の石戸宿が今も残る。桶川市大平遺跡は、旗本牧野氏の陣屋跡との伝承があり、墓塚から牧野氏の家紋である「三ツ柏」の文様のある漆塗り椀が出土している。また、調査により牧野氏以前に遡る遺構も確認されている。

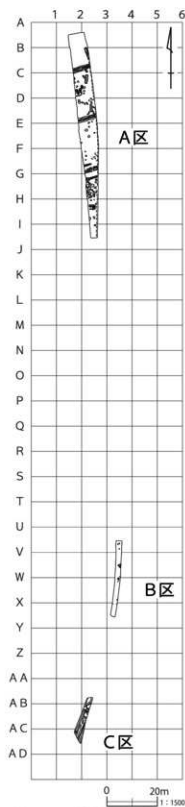


第 71 図 周辺の地形と遺跡

2. 遺跡の概要

遺跡は荒川とその支流の江川によってはさまれた台地上に位置しており、西側には北本市の石戸城跡付近から入り込む八重塚の谷が発達している。遺跡はこの八重塚の谷の南の支谷の最奥部に立地する。調査はさいたま鴻巣線沿いの3地点で行い、調査区を北からA区・B区(北本市)、C区(桶川市)とした。A区北端からC区南端まで約280mの距離があり、A区の標高は24.5m、C区では22mと南へ緩やかに傾斜する。調査区の現状は、A・B区は畑、C区は宅地であった。かなり深くまで耕作されており、B・C区ではハードローム面まで及んでいた。A区ではローム層上面にしろうじて暗褐色土が遺存しており、この層が中世以前のもので考えられる。それより上層は、本地域でヤドロと呼ばれる灰色の砂質～シルト質土である。ヤドロとは荒川の氾濫土で、畑の地力を補うため客土されたもので、主に明治・大正時代に盛んに行われたようであるが、いつごろまで遡るのかは不明である。検出した遺構は、近世と考えられる溝や土壇などである。南に隣接する諏訪北Ⅱ遺跡や江戸時代に栄えたとされる普門寺とは時期的に近く、これらとの関連も考えられる。また、C区においては箱葉研型の溝から古瀬戸が出土しており、鎌倉時代までさかのぼる可能性がある。

- 1 窪遺跡 2 石戸城跡 3 下宿遺跡 4 荒久保遺跡
 5 八幡遺跡 6 中井遺跡 7 雷電遺跡 8 元屋敷遺跡
 9 鉄砲宿遺跡 10 提灯木山遺跡 11 氷川神社北遺跡
 12 市場Ⅰ遺跡 13 丸山遺跡 14 庚塚遺跡 15 堀ノ内館跡
 16 諏訪山南遺跡 17 宮ノ脇遺跡 18 加納城跡
 19 堀ノ内遺跡 20 砂ヶ谷戸遺跡 21 大平遺跡(牧野陣屋跡)
 22 諏訪北Ⅰ遺跡 23 諏訪北Ⅱ遺跡 24 前領家遺跡
 25 天神北遺跡 26 三ツ木城跡 27 諏訪南遺跡 28 大沼遺跡
 29 二ツ家下遺跡



第72図 窪遺跡調査区全体図

3. 遺構と遺物

(1) A区

A区で検出した遺構は全て近世のものである。縄文土器や土師器がグリッドや遺構に混入して出

(ア) 縄文時代

遺物がグリッドや溝跡の覆土に混入した状況でわずかに出土したのみで、遺構は検出されなかった。遺物の時期は、前期の諸磯b式と中期の加曾利E式、後期の堀之内I及びII式である。出土した遺物は、すべて破片で、このうち図示できたのは5点である。

(a) 縄文土器 (第83図)

1は深鉢胴部で、rの撫糸文が施文される。撫糸文は縦横に交差しており、文様帯の境界部分など特殊な部位の破片と考えられる。時期は中期後葉の加曾利E式であろう。

2は深鉢胴部で、地文縄文上に刻みを伴う浮線文が描かれる。地文はRL単節横位回転の縄文である。きわめて薄手の器壁であるが、内面は風化

(イ) 古墳時代

前期の破片が1点出土した。遺構は検出されていない。第83図6は、甕の胴部破片である。外

(ウ) 近世

(a) 土壌

土壌は21基検出された。分布状況は調査区南側にやや多く、第5号溝より北側には存在しないが、特に分布に規則性などは見られない。形態は円形・楕円形のもと、隅丸長方形に大別できる。

第1号土壌 (第75図)

H-2グリッドで検出した。他の遺構との重複はない。平面形態はやや崩れているが隅丸長方形と考えられる。長軸1m、短軸0.53m、深さ0.13mで、方位はN-40°-Wである。底面は平坦である。覆土はローム粒子を含む暗黄褐色土である。遺物は出土しなかった。

第2号土壌 (第75図)

土していることから、近くに該期の遺構が存在する可能性がある。

がいちじるしく、胎土が大きく剥落している可能性もある。前期後葉の諸磯b式である。

3は「く」の字に外反する深鉢頸部で、口縁部文様帯との境界に1段の隆帯が巡る。胴部のみLR単節縦位回転の縄文が施文される。中期後葉の加曾利E I式と考えられる。

4は口端S字に屈曲する深鉢口縁部で、外面に段を形成し、1条の沈線が巡る。後期前葉の堀之内I式である。

5は深鉢胴部で、無文地に直線的な沈線文が描かれる。地文を持たず、薄手の器壁の内外面ともに研磨が徹底されている。後期初頭の称名寺式と考えられる。

面はハケ目調整される。胎土には、砂粒をやや多く含み、色調は赤褐色を呈する。

遺物はほとんど含まれておらず、その性格については不明のものがほとんどであるが、第12号土壌から古銭とかわらげが出土しており、墓塚と考えられる。

H-2グリッドで検出した。西側は調査区外にかかる。調査区内では他の遺構との重複はない。平面形態は隅丸長方形と考えられる。長軸1.07m検出した。短軸は0.92m、深さは0.07mである。方位はN-89°-Wである。底面は平坦で、覆土はローム粒子を含む暗黄褐色土である。遺物は出土しなかった。

第3号土壌 (第75図)

H-2グリッドで検出した。第5号土壌と隣接し、周辺にはピットがこの部分にだけ纏まっていることは何らかの関係があると考えられる。平面形態は不整形円形である。長軸0.87m、短軸0.84mで、深さは0.23mである。方位はN-77.5°-Wである。底面は北側がやや低い。覆土は3層に分層できたが、いずれもローム粒子を含む黄褐色土である。遺物は出土しなかった。

第4号土壌 (第75図)

G-2グリッドで検出した。他の遺構との重複はない。平面形態は不整形円形である。長軸0.82m、短軸0.64mで、深さは0.34mである。方位はN-29°-Wである。底面はほぼ平坦で、覆土は暗褐色土1層である。遺物は出土しなかった。

第5号土壌 (第75図)

H-2グリッドで検出した。他の遺構との重複はないが第3号土壌が東側に隣接する。平面形態は隅丸長方形である。長軸1.28m、短軸0.8mで、深さは0.24mである。方位はN-11°-Eである。断面は皿状で、覆土は暗褐色土1層である。遺物は出土しなかった。

第6号土壌 (第75図)

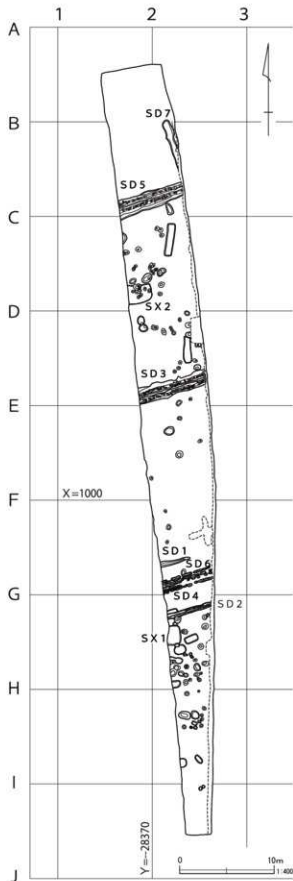
G-2グリッドで検出した。他の遺構との重複はないが西側は調査区外に続く。平面形態は不整形円形あるいは隅丸長方形と考えられる。短軸は0.76mで、深さは0.16mである。方位はN-84.5°-Eである。底面は北側に低い。覆土は暗褐色土1層である。遺物は出土しなかった。

第7号土壌 (第75図)

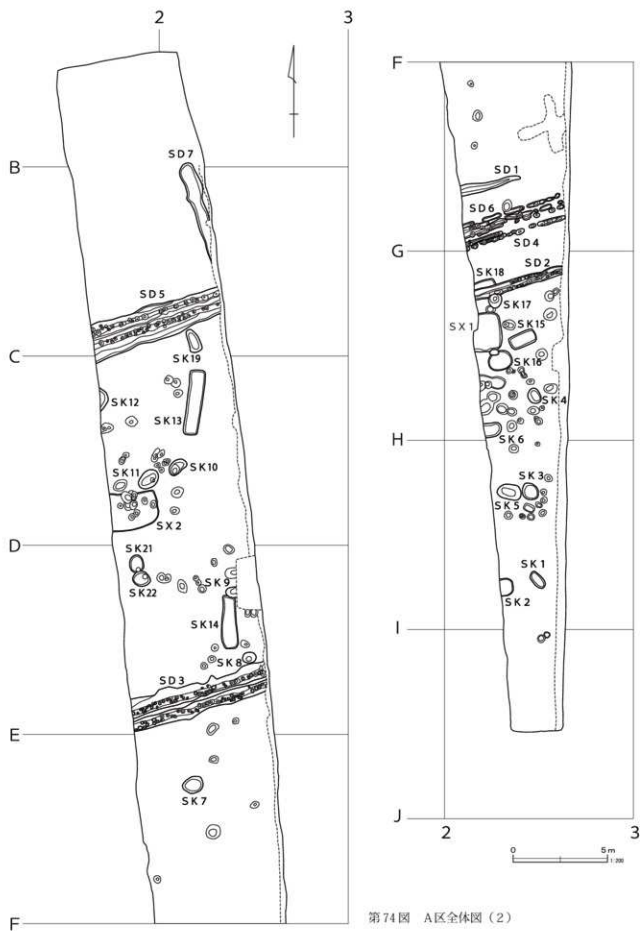
E-2グリッドで検出した。単独で存在する。平面形態は不整形円形である。長軸は1.1m、短軸は0.87mで、深さは0.27mである。方位はN-80°-Eである。底面は東側に低い。覆土は2層に分層できた。遺物は出土しなかった。

第8号土壌 (第75図)

D-2グリッドで検出した。他の遺構との重複



第73図 A区全体図(1)



第74图 A区全体图(2)

はないが、南側は第3号溝跡が隣接している。平面形態は不整形円形である。長軸は0.74m、短軸は0.56mで、深さは0.34mである。方位はN-75°-Eである。断面形態は鉢状を呈する。覆土は2層に分層できたが、暗褐色土が主体である。遺物は出土しなかった。

第9号土壙 (第75図)

D-2グリッドで検出した。第14号土壙と重複しこれより新しい。東側は電柱があり調査できなかった。平面形態は不整形円形と思われる。長軸は0.56mまで検出した。短軸は0.56mで、深さは0.22mである。方位はN-81°-Eである。断面形態は鉢状を呈し、覆土はローム粒子及びローブロックを含む暗黄褐色土である。遺物は出土しなかった。

第10号土壙 (第75図)

C-2グリッドで検出した。他の遺構との重複はない。平面形態は不整形円形である。長軸は1.04m、短軸は0.61mで、深さは0.30mである。方位はN-45°-Eである。底面は、東側にテラス状の段を持ち、西側がピット状に掘りこまれている。覆土は2層でいずれもロームブロックをやや多く含む。遺物は出土しなかった。

第11号土壙 (第75図)

C-1グリッドで検出した。他の遺構との重複はない。平面形態は不整形円形である。長軸は1.18m、短軸は0.84mで、深さは0.38mである。方位はN-49°-Eである。底面は、平坦である。小ピットが斜めに掘り込まれていたが、本遺構に伴うものか不明である。覆土は2層で暗褐色土の上にロームブロックをやや多く含む暗黄褐色土が観察された。遺物は出土しなかった。

第12号土壙 (第75・83図)

C-1グリッドで検出した。遺構の大半は西側の調査区外であるが、平面形態は円形と考えられる。検出した規模は東西方向が0.4m、南北方向が1.2mで、深さは0.22mである。底面は南にや

や傾いている。覆土は暗黄褐色土1層であった。遺物は、かわらけの口縁部破片1点と鉄銭5枚が出土したことから、墓塚と考えられる。第83図9は、輪軸整形され、立ち上がりは浅く口縁が肥厚する。胎土には砂粒を比較的多く含み、赤色粒が少量みられる。色調は淡褐色で、焼成は良好で硬質である。鉄銭は付着した状態で出土し、遺存状態が悪い。1枚は「寛永通寶」で他は判読できない。

第13号土壙 (第75図)

C-2グリッドで検出した。他の遺構との重複はない。平面形態は隅丸長方形である。長軸は3.48m、短軸は0.82mで、深さは0.07mである。方位はN-9°-Eである。底面は平坦である。覆土は暗褐色土1層である。遺物は出土しなかった。

第14号土壙 (第75図)

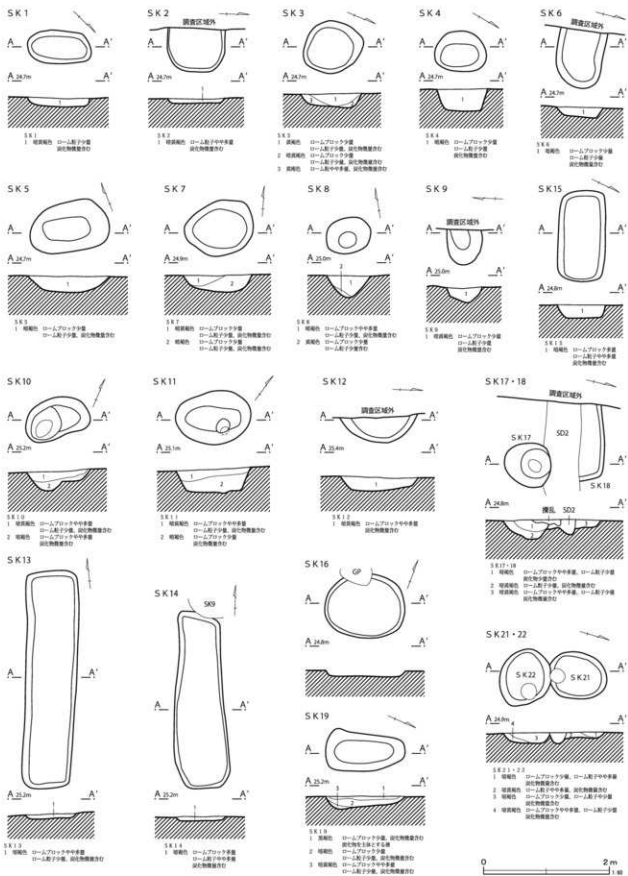
D-2グリッドで検出した。第9号土壙と重複し本土壙が古い。平面形態は、西側の壁がやや湾曲しているが、隅丸長方形である。長軸は2.79m、短軸は0.86mで、深さは0.06mである。方位はN-3°-Wである。底面は平坦である。覆土は第13号土壙とほぼ同様である。遺物は出土しなかった。

第15号土壙 (第75図)

G-2グリッドで検出した。他の遺構との重複はない。平面形態は隅丸長方形である。長軸は1.44m、短軸は0.74mで、深さは0.21mである。方位はN-67°-Eである。底面は平坦で壁の立ち上がりはほぼ垂直に近い。覆土は暗褐色土1層である。遺物は土器の微細片が3点出土したが図示できるものはない。

第16号土壙 (第75図)

G-2グリッドで検出した。ピットと重複しこれより古い。平面形態は不整形円形である。長軸は1.26m、短軸は1.03mで、深さは0.08mである。方位はN-84°-Eである。底面は平坦で断面形態は皿状である。遺構図には示していないが、覆



第75図 土坑

土はロームを含む暗褐色土1層である。遺物は出土しなかった。

第17号土壌 (第75図)

G-2グリッドで検出した。第2号溝跡と重複し、本土壌が新しい。平面形態は不整形円形である。長軸は0.75m、短軸は0.69mで、深さは0.30mである。方位はN-55°-Wである。底面は狭く平坦で、壁は2段に掘りこまれ、下方に稜を形成する。覆土は2層に分層でき、他の土壌と同じくロームを含む暗褐色土である。遺物は出土しなかった。

第18号土壌 (第75図)

G-2グリッドで検出した。南側は第2号溝跡と重複し、本土壌が古い。西側は調査区外に続いている。平面形態は隅丸方形と考えられる。長軸は1.21m検出した。短軸は0.4m残存している。深さは0.13mである。方位はN-77°-Eである。底面は平坦である。覆土はロームを含む暗褐色土である。遺物は出土しなかった。

第19号土壌 (第75図)

B-2グリッドで検出した。第13号土壌の北側に位置する。他の遺構との重複はない。平面形態は不整形円形である。長軸は1.25m、短軸は0.58m、深さは0.2mである。方位はN-23°-Wである。底面は南側に傾斜している。覆土は3層でロームを含む暗褐色土の上に炭化物を主体とする黒褐色土が認められた。遺物は出土しなかった。

第21号土壌 (第75図)

D-1グリッドで検出した。第22号土壌と重複する。図では断面にピットがあり新旧関係が表れていないが本土壌が新しい。平面形態は不整形円形である。長軸は0.94m、短軸は0.75m、深さは0.1mである。方位はN-0°-Wである。底面は平坦で断面は皿状を呈する。覆土は2層でロームを含む暗褐色土を主体とする。遺物は出土しなかった。

第22号土壌 (第75図)

D-1グリッドで検出した。第21号土壌と重複し本土壌が古い。平面形態は不整形円形である。長軸は0.9m、短軸は0.8m、深さは0.17mである。方位はN-75°-Eである。底面は平坦で断面は皿状を呈する。遺物は出土しなかった。

(b) 溝跡

近世の溝跡は、第1・7号溝以外は調査区を横断していた。これらは、確認時には幅が0.5~2mの1条の溝と見えたが、精査したところ、底面はピットが複数の列状となっていた。深さが十分でなく、重複関係を捉えにくかったが、部分的にはピットが重複している箇所もあったことから、複数回にわたって掘りこまれたものと考えられる。第3・4・5号溝跡については、約20m間隔で並行しており計画性が窺える。

第1号溝跡 (第76図)

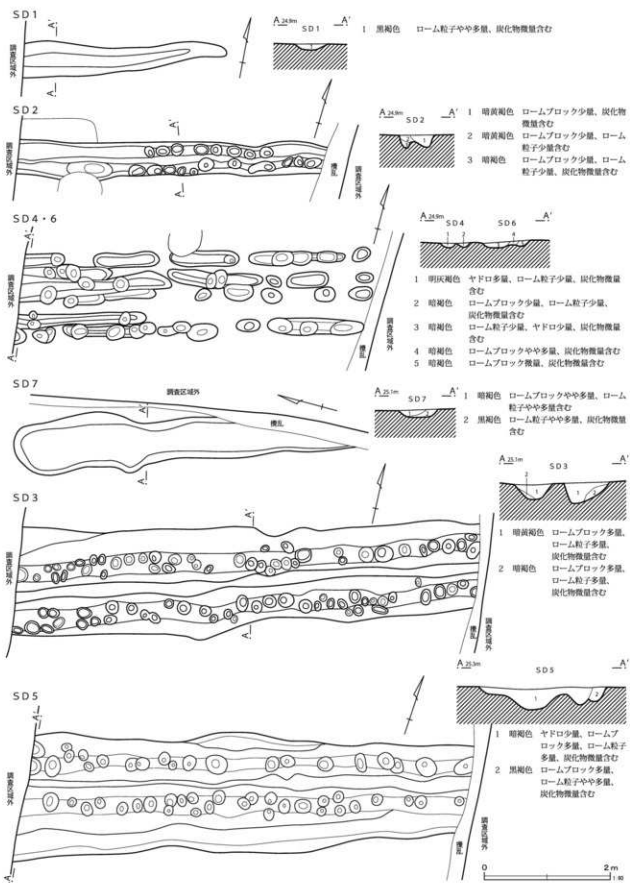
F-2グリッドで検出した。他の遺構との重複はない。東側と西側は調査区外に延びる。検出した長さは3.22m、検出面での幅は0.58m、深さは0.1mである。溝方向はN-76°-Eである。底面は平坦で、覆土はしまりのやや弱い黒褐色土である。遺物は出土しなかった。

第2号溝跡 (第76図)

G-2グリッドで検出した。第17・18号土壌と重複し、前者より古く後者より新しい。東西両端は調査区外に延びる。検出した長さは4.87m、検出面での幅は0.53mで、深さは0.2m前後である。溝の方向はN-74.5°-Eである。底面はピット列が2条並行していた。覆土はロームブロックを含む暗褐色土が主体である。遺物は出土しなかった。

第3号溝跡 (第76図)

D-1・2グリッドで検出した。他の遺構との重複はない。東側と西側は調査区外に延びる。検出した長さは7.3m、検出面での幅は1.76m、深さは0.3m前後である。溝方向はN-74°-Eである。底面は2条並行した状況であるが、ピット



第76図 溝跡

はそれぞれに2条認められる。覆土は第2号溝跡と同様にロームブロックを含む暗褐色土が主体である。遺物は、磁器と土器の細片が各1点出土したのみである。第83図8は色絵磁器小瓶である。肥前系。

第4号溝跡（第76図）

G-2グリッドで検出した。グリッドピット以外に重複する遺構はない。東側と西側は調査区外に延びる。検出した長さは5.72m、検出面での幅は1.42m、深さは0.1m前後である。溝方向はN-74°-Eである。底面はピット列が数条並行した状況である。覆土はローム粒子やブロックを含む暗褐色土が主体である。遺物は、鳩山産須恵器坏1片と土器の細片が3点出土したのみである。

第5号溝跡（第76図）

B・C-1グリッド～B-2グリッドにかけて検出した。他の遺構との重複はない。東西両端は調査区外に延びる。検出した長さは7.0mで、検出面での幅は1.96m、深さは0.3m前後である。底面の状況は第3号溝跡と同様であった。遺物は陶器皿2片と縄文土器片4点が出土した。縄文土器は混入である。第83図7は瀬戸美濃系の皿で内面および外面口縁部に透明釉がかけられる。

第7号溝跡（第76図）

B-2グリッドで検出した。重複する遺構はな

い。検出した溝跡の中で唯一南北方向に延びる。南側は調査区外に続く。検出した長さは6.5mで、検出面での幅は0.9m、深さは0.1mである。底面は第1号溝跡と同じく平坦である。遺物は土器細片が1点出土したのみで図示できるものはない。

(c) 竪穴状遺構

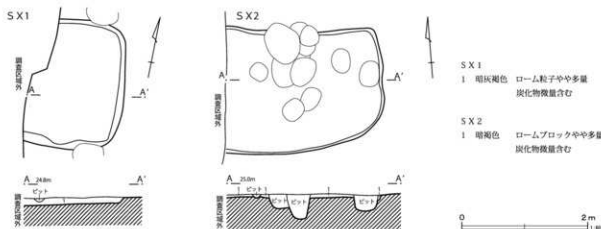
竪穴状遺構は2基検出した。いずれも残存状態がごく浅く、内部にはピット等の付属する施設はみられず、遺物も出土しなかった。

第1号竪穴状遺構（第77図）

G-2グリッドで検出した。グリッドピットと2か所で重複し、これらより古い。西側は調査区外に続く。東西方向に長い隅丸長方形と考えられる。検出できた規模は、東西方向1.54m、南北方向2.08mで、深さは0.12mである。方位はN-84°-Eである。覆土は、上層の影響を受け灰褐色土が混入していた。

第2号竪穴状遺構（第77図）

C-1グリッドで検出した。グリッドピットが複数重複し、これらより古い。西側は調査区外に続く。東西方向に長い隅丸長方形と考えられる。検出できた規模は、東西方向2.46m、南北方向1.96mで、深さは0.07mである。方位はN-83.5°-Eである。覆土は、掘り込みが浅いことから暗褐色土1層が観察されただけである。



第77図 竪穴状遺構

(d) ビット

ビットは90基検出した。分布状況は、第5号溝跡より南に分布し、これより北側には検出されなかった。第2号溝跡の南側には特に集中して見

られるが、遺物が出土したビットはない。ビットについては表にまとめた。

第14表 A区ビット計測表

(単位cm)

番号	形態	グリッドビット	長軸	短軸	深さ
1	楕円形	C 1-P 1	80	56	7
2	不整楕円形	C 1-P 2	64	33	29
3	楕円形	C 1-P 3	(67)	45	25
4	円形	C 1-P 4	52	52	21
5	楕円形	C 1-P 5	35	33	30
6	楕円形	C 1-P 6	31	24	8
7	不整楕円形	C 1-P 7	52	(34)	15
8	不整楕円形	C 1-P 8	52	38	23
9	楕円形	C 1-P 9	47	37	23
10	楕円形	C 1-P 10	(61)	(54)	-
11	円形	C 1-P 11	41	31	29
12	楕円形	C 1-P 12	39	37	37
13	楕円形	C 1-P 13	64	54	31
14	隅丸方形	C 1-P 14	30	26	19
15	楕円形	C 1-P 15	34	28	26
16	円形	C 1-P 16	34	(32)	18
17	楕円形	C 1-P 17	56	(30)	38
18	不整楕円形	C 1-P 18	33	31	44
19	楕円形	C 2-P 1	71	55	18
20	隅丸方形	C 2-P 2	42	41	27
21	楕円形	C 2-P 3	30	20	9
22	楕円形	C 2-P 4	32	27	27
23	円形	C 2-P 5	41	41	20
24	楕円形	C 2-P 6	38	25	19
25	円形	C 2-P 7	38	33	21
26	不整楕円形	D 2-P 1	70	60	18
27	楕円形	D 2-P 2	44	31	27
28	楕円形	D 2-P 3	37	30	14
29	不整楕円形	D 2-P 4	43	34	13
30	楕円形	D 2-P 5	42	37	23
31	楕円形	D 2-P 6	40	36	31
32	楕円形	D 2-P 7	71	51	30
33	楕円形	D 2-P 8	(51)	44	30
34	楕円形	D 2-P 9	(30)	30	13
35	楕円形	D 2-P 10	(27)	(22)	10
36	円形	D 2-P 11	42	40	14
37	楕円形	D 2-P 11	31	25	11
38	円形	D 2-P 13	27	26	19
39	円形	D 2-P 14	32	29	15
40	不整形	D 2-P 15	53	48	22
41	不整形	D 2-P 16	38	36	15
42	不整形	D 2-P 17	34	33	18
43	円形	E 1-P 1	33	30	19
44	楕円形	E 2-P 1	78	70	15
45	楕円形	E 2-P 2	34	29	15

(単位cm)

番号	形態	グリッドビット	長軸	短軸	深さ
46	楕円形	E 2-P 3	43	32	20
47	不整楕円形	F 2-P 1	63	49	19
48	楕円形	F 2-P 2	35	30	31
49	楕円形	F 2-P 3	71	47	18
50	楕円形	F 2-P 4	40	27	12
51	不整形	G 2-P 1	62	42	17
52	楕円形	G 2-P 2	72	50	19
53	楕円形	G 2-P 3	44	40	15
54	不整楕円形	G 2-P 4	89	60	22
55	楕円形	G 2-P 5	70	58	22
56	楕円形	G 2-P 6	42	33	10
57	楕円形	G 2-P 7	64	56	14
58	不整形	G 2-P 8	55	51	36
59	楕円形	G 2-P 9	51	(30)	17
60	楕円形	G 2-P 10	38	37	14
61	楕円形	G 2-P 11	74	66	34
62	楕円形	G 2-P 12	(63)	72	15
63	楕円形	G 2-P 13	80	78	16
64	楕円形	G 2-P 14	63	60	16
65	楕円形	G 2-P 15	70	52	38
66	楕円形	G 2-P 16	70	76	17
67	円形	G 2-P 17	54	51	18
68	楕円形	G 2-P 18	(39)	31	21
69	楕円形	G 2-P 19	51	39	16
70	楕円形	G 2-P 20	50	37	6
71	楕円形	G 2-P 21	38	29	21
72	円形	G 2-P 22	(22)	25	15
73	円形	G 2-P 23	44	40	11
74	楕円形	G 2-P 24	27	14	18
75	不整形	G 2-P 25	(34)	38	8
76	楕円形	G 2-P 26	53	36	10
77	楕円形	G 2-P 27	(54)	44	17
78	円形	H 2-P 1	50	44	21
79	楕円形	H 2-P 2	34	29	12
80	楕円形	H 2-P 3	44	34	20
81	円形	H 2-P 4	38	37	25
82	円形	H 2-P 5	38	36	20
83	円形	H 2-P 6	31	29	20
84	円形	H 2-P 7	38	37	14
85	不整形	H 2-P 8	40	39	11
86	隅丸長方形	H 2-P 9	59	41	13
87	円形	H 2-P 10	48	48	17
88	楕円形	H 2-P 11	33	27	15
89	円形	H 2-P 1	39	38	11
90	円形	H 2-P 2	32	32	16

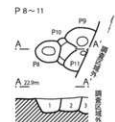
(2) B区

B区はA区の南120mにあり、標高はA区より約2m低い。かつては畑などとして利用されており、ローム面まで耕作が達しているため遺構検出面はハードローム層であった。また、調査区南側は攪乱が深く及んでいた。B区で検出した遺構はピット19基である。遺物が出土しなかったため時期は特定できないが、約30m南のC区では溝跡が密集して検出されているのに比べると、遺構が極端に少ない。土地の利用目的の差が表れたものであろう。検出したピットについては表にまとめた。

第15表 B区ピット計測表

(単位cm)

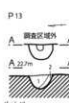
番号	形態	グリッドピット	長軸	短軸	深さ
1	円形	U 3-P 1	40	38	14
2	楕円形	U 3-P 2	30	22	12
3	円形	U 3-P 3	28	26	19
4	楕円形	V 3-P 4	21	19	22
5	円形	V 3-P 5	42	40	19
6	不整楕円形	V 3-P 6	34	32	25
7	不整楕円形	V 3-P 7	36	23	28
8	楕円形	V 3-P 8	41	34	21
9	楕円形	V 3-P 9	(44)	34	35
10	不明	V 3-P 10	(28)	34	21
11	不明	V 3-P 11	(34)	(30)	26
12	楕円形	V 3-P 12	30	21	28
13	(楕円形)	V 3-P 13	(26)	38	21
14	楕円形	W 3-P 14	36	28	18
15	円形	W 3-P 15	31	30	10
16	(楕円形)	W 3-P 16	42	32	16
17	(楕円形)	W 3-P 17	(44)	42	12
18	楕円形	W 3-P 18	23	22	11
19	(楕円形)	W 3-P 19	(38)	54	20



C-3-8-11
1. 検出物 (U-1層) 2. 検出物なし (U-1層) 3. 検出物なし (U-1層)



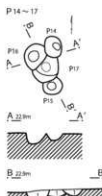
C-3-12
1. 検出物 (検出物なし) 2. 検出物なし (U-1層)



C-3-13
1. 検出物 (検出物なし) 2. 検出物なし (U-1層)



C-3-18
1. 検出物 (検出物なし)



C-3-15-17
1. 検出物 (検出物なし)



C-3-1
1. 検出物 (検出物なし) 2. 検出物なし (U-1層)



C-3-2
1. 検出物 (検出物なし) 2. 検出物なし (U-1層)



C-3-3
1. 検出物 (検出物なし)



C-3-4
1. 検出物 (検出物なし)



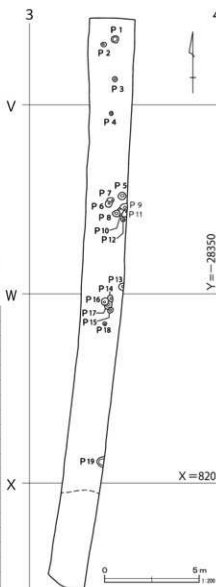
C-3-5
1. 検出物 (検出物なし)



C-3-6-7
1. 検出物 (検出物なし) 2. 検出物なし (U-1層)



C-3-19
1. 検出物 (検出物なし) 2. 検出物なし (U-1層)



第 78 図 B区全体図・ピット

(3) C区

C区は、B区から約30m南に位置し、行政区分では桶川市に所在する。3か所の調査区の中で最も狭く、調査可能な範囲は長さ19m、幅は最大4mであった。本調査区はかつて宅地として利用されており、住宅の基礎がルーム面まで達しており、遺構確認面まで攪乱された状態であった。検出した遺構は、溝跡4条、土壌2基である。

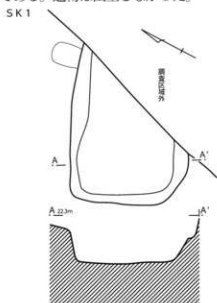
(a) 土壌

第1号土壌 (第80図)

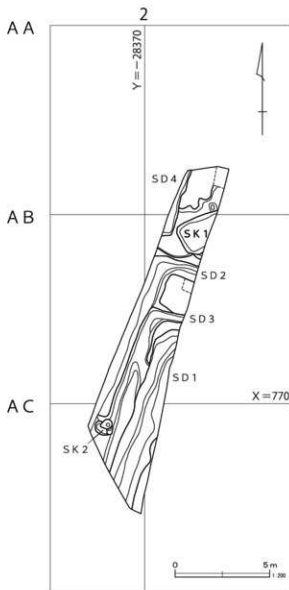
A A・A B-2グリッドで検出した。東側が調査区外に続く。平面形態は隅丸長方形である。長軸は2.5m検出した。短軸は1.9mで、深さは0.54mである。方位はN-63°-Eである。底面はほぼ平坦で壁の立ち上がりはほぼ垂直に近い。覆土はロームブロックを多量に含む暗褐色土1層で、埋め戻されたと考えられる。遺物は出土しなかった。

第2号土壌 (第80図)

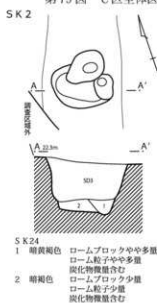
A C-1グリッドで検出した。第3号溝跡の底面で検出した。不整楕円形であるが、ビットが2基重複して東側は壊されていた。長軸は1m、短軸は0.72m残存していた。深さは0.2mの残存である。方位はN-56°-Wである。底面はほぼ平坦で壁の立ち上がりはほぼ垂直である。覆土は暗褐色土1層である。遺物は出土しなかった。



第80図 土壌



第79図 C区全体図



- SK 24
- | | |
|-------|-----------------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロックや多量
ローム粒子や多量
炭化物微塵含む |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量
ローム粒子少量
炭化物微塵含む |

(b) 溝跡

第1号溝跡 (第81・83図)

AB-1・AB-2・AC-1グリッドで検出した。北北東から南南西に延びる溝で、北側は東方向に曲がり調査区外に続く。南側も調査区外に延びている。第3号溝から派生する部分と重複するが、新旧関係は確認していない。検出した長さは7.90m、検出面での幅は1.6mである。深さは0.83mあり、検出した3条の溝では一番深い。溝方向はN-7°-Eである。底面は平坦で、断面形状は箱薬研である。覆土はしまりのやや弱い暗褐色土である。遺物は、古瀬戸瓶が1点出土したほか、陶磁器類を主として、かわらけや瓦、植木鉢等が出土した。遺物の時期は、古瀬戸瓶以外は18世紀以降が主体である。

第83図10は、古瀬戸瓶の肩部破片である。灰釉が掛けられ2条の沈線が残るが3筋壺であろう。輪軸成形され、色調は灰色を呈する。胎土は緻密で焼成良好である。13世紀。11・12は染付磁器碗である。11は二重網目が描かれる。平戸・波佐見系。13は天目碗の底部である。胎土は暗灰色を呈し緻密で、焼成は良好である。高台内は削り込である。高台径4.1cm。14は陶器皿である。内面は透明釉が掛けられ、目跡が見られる。外面は無釉で、一部煤が付着している。胎土は淡黄色を呈し緻密で、焼成は良好である。復原底径4cm。15は燈明皿である。内面に鉄釉が掛けられる。外面口縁部には煤が付着するが、割れてからも被熱している。復原口径10cm、復原底径4cm、器高2cm。17は植木鉢と思われる。素焼きで胎土には赤色粒子を多く含み、焼成はやや軟質である。色調は暗灰色で瓦と同じように焼成された感がある。粘土組成形で、外面には先端が平い棒状の工具でつけたと考えられる幅4mmほどの沈線が約1cm間隔で縦方向に見られる。復原底径9cm。18は煙管の吸口である。羅字側の端部は欠損している。羅字から吸口に向かって緩やかに細

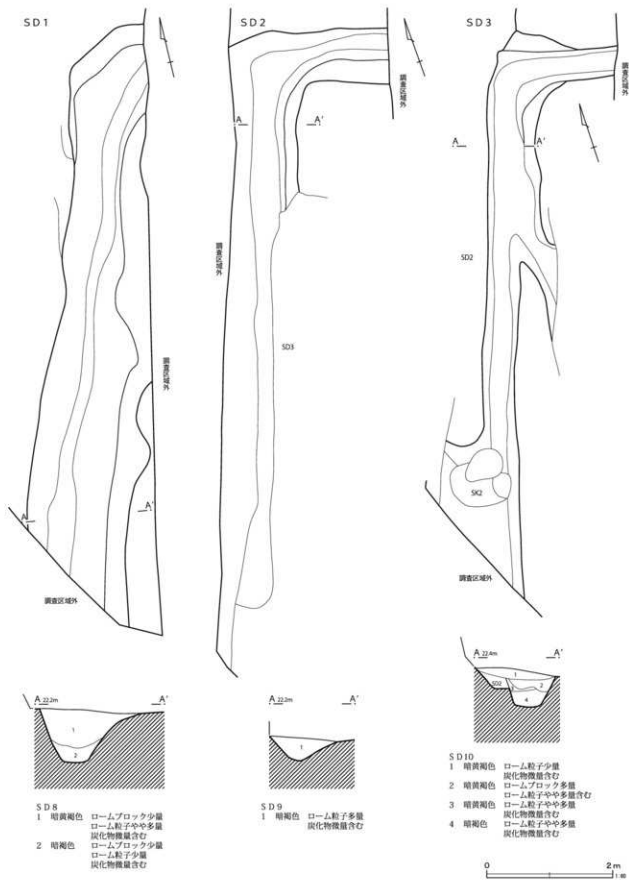
くなる。残存長さ5.2cm。19は片岩片である。厚さ5~8mmであるが、図の右側面が磨滅している。この面を使って砥石としたものであろう。20は瓦である。板状の平坦な瓦の下面に直角に同様の瓦を貼り付けている。端部にも接合痕があることから、下面にはT字状に貼り付けられていたものである。道具瓦の一種と思われる。焼成され、色調は上面が黒灰色、下面は灰黄白色、胎土は灰色で砂粒、赤色粒を多く含む。

第2号溝跡 (第81図)

AB1・AB2・AC1グリッドで検出した。第1号溝跡と同じく、北北東から南南西に延びる溝で、北側は東方向にほぼ直角に曲がり調査区外に続く。南側も調査区外に延びている。3条の溝跡の中で一番外側に位置する。第3号溝と重複し、本溝跡が古い。検出した長さは南北方向に8.57m、東西方向は2.06mである。検出面での幅は0.8~1.05mである。深さは0.3~0.4mである。溝方向は東西方向がN-1°-Eで、N-83°-Eである。底面はほぼ平坦で、断面形状は箱薬研である。覆土はローム粒子を多く含む暗黄褐色土である。遺物は、焙烙の小破片2点と常滑産薬片1点が出土したが図示できるものはない。

第3号溝跡 (第81図)

AB-1・AB-2・AC-1グリッドで検出した。第1・2号溝跡と同じく、北北東から南南西に延びる溝で、北側は東方向にほぼ直角に曲がり調査区外に続く。南側も調査区外に延びている。第2号溝跡と重複し、これより新しい。検出した長さは南北方向に8.1m、東西方向は1.6mである。検出面での幅は0.5~0.75mである。深さは0.4mである。溝方向は東西方向がN-1°-Eで、N-81°-Eである。底面はほぼ平坦で、断面形状は箱薬研である。覆土はローム粒子を多く含む暗黄褐色土である。遺物は、焙烙の小破片2点と平瓦片3点が出土した。16は焙烙である。底部は丸みを帯びて体部は短く立ち上がり、口縁は肥厚す

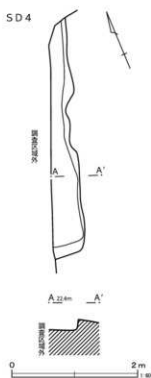


第81図 溝跡(1)

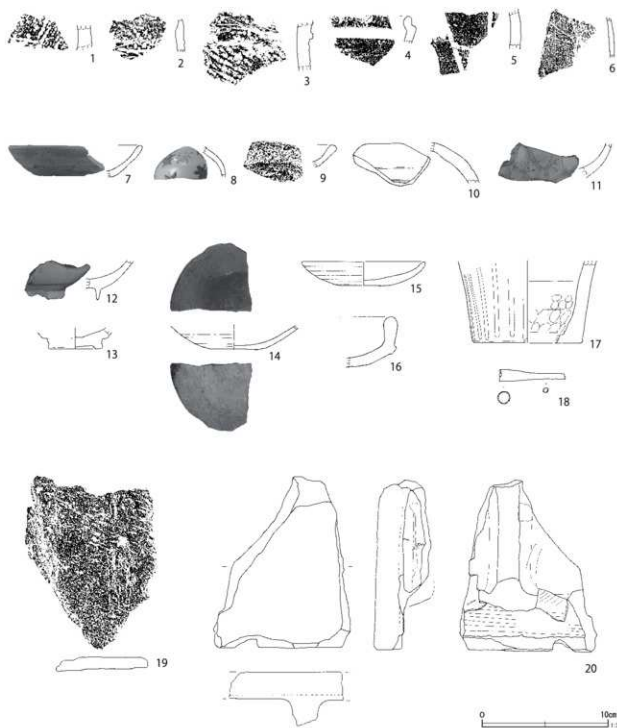
る。胎土は赤色粒のほか砂粒を多量に含み焼成は良い。色調は淡橙色である。

第4号溝跡（第82図）

AA・AB-2グリッドで検出した。他の溝跡と同じく、北北東から南南西に延びる溝で、北側は調査区外に続く。南側はAB2グリッドで止まっている。検出した長さは3.8m、幅は西側が調査区外にかかるため不明であるが0.6mまで検出した。深さは0.2mである。溝方向はN-17°-Eである。底面はやや凹凸がある。覆土はロームを多量に含む暗黄褐色土である。遺物は出土しなかった。



第82図 溝跡（2）



第83圖 出土遺物

VII 調査のまとめ

1. 調査の成果

今回の船原・内郷通遺跡の調査で、縄文時代の土壌4基、ピット14基、奈良時代の竪穴住居跡1軒、平安時代の溝跡2条、中・近世の土壌1基、溝跡2条、ピット2基が確認された。

縄文時代の土壌・ピットからは遺物はほとんど出土しなかったが、ピットの埋土から縄文土器片を出土し、ピットと同様の埋土であることから、縄文時代の遺構と判断した。

奈良時代の竪穴住居跡は1軒のみで、集落の様相は不明である。内郷遺跡では②区の奈良時代の竪穴住居跡が発見されており、同一集落とみられるが、集落全体の広がりは不明である。

第2号溝は調査区を横断し、幅3.5m、深さ1.25mを測り、断面は逆台形を呈している。埋土の上層に浅間Bの火山灰が堆積していた。浅間Bの火山灰は天仁元(1108)年の浅間山の噴火に由来するものであることから、平安時代またはそれ以前に掘削したことが判明した。溝跡の走行方位は南北方向から大きく西に片寄っている。東側と西側は調査区域外でありどのように延びるか不明であるが、覆土からは須恵器製の破片が出土したことから、平安時代の区画溝であると考えられる。

内郷遺跡の調査では、奈良時代の住居跡2軒、中・近世の掘立柱建物跡1棟、竪穴状遺構1基、土壌69基、井戸跡14基、溝跡5条とピット多数が確認された。

奈良時代の住居跡は20m程離れて2軒確認された。第2号住居跡は遺物を出土しなかったが、形状・規模ともに第1号住居跡と同様のものであることから、同時期の住居跡であると判断した。前述のとおり、船原・内郷通遺跡の第1号住居跡

とは60m程離れているが、同時期であることから同一集落と考えられる。

中・近世の遺構は、掘立柱建物跡・土壌・井戸跡・溝跡の他に多数のピットが検出された。

第11次調査で検出された第4号溝跡は上幅1.3m、底面幅0.4m、深さ0.6mを測り、断面は逆台形で区画溝の可能性が高い。

①区で検出された第1号溝は、幅1.5mほどで調査区境界南壁際であり、②区の第7号溝と連続する同一の溝である。②区西側調査区の中央付近で調査区域外へと延びている。走行方位は直線的ではほぼ東西方向であるが、やや片寄っている。断面形は箱築研状を呈している。

第12次②区の第6号井戸跡は、ある程度埋まった段階で板碑が一時に投棄された状態を窺うことができた。紀年銘がわかるものは5点あるが、文永七年(1270年)から文和年間の末年(1355年)の板碑である。第29図2は築道型(註1)の板碑である。85年間にわたり造立された板碑がまとめて井戸跡に投棄されたものと考えられる。第12次③区の第4号溝跡では、板碑・宝篋印塔の基部・内耳鍋がある程度埋まった段階に投棄されたものである。溝跡からは平安時代から16世紀代の遺物が出土している。板碑は2基並列して出土し、その上に宝篋印塔が出土している。内耳鍋も同じ場所の同レベルであり、一括投棄されたと考えられる。板碑の造立年代が元徳三年(131年)、宝篋印塔が應永九年(1402年)、内耳鍋が16世紀前半のものであることから、16世紀前半以降に投棄されたと考えられる。

2. 板碑について

井戸跡から板碑が出土した例は31例(註2)、

を数えるが、破片出土例も多い。投棄例が明らか

なものについてみていくこととする。

堂山下遺跡では4号井戸と10号井戸にみられる。4号井戸は一尊種子で、元徳二年(1330年)銘がみられる。10号井戸は嘉暦三年(1328年)から長亨二年(1488年)の間の阿弥陀三尊種子3基と阿弥陀一尊種子の計4基の板碑と破片が出土し、他の遺物出土状況から16世紀前半以降に投棄されたと考えられる。

菅原遺跡のIV区の第1号井戸跡出土の板碑は一尊種子と三尊種子があり、投棄状況は明らかではないが、15～16世紀代の土器が出土している。井戸自体は15世紀代であり、それ以降に板碑が投棄されている。

堂地遺跡は中世を中心とした遺跡で、井戸跡から板碑が投棄された状態で出土している。遺物などから16世紀以降に井戸自体が廃絶し、それ以降に板碑が投棄されていたと考えられる。

註

1 厚みがあり安定感のある蓮座上に大きく種子を刻み、本尊の阿弥陀種子キリクは正体・異体とも斜めに延びるラ点(種子左下から左斜上に延びる部分)が大きく根元部分(書き出し部分)は丸く、蓮座に突き刺さるように表され、イ一点(種子右下部分)の止めも蓮座

塚の腰遺跡では第17・18号井戸の2基に板碑が投棄されている状況がみられる。第17号井戸では一尊阿弥陀種子、三尊種子があり両者とも月輪を伴う。應永十二年から二十二年の紀年銘がみられる。第18号井戸は正長年間、應永年間ものが合計8基あるが、投棄された時期は不明である。

井戸跡に板碑が投棄されているその他の遺跡は、新町口遺跡、蜻蛉遺跡、金井遺跡、八幡谷遺跡、広面遺跡、ウツギ内遺跡、薬師堂根遺跡、川越城跡などがある。

以上のように、投棄されている状況がみられても、時期が明確に判るものは少ない。時期が判るもの多くは16世紀以降に投棄されている状況があり、内郷遺跡③区の第4号溝跡では、16世紀前半の内耳溝が共伴しており、16世紀代には板碑とともに投棄されたと考えられる。

の蓮弁にかかるように長くはねていることである。また、銘文の書体や真言の影りが共通している点が挙げられる。(諸岡2011)。

2 磯野治司氏のご教示による。

引用・参考文献

- 大屋道則 1996 『菅原遺跡』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第169集
金子直行 1987 『北・八幡谷・相野谷』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第66集
鶴持和夫 1993 『ウツギ内・砂田・柳町』
鶴持和夫 1998 『築道下遺跡Ⅱ』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第199集
坂浩秀一編 1982 『板碑研究入門』 考古学ライブラリー12 ニュー・サイエンス社
鈴木孝之 1985 『蜻蛉遺跡』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第53集
塚間孝志 1989 『金井遺跡』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第86集
塚間孝志 1991 『塚の越遺跡』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第101集
宮瀧交二 1991 『堂山下遺跡』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第99集
水口由紀子 1998 『薬師堂根遺跡』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第200集
村田健二 1990 『広面遺跡』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第89集
諸岡 勝 2011 「鎌倉時代末期の板碑の一事例―「築道型」の分布と特性―」 『熊谷市研究』第3号
山本 嶺 1985 『猿貝北・道上・新町口』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第52集
山本 嶺 1997 『山王裏/上川入/西浦/野木氏館跡』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第184集
若松良一 2000 『堂地遺跡』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第266集

写真図版



1 調査区全景（東から）



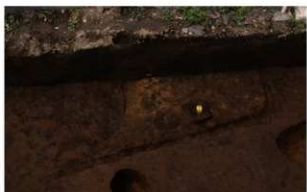
5 第1号住居跡遺物出土状況（2）



2 調査区全景（西から）



6 第1号土坑



3 第1号住居跡



7 第3号土坑



4 第1号住居跡遺物出土状況（1）



8 第4号土坑



1 第3号溝跡



5 B-30グリッドピット6



2 A-30グリッドピット1・2



6 C-28グリッドピット2



3 A-30グリッドピット3



7 C-28グリッドピット3



4 B-30グリッドピット4・7



8 D-26グリッドピット1



1 調査区全景（東から）



5 第2号溝跡



2 調査区全景（西から）



6 第3号溝跡・第1号土壇



3 第1号土壇



7 第4号溝跡



4 第1号溝跡



8 E-24グリッドビット4

図版 4



1 ①区調査区全景（東から）



5 ②区調査区全景（西から）



2 ①区調査区全景（西から）



6 ②区調査区全景（東から）



3 ①区第1号井戸跡



7 ②区東側調査区全景（西から）



4 ①区第1・2・3号溝跡



8 ②区第1号土壇



1 ②区第4号土坑



5 ②区第3号井戸跡



2 ②区第9号土坑



6 ②区第4号井戸跡



3 ②区第1号井戸跡



7 ②区第5号井戸跡



4 ②区第2号井戸跡



8 ②区第6号井戸跡



1 ②区第7号井戸跡



5 ②区第7号溝跡



2 ②区第1号溝跡



6 ②区第11号溝跡



3 ②区第5号溝跡



7 ②区第12・13号溝跡



4 ②区第6号溝跡



8 ②区第15号溝跡



1 ③区調査区全景（東から）



5 ③区第4号溝跡遺物出土状況（1）



2 ③区第2・3号土壌



6 ③区第4号溝跡遺物出土状況（2）



3 ③区第4・5号土壌



7 ③区第4号溝跡遺物出土状況（3）



4 ③区第6号土壌



8 ④区調査区中央全景（東から）

図版 8



1 内郷 12次④区東端調査区全景 (西から)



5 内郷 12次④区第14号土壌



2 内郷 12次④区西端調査区全景 (西から)



6 内郷 12次④区第1号溝跡



3 内郷 12次④区第1号住居跡



7 内郷 12次⑥区調査区全景 (東から)



4 内郷 12次④区第1号掘立柱建物跡



8 内郷遺跡 13次調査区全景 (東から)



1 第1号住居跡出土遺物 (第7図1)



6 ②区第6号井戸跡出土遺物 (第25図4)



2 ②区第12号土壇出土遺物 (第25図6)



7 ②区第5号溝跡出土遺物 (第38図1)



3 ②区第3号井戸跡出土遺物 (第25図1)



8 ②区第11号溝跡出土遺物 (第38図17)



4 ②区第3号井戸跡出土遺物 (第25図2)



5 ②区第4号井戸跡出土遺物 (第25図3)



9 ②区第12号溝跡出土遺物 (第38図18)



1 ②区遺構外出土遺物 (第 39 図 4)



2 ③区第 4 号溝跡出土遺物 (第 48 図 6)



3 ④区第 1 号住居跡出土遺物 (第 52 図 4)



4 ④区第 19 号土壇出土遺物 (第 59 図 2)



5 ②区第 6 号井戸跡出土遺物 (第 28 図)



6 ②区第 4 号井戸跡出土遺物 (第 28 図 1)



7 ②区第 6 号井戸跡出土遺物 (第 29 図 3)



8 ②区第 6 号井戸跡出土遺物 (第 29 図 4)



1 ②区第6号井戸跡出土遺物 (第30図5)



4 ②区第6号井戸跡出土遺物 (第29図1)



2 ②区第6号井戸跡出土遺物 (第30図6)



5 ②区第6号井戸跡出土遺物 (第29図2)



3 ②区第6号井戸跡出土遺物 (第30図7)



1 A区全景（北から）



5 A区第5号土坑



2 A区第1号土坑



6 A区第6号土坑



3 A区第2号土坑



7 A区第7号土坑



4 A区第4号土坑



8 A区第8号土坑



1 A区第9号土坑



5 A区第15号土坑



2 A区第12号土坑



6 A区第20号土坑



3 A区第13号土坑



7 A区第2号溝跡



4 A区第14号土坑



8 A区第4・6号溝跡



1 B区全景（北から）



5 C区全景（北から）



2 B区V-3グリッドピット2~9



6 C区全景（南から）



3 B区W-3グリッドピット1~4・6



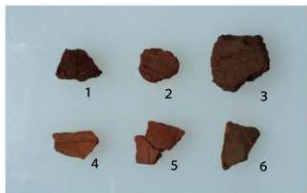
7 C区第23号土坑



4 B区W-3グリッドピット5



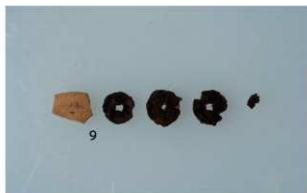
8 C区第8~10号溝跡



1 出土遺物 (1) (第 83 図)



5 出土遺物 (5) (第 83 図)



2 出土遺物 (2) (第 83 図)



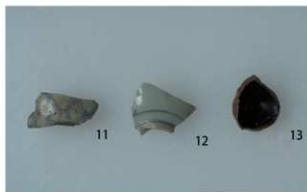
6 出土遺物 (6) (第 83 図)



3 出土遺物 (3) (第 83 図)



7 出土遺物 (7) (第 83 図)



4 出土遺物 (4) (第 83 図)



8 出土遺物 (8) (第 83 図)

報告書抄録

ふりがな	ふなはら・うちごうどおり/うちごう/くぼ							
書名	船原・内郷通/内郷/窪							
副書名	自転車歩行者道路整備工事関係埋蔵文化財発掘調査報告							
シリーズ名	埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書							
シリーズ番号	第388集							
編著者名	山本 禎							
編集機関	財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団							
所在地	〒369-0108 埼玉県熊谷市船木台四丁目4番地1 TEL 0493-39-3955							
発行年月日	西暦2012(平成24)年3月23日							
ふりがな 所取遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ふなはら 船原・内郷通 遺跡 (第20次)	埼玉県 行田市 市渡柳 451-1番地 他	11206	109	36°06'51"	139°28'55"	20100401 ～ 2010052	280	自転車歩 行者道整 備
うちごう 内郷遺跡 (第11～13次)	埼玉県 行田市 市渡柳 451-1番地 他	11206	104	36°06'49"	139°28'49"	20100401 ～ 2010052	120	
	行田市 市渡柳 636-4番地 他					20101001 ～ 20100131	1,710	
くぼ 窪遺跡 (第1次)	埼玉県 北本 市石戸宿 1丁目427外	11233	088	36°00'32"	139°31'07"	20100803 ～ 20100930	588	道路整備
	埼玉県 桶川市 川田 谷6.659	11231	185					

所 取 遺 跡	種 別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
船原・内郷通遺跡 (第20次)	集落	縄文時代	土壇 4基 ピット 14基	縄文土器 土師器・須恵器	
		奈良・平安時代	竪穴住居跡 1軒 溝跡 4条		
		中・近世	ピット 2基		
内郷遺跡 (第11～13次)	集落	縄文時代	ピット 2基	縄文土器	井戸跡・溝跡に板碑が投棄されていた。
		奈良時代	竪穴住居跡 2軒	土師器	
		中・近世	掘立柱建物跡 1棟 竪穴状遺構 1基 土壇 71基 井戸跡 14基 溝跡 31条 ピット 多数	陶磁器 板碑	
窪遺跡 (第1次)	集落	中・近世	土壇 23基 溝跡 10条 ピット 109基	陶磁器 古銭	
要 約	<p>船原・内郷通遺跡、内郷遺跡は、埼玉古墳群が立地する台地が南に延びた先端に位置している。調査地点の標高は18m程である。今回の調査では、奈良時代の竪穴住居跡が3軒出土した。竪穴住居跡は同時期で、同一集落と考えられるが、集落の構成などは不明である。中・近世では土壇・井戸跡・溝跡と多くのピットが検出された。主に溝跡から古墳時代前期の土師器、中・近世の陶磁器類や在産土器が出土した。また、井戸跡や溝跡からは、中世の供養塔である板碑が投棄された状態で出土している。</p> <p>窪遺跡は、大宮台地の西縁を流れる荒川とその支流の江川によって挟まれた台地上に立地している。調査区の標高は22mから24.5mで、北から南に向かって緩やかに傾斜している。今回の調査で検出された遺構はほとんど近世のものであるが、C区の箱葉研形の溝跡からは古瀬戸が出土しており、一部は鎌倉時代まで遡る可能性がある。</p>				

財団法人埼玉埋蔵文化財調査事業団報告書 第388集

船原・内郷通／内郷／窪

自転車歩行者道整備工事関係
埋蔵文化財発掘調査報告

平成24年3月14日 印刷

平成24年3月23日 発行

発行／財団法人 埼玉埋蔵文化財調査事業団
〒369-0108 埼玉県熊谷市船木台四丁目4番地1

電話 0493(39)3955

<http://www.saimaibun.or.jp>

印刷／山進社印刷株式会社